理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第四十條　組合ノ事務ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第四十一條　組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第四十二條　組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事ハ之ヲ專決スルコトヲ得

第四十三條　前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十四條　規約變更ノ認可アリタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ公示スヘシ

第四十五條　理事ハ規約財產目錄事業報告書組合原簿及組合會ノ會議錄ヲ事務所ニ備フヘシ

組合員カ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十六條　第二十三條、第二十六條及第三十七條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

第四節　財務

第四十七條　組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十八條　組合ハ每會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第四十九條　組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ體積費ヲ設クルコトヲ得

第五十條　組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第五十一條　組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限トシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

第五十二條　組合ハ保險料率ヲ變更セントスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條　組合ハ少クトモ保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度（既往ノ年度未滿ナルトキハ既往年度）ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄每年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額）ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度內ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十四條　準備金其ノ他財產ノ管理方法ノ要綱ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十五條　組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及前項ノ一時借入金ハ當該會計年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第一項ノ一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ每年度監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條　組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十七條　組合ハ重要ナル財產ノ處分ヲ爲サントスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五節　分合解散

第五十八條　組合ハ合併又ハ分割ヲ爲サントスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ

第五十九條　組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業所ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

第六十條　分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存續スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第六十一條　合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十二條　分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十三條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十四條　組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ厚生大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存續スル組合ニ付左ニ揭クル事項ヲ告示スヘシ

一　組合ノ名稱
二　事務所ノ所在地
三　組合ノ設立ア ル事業所ノ名稱及所在地
四　認可ノ年月日

第六十五條　第十八條乃至第二十條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ之ヲ準用ス

合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タリシ者之ヲ行フ

第六十六條　組合ハ解散ヲ爲サントスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ厚生大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十七條　組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時的ナル場合ニ於テハ解散スルコトナシ

第六十八條　組合解散シタルトキハ厚生大臣ハ第六十四條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十九條　組合ノ設立ア ル事業所ヲ增減セントスルトキハ組入又ハ創除セラルヘキ事業所ノ事業主ノ全部及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

編入又ハ創除セラルヘキ事業所ノ事業主ノ全部及其ノ事業所ニ使用セラルル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

項ノ被保險者ノ同意ハ各事業所ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ職員健康保險法第十九條第一項又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ヲ爲スト同時ニ事業所編入ニ關スル規約變更ノ認可ノ申請ヲ爲スト場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第七十條　事業所ノ創除ヲ爲ス場合ニ於テハ創除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第七十一條　組合ハ第六十九條ノ同意ヲ求メントスルトキハ事業所ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十三號各號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業所ノ創除ノ場合ニ在リテハ創除ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ編入又ハ創除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送付スヘシ

第六節　監督

第七十二條　厚生大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以內ニ議員ノ選定及選擧ヲ爲スヘシ

第七十三條　職員健康保險法第四十三條ノ規定ニ依リ解散セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得ス

第七十四條　第二十五條第三項、第四十一條、第四十八條第一項、第五十二條、第五十五條第三項、第五十六條及第五十七條ニ於テ監督官廳トアルハ保險院長官トス

第四章　保險給付

第七十五條　職員健康保險法第四十七條第一項ノ療養費ヲ支給スヘキ療養ノ範圍ハ左ノ如シ

一　診察
二　藥劑又ハ治療材料ノ支給
三　處置手術其ノ他ノ治療
四　診療所收容
五　看護
六　移送

前項第三號ノ療養ハ緊急ノ場合其ノ他保險者カ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓以下ノモノニ限ル

第一項第四號乃至第六號ノ療養ハ保險者カ必要アリト認ムルモノニ限ル

第七十六條　療養費ノ額ハ療養ニ要スル費用ノ十分ノ六乃至十分ノ八ノ範圍內ニ於テ厚生大臣ノ定ムル割合ヲ標準トシテ算定シタル額トス

前項ノ療養ニ要スル費用ハ厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算定ス

特別ノ事由ア ル場合ニ於テハ職員健康保險組合ハ前項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　被保險者カ保險指者ノ定シタル醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テハ保險者ハ其ノ被保險者カ當該醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ對シ支拂フヘキ療養ニ要シタル費用ニ付療養費トシテ被保險者ニ對シ支給スヘキ額ノ限度ニ於テ被保險者ニ代リ當該醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ對シ之ヲ支拂フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ對シ費用ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ其ノ限度ニ於テ被保險者ニ對シ療養費ヲ支給シタルモノト看做ス

被保險者カ保險者ノ指定シタル醫師、齒科醫師又ハ藥劑師以外ノ者ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於ケル療養費ノ支給方法ハ厚生大臣之ヲ定ム

第七十八條　保險者カ診療所ヲ有スルトキ其ノ他保險者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ職員健康保險法第四十七條第三項ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ニ代ヘテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ保險者カ職員健康保險組合ナルトキハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七十九條　職員健康保險法第四十七條第三項ノ規定ニ依リ徵收スル一部負擔金ノ額ハ療養ノ給付ニ要スル費用ノ十分ノ二乃至十分ノ四ノ範圍內ニ於テ厚生大臣ノ定ムル割合ヲ標準トシテ算定シタル額トス

第八十條　診療所ニ收容セラレタル被保險者ニ對シ支給スヘ

キ傷病手當金ハ專ラ其ノ者ニ依ル生計ヲ維持スル者ナキ場合ニ於テハ標準報酬日額ノ百分ノ二十ニ相當スル金額トス

第八十一條 職員健康保險組合ハ職員健康保險法第四十九條第三項ノ規定ニ依リ傷病手當金ノ支給ノ時期ヲ短縮シ又ハ廢スル場合ニ於テハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八十二條 出產手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日後四十二日以內ニ於テ勞務ニ服セサリシ期間之ヲ支給ス

分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ保險者ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以內延長スルコトヲ得

第八十三條 產院ニ收容シ又ハ助產ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シ支給スヘキ分娩費ノ額ハ十圓トス

第八十條ノ規定ハ產院ニ收容シタル被保險者ニ對シ支給スル出產手當金ニ之ヲ準用ス

第八十四條 分娩ニ關スル保險給付ハ分娩前一年以內ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス

職員健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニシテ同法第十九條ノ認可アリタル際健康保險ノ被保險者タリシモノニ關シテハ前項ノ期間ノ計算ニ付健康保險ノ被保險者タリシ期間ヲ合算ス

第八十五條 職員健康保險法第五十六條ノ規定ニ依ル保險給付ハ被保險者ノ資格喪失ノ日前六月以上引續キ被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス

第八十六條 職員健康保險法第五十八條ノ規定ニ依ル期間ハ之ヲ六月トス

第八十七條 職員健康保險法第五十六條乃至第五十八條ノ規定ニ該當スル被保險者タリシ者カ健康保險又ハ船員保險ノ被保險者ト爲リタル場合ニ於テ健康保險法、船員保險法又ハ船員法ニ於テ職員健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ト同種ノ給付ヲ爲ストキハ職員健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ハ之ヲ爲サス

第八十八條 保險者ハ職員健康保險法第六十條ノ規定ニ依リ哺育上ノ手當、哺育手當金ノ支給其ノ他厚生大臣ノ定ムル給付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル給付ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第八十九條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ職績シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出產手當金ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ報酬ノ額カ傷病手當金又ハ出產手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第九十條 前條ニ揭クル者カ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ニ付其ノ全額ヲ受クルコト能ハサリシトキハ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全額、其ノ一部ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ於テ受ケタル額カ傷病手當金又ハ出產手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ額ト傷病手當金又ハ出產手當金トノ差額ヲ支給ス但シ前條但書ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ一部ヲ受ケタルトキハ其ノ額ヲ支給額ヨリ控除ス

第九十一條 第八十三條第二項ノ規定ハ職員健康保險法第六十五條第二項ニ揭クル者ニ對シ支給スヘキ出產手當金ニ之ヲ準用ス

第九十二條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者ニ對シテハ保險者ハ六月以內ノ期間ヲ定メ其ノ者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ決定ハ保險者ニ於テ其ノ事實ヲ知リタルトキ遲滯ナク之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ

第五章 費用ノ負擔

第九十三條 職員健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ厚生大臣カ大藏大臣ト協議シテ定ムル金額ニ其ノ組合ノ被保險者ノ員數ヲ乘シテ得タル額トス

前項ノ被保險者ノ員數ハ其ノ年度內ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ總數ノ平均數トス

第九十四條 職員健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

前項ノ概算拂ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第九十五條 保險料額ハ毎月ニ付各被保險者ノ標準報酬月額ニ保險料率ヲ乘シテ得タル額トス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル日カ十六日以後ナル場合又ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日カ二日以後十六日以前ナル場合ニ於テハ其ノ月分ノ保險料額ハ之ヲ半額トス

被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ間ニ於ケル保險料額ハ被保險者タリシ日數カ十六日以上ナルトキハ其ノ月分ノ保險料額ノ全額、十五日以內ナルトキハ其ノ半額トス

第九十六條 職員健康保險法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ニ關スル保險料ハ其ノ被保險者ト爲リタル日カ十七日以後ナルトキハ其ノ翌月ヨリ、十六日以前ナルトキハ其ノ月ヨリ之ヲ算定ス

前項ノ場合ニ於テ每月ノ保險料ノ算定方法ハ前條ノ例ニ依ル但シ前項後段ノ場合ニ於テ被保險者ト爲リタル日カ二日以後十六日以前ナルトキハ其ノ月分ノ保險料額ハ保險料月

額ノ半額トス

第九十七條　保險料率ハ保險者之ヲ定ム

保險料率ハ各被保險者ニ付同一ナルコトヲ要ス

第九十八條　標準報酬ノ等級カ第一級ニ該當スル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔額ハ標準報酬ノ等級カ第二級ニ該當スル被保險者ニ關スル保險料ニ付事業主ノ負擔スヘキ額ト同額トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場合ニ於テハ事業主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第九十九條　被保險者カ職員健康保險法第六十五條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其ノ日カ其ノ屬スル月ノ全日數ニ亙ル場合ニ於テハ其ノ月分ノ保險料額ノ全額ヲ、其ノ屬スル月ノ全日數ニ亙ラサルモ十五日以上ナル場合ニ於テハ其ノ月分ノ保險料額ノ半額ヲ徵收セス

第百條　事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ場合ニ於テハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第百一條　事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被保險者ノ請求ニ應シテ閱覽セシムヘシ

第百二條　每月ノ保險料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

保險者ハ保險料ノ納入ノ告知ヲ爲シタル後ニ於テ告知シタル保險料額カ當該納付義務者ノ納付スヘキ保險料額ヲ超過スルコトヲ知リタルトキハ其ノ超過部分ニ對スル納入ノ告知ハ其ノ告知ヲ爲シタル後六月以內ノ期日ニ於テ納付セラルヘキ保險料ニ對シ納期ヲ繰上ケ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ納期ヲ繰上ケ納入ノ告知ヲ爲シタルモノト看做シタルトキハ保險者ハ其ノ旨ヲ當該納付義務者ニ通知スヘシ

第百三條　職員健康保險組合ハ第百條又ハ前條ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第百四條　保險料納付義務者カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ納期前ト雖モ保險料ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一　國稅、府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ

二　被保險者ノ使用セラルル事業所ヲ廢止シタルトキ

三　强制執行ヲ受ケタルトキ

四　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五　競賣ノ開始アリタルトキ

六　法人カ解散ヲ爲シタルトキ

第六章　職員健康保險審査會

第一節　組織

第百五條　職員健康保險審査會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ職員健康保險法第八十一條及第八十三條ノ審査ヲ爲ス

第百六條　職員健康保險審査會ハ第一次職員健康保險審査會及第二次職員健康保險審査會トス

第一次職員健康保險審査會ノ管轄區域ハ道府縣ノ區域トシ第二次職員健康保險審査會ノ管轄區域ハ全國ノ區域トス

職員健康保險審査會ノ名稱及位置ハ厚生大臣之ヲ定ム

第百七條　職員健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第百八條　第一次職員健康保險審査會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ第二次職員健康保險審査會ノ會長ハ保險院長官ヲ以テ之ニ充ツ

第百九條　第一次職員健康保險審査會ノ委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　官吏、公吏又ハ學識經驗アル者　二人又ハ三人

二　被保險者ヲ使用スル事業主　二人又ハ三人

三　被保險者　二人又ハ三人

第二次職員健康保險審査會ノ委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　官吏公吏又ハ學識經驗アル者　五人

二　被保險者ヲ使用スル事業主　五人

三　被保險者　五人

第一項第一號ノ規定ニ依ル委員中一人ハ地方長官ト雖同項ノ委員ハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第一項及第二項ニ於テ被保險者ヲ使用スル事業主トアルハ事業主カ法人ナル場合ニ於テハ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ支配人トス

第百十條　廳府縣（東京府ヲ除ク以下之ニ同シ）ノ官吏ニシテ主トシテ職員健康保險ノ事務ニ從事スル者ハ職員健康保險審査會ノ委員タルコトヲ得ス

職員健康保險審査會ノ委員ハ他ノ職員健康保險審査會ノ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第百十一條　第一次職員健康保險審査會ノ委員ハ地方長官タル委員ヲ除クノ外厚生大臣之ヲ命シ第二次職員健康保險審査會ノ委員ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第百十二條　委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏ニシテ委員タルモノヲ除クノ外三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第百十三條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ第一次職員健康保險審査會ニ在リテハ地方長官ノ、第二次職員健康保險審査會ニ在リテハ厚生大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百十四條　職員健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク

第八次職員健康保險審査會ノ幹事ハ其ノ審査會ノ所在地ヲ管轄スル廳府縣ノ官吏中ヨリ厚生大臣之ヲ命シ第二次職員健康保險審査會ノ幹事ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ厚生部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第百十五條　職員健康保險審査會ニ書記ヲ置ク

第一次職員健康保險審査會ノ書記ハ其ノ審査會ノ所在地ヲ管轄スル廳府縣ノ判任官中ヨリ地方長官之ヲ命シ第二次職員健康保險審査會ノ書記ハ保險院ノ判任官中ヨリ厚生大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二節　審査ノ手續

第百十六條　保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次職員健康保險審査會ニ審査ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ保險給付ニ關スル決定ヲ爲シタル地方長官又ハ職員健康保險組合ノ管轄區域又ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル職員健康保險審査會ニ之ヲ爲スヘシ

第百十七條　審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第百九條第一項又ハ第二項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再同ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百十八條　審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第百十九條　審査ハ文書ニ拠キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第百二十條　審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ職員健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ之ヲ所轄職員健康保險審査會ニ移送スヘシ

審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ職員健康保險審査會之ヲ補正セシムヘシ

第百二十一條　審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス傍聽ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第百二十二條　關係官吏ハ職員健康保險審査會ノ請求ニ依リ

又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第百二十三條　事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第百二十四條　審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第百二十五條　審査請求人カ審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第百二十六條　本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十四年十二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ職員健康保險法中保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年四月一日ニ於テ現ニ被保險者ノ資格ヲ有スル者ニ對スル標準報酬ハ第四條第一項但書ノ規定ニ拘ラス昭和十五年四月一日ノ現在ニ在リ之ヲ定ム但シ其ノ者カ昭和十五年四月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ノ資格ヲ取得シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

昭和十五年六月一日迄ニ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シ定メタル標準報酬ハ第四條第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ定メル日ヨリ昭和十六年七月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス但シ其ノ者カ昭和十五年六月二日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ノ資格ヲ取得シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

職員健康保險法施行規則

厚生省令第四十二號（昭和十四年十二月二十六日）

職員健康保險法施行規則左ノ通定ム

第一章　總　則

第一條　政府ノ管掌スル保險ハ職員健康保險法（以下法ト稱ス）第十八條、法第二十條又ハ法第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ使用セラルル事業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ニ於テ、法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ニ於テ之ヲ掌ル

第二條　被保險者カ同時ニ二以上ノ事業所ニ使用セラルル場合ニ於テ保險者カ二以上アルトキ又ハ其ノ使用セラルル事業所カ異リタル道府縣ニ在ルトキハ被保險者ハ其ノ保險ヲ掌ルヘキ地方長官又ハ職員健康保險組合（以下組合ト稱ス）ヲ定メ其ノ旨ヲ其ノ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

地方長官又ハ組合ハ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ關係アル地方長官又ハ組合ニ之ヲ通知スヘシ

第三條　事業主ハ毎年六月一日現在ニ依リ被保險者ノ報酬月額算定ノ基礎ヲ樣式第一號ニ依リ同月十日迄ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

職員健康保險法施行令（以下令ト稱ス）第四條第四項ノ規定ニ依リ組合カ別段ノ定ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業主ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ屆出ツヘシ

第四條　被保險者ノ報酬カ其ノ增減アリタルニ因リ從前ノ報酬月額ニ基キ定メラレタル標準報酬ニ該當セサルニ至リタルトキハ事業主ハ樣式第一號ニ準シ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

第五條　前二條第十八條第一項又ハ第十九條ノ規定ニ依ル屆出アリタルトキハ地方長官又ハ組合ハ被保險者ノ標準報酬ヲ決定シ遲滯ナク之ヲ事業主ニ通知スヘシ標準報酬ヲ變更シタルトキ亦同シ

事業主ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ被保險者ニ告知スヘシ

第六條　組合ハ保險料其ノ他法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收セントスルトキハ徵收スヘキ金額ヲ決定シタル上納付義務者ニ對シ其ノ徵收金ノ種類竝ニ納付スヘキ令額期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ即納セシムル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第七條　法第十條ノ規定ニ依ル質問又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ樣式第二號ニ依ル證票ヲ携帶スヘシ

第八條　法第十一條ノ規定ニ依リ左ニ揭クル職權ヲ地方長官ニ委任スル但シ本令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　法第十九條第一項、法第二十一條第一項及法第二十六條第一項ノ規定ニ依ル職權（組合ノ設立、解散又ハ規約ノ變更ヲ伴フ場合ヲ除ク）

二　法第四十一條ノ規定ニ依ル職權中組合ニ對シ其ノ事業及財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ狀況ヲ檢查スル職權及法第四十二條第一項ノ規定ニ依ル職權（組合カ二以上ノ道府縣ニ跨ル場合ヲ除ク）

第九條　令第六條第一項ノ規定ニ依リ發スル督促狀ハ樣式第三號ニ依ル

第十條　廳府縣（東京府ヲ除ク以下之ニ同シ）ノ官吏カ滯納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テ示スヘキ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ハ樣式第四號ニ依ル

第十一條　法第十五條ノ規定ニ依ル公告ハ道府縣廳（東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同シ）、職員健康保險ノ事務ヲ分掌スル廳府縣出張所（以下出張所ト稱ス）又ハ組合ノ事務所ニ之ヲ爲スヘシ

第十二條　令第百一條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ事業所毎ニ之ヲ備フヘシ

一　被保險者ノ氏名

二　控除シタル保險料ノ金額

三　控除シタル年月日

第十三條　事業主ハ職員健康保險ニ關スル書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ二年間保存スヘシ

第十四條　第三條、第四條、第五條第一項、第十八條、第十九條、第二十五條第一項、第二十七條、第二十八條、第二十九條第一項及第二項、第三十二條第三項及第五項、第三十三條第二項及第三項、第六十一條第二項、第六十二條、第六十三條、第六十五條第二項及第六十六條ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スヘキ事項ニ付テハ事業主ハ豫メ代理人ヲ選任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

事業主ハ前項ノ規定ニ依リ代理人ヲ選任シタルトキハ地方長官又ハ組合ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第十五條　事業主カ厚生大臣又ハ保險院長官ニ提出スヘキ書類ハ其ノ事業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ組合カ厚生大臣又ハ保險院長官ニ提出スヘキ書類ハ其ノ事務所（事務所ニ以上アル場合ハ主タル事務所）ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スルヘシ

第十六條　事業主ハ被保險者ハ地方長官又ハ組合ニ對シ屆出、申請又ハ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ樣式ノ定アルモノヲ除キ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ屆書、申請書又ハ請求書ニ添附スヘキ書類ハ屆出、申請又ハ請求ノ際之ヲ提出スヘシ但シ地方長官又ハ組合ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

口頭ヲ以テ屆出、申請又ハ請求シタル者ナル場合ニ於テ地方長官又ハ組合ハ必要アリト認ムルトキハ其ノ屆出、申請又ハ請求ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名調印セシムヘシ

第十七條　法第七十一條第二項ノ規定ニ依ル利用料ニ關スル事項ハ保險者之ヲ定ム

保險者カ組合ナル場合ニ於テハ前項ノ利用料ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章　被保險者

第十八條　被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ナルトキハ事業主ハ樣式第五號ニ依リ五日以內ニ之ヲ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

第十九條　法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者カ法第十八條、法第二十條又ハ法第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者トナリタルトキハ事業主ハ樣式第五號ニ準シ五日以內ニ之ヲ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

第二十條　被保險者ハ同時ニ二以上ノ事業所ニ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ各事業所ニ付左ニ揭クル事項ヲ十日以內ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

一　事業主ノ氏名及住所
二　事業所ノ名稱及所在地

第二十一條　法第十九條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

一　事業ノ種類
二　事業所ノ名稱及所在地
三　被保險者ト爲ルヘキ者ノ員數
四　健康保險ノ被保險者トシテノ記號（被保險者ト爲ルヘキ者カ現ニ健康保險組合ノ組合員ナルトキハ其ノ組合ノ名稱及所在地）

法第十九條第一項ノ認可ノ申請ト同時ニ其ノ事業所ニ付組合ノ設立又ハ事業所ノ編入ニ關スル規約變更ノ認可申請アル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二十二條　前條ノ規定ハ法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ認可申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　法第二十六條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

一　事業所ノ名稱所在地及被保險者證ノ記號
二　被保險者ノ員數
三　組合ノ設立アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ名稱及所在地

立ニ其ノ組合カ解散スヘキモノナルトキハ其ノ旨

第二十四條　法第二十七條ノ規定ニ依リ標識シテ被保險者ト爲ルコトノ申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　住所
二　資格喪失ノ年月日
三　資格喪失ノ際使用セラレタル事業所ノ名稱及被保險者證ノ記號
四　資格喪失後標識シテ保險給付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル年月日
五　令第十一條第一項ノ期間經過後申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由
六　資格喪失ノ際屬シタル廳府縣（出張所ノ分掌ニ屬シタルトキハ其ノ出張所又ハ組合ノ名稱

第二十五條　被保險者カ法第六十五條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セサルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ揭タル事項ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

一　被保險者ノ氏名
二　被保險者證ノ記號及番號
三　該當ノ事實及該當シ又ハ該當セサルニ至リタル年月日

法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者又ハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受クル者カ法第六十五條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セサルニ至リタルトキハ其ノ

者ニ於テ前項ノ例ニ依リ屆出ツヘシ

第二十六條　事業主ニ變更アリタルトキハ事業主及事業主タリシ者ハ連署ヲ以テ左ニ揭クル事項ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

一　事業所ノ新舊名稱
二　事業所ノ所在地及被保險者證ノ記號
三　變更ノ年月日及事由
四　事業主及事業主タリシ者ノ氏名及住所

第二十七條　法第十八條ニ規定ル事業所カ法第二十三條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ揭クル事項ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

一　事業所ノ名稱
二　被保險者證ノ記號
三　該當スルニ至リタル年月日及事由

第一項ノ場合ニ於テ保險者ニ變更アリタルトキハ屆出ヲ受ケタリ保險者ハ從前ノ保險者ニ對シ被保險者ノ勤務スル事務所ニ變更アリタル旨及變更ノ年月日ヲ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ返納アリタル保險者證ヲ添附スヘシ

第三十條　法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ新舊ノ氏名又ハ住所及變更ノ年月日ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

一　事業ノ種類
二　事業主ノ氏名又ハ住所
三　事業所ノ名稱又ハ所在地

被保險者ノ氏名

前項ノ記定ハ日給ヲ受クル被保險者カ日給以外ノ報酬ヲ受クルニ至リタル場合又ハ日給以外ノ報酬ヲ受クル被保險者カ日給ヲ受クルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　事業主ニ變更アリタルトキハ事業主及事業主タリシ者ハ連署ヲ以テ左ニ揭クル事項ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

一　事業所ノ名稱
二　被保險者證ノ記號
三　該當スルニ至リタル年月日及事由

第三十三條乃至第三項及第六項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條第一項乃至第三項及第六項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

六　報酬ニ異動アリタルトキハ其ノ內容（樣式第五號「報酬月額算定基礎」欄ノ記載ニ準ス）

四　變更後ノ事業所ノ名稱及所在地
五　變更シタル年月日

三　變更前ノ事業所ノ名稱及所在地
二　被保險者證ノ記號番號
一　被保險者ノ氏名

地ヲ管轄スル地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

第二十九條　事業主ハ被保險者ノ勤務スル事務所ヲ變更シタルトキハ左ニ揭クル項ヲ五日以內ニ變更後ノ事業所ノ所在

● 被保險者（組合ニ屬スル者ヲ除ク）カ道府縣ニ渉リ住所地

ヲ變更シタルトキハ前項ノ屆出ハ變更後ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第三十一條 第十八條第一項、第十九條又ハ第二十九條第一項ノ規定ニ依ル屆出アリタルトキハ地方長官又ハ組合ハ其ノ被保險者ノ被保險者證ノ記號及番號ヲ遞滯ナク事業主ニ通知スヘシ其ノ記號又ハ番號ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十二條 地方長官又ハ組合ハ樣式第七號ニ依ル被保險者證ヲ被保險者ニ交付スヘシ

地方長官又ハ組合ハ被保險者證ヲ交付セントスルトキハ之ヲ被保險者ヲ使用スル事業主ニ送付スヘシ但シ法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ナル場合ニ於テハ之ヲ被保險者ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ送付アリタルトキハ事業主ハ遞滯ナク之ヲ被保險者ニ交付スヘシ

被保險者ノ氏名又ハ事業所ノ名稱若ハ所在地ニ變更アリタルトキハ被保險者證ノ改訂ヲ受クル爲被保險者ハ遞滯ナク之ヲ事業主ニ提出スヘシ被保險者證ノ記號又ハ番號ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ提出アリタルトキハ事業主ハ遞滯ナク其ノ改訂ヲ爲シ之ヲ被保險者ニ返付スヘシ

法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者（組合ニ屬スル者ヲ除ク）ハ道府縣ニ渉リ住所ヲ變更シタルトキハ遞滯ナク被保

險者證ヲ變更後ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ニ提出シテ其ノ改訂ヲ受クヘシ

被保險者證ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ被保險者證ニ餘白ナキニ至リタルトキハ被保險者ハ遞滯ナク被保險者證ヲ添ヘ（滅失ノ場合ヲ除ク）其ノ旨ヲ地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

第三十三條 被保險者法（第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ除ク）ハ其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ保險者ニ變更アリタルトキハ其ノ被保險者證ヲ遞滯ナク事業主ニ提出スヘシ但シ第六十條第一項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ提出スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被保險者（法第二十七條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ除ク）カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ保險者ニ變更アリタルトキハ事業主ハ遞滯ナク被保險者證ヲ同牧シ之ヲ地方長官又ハ組合ニ返納スヘシ

被保險者ノ資格喪失ニ因リ事業主ノ返納スヘキ被保險者證ハ之ヲ資格喪失屆ニ添附スヘシ但シ已ムヲ得サリ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ資格喪失屆ニ附記スヘシ第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返納シ能ハサルトキ亦同シ

法第二十七條ノ規定ニ依リ被保險者カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ保險者ニ於テ

被保險者證ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ハ返納スヘシ

第六十條第一項ニ揭ケル者カ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ者ニ於テ被保險者證ヲ五日以內ニ地方長官又ハ組合ニ返納スヘシ

第一項若ハ第二項ノ資格喪失ノ原因死亡ナルトキ又ハ第一項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ提出スヘキ者若ハ第二項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返納スヘキ者カ死亡シタルトキハ埋葬料又ハ法第五十一條第二項若ハ法第五十七條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ請求ノ際被保險者證ヲ地方長官又ハ組合ニ返納スヘシ

第三章 職員健康保險組合

第三十四條 組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ但シ法第三十七條ノ規定ニ依リ組合設立ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五號及第六號ノ書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

一 規約

二 事業計畫書

三 保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面

四 初年度ノ收入支出ノ豫算

五 令第十條ノ書面ノ寫（被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト）

六 組合ノ設立ニ付法第三十四條第一項ノ同意アリタルコトヲ證ムルニ足ル書類

第三十五條 法又ハ法ニ基ク命令ニ依リ組合ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項カ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ申請書ニ其ノ會議錄ノ寫ヲ添附スヘシ

認可申請ヲ爲スヘキ事項カ令第四十二條ノ規定ニ依リ理事專決シタルモノナルトキハ申請書ニ專決ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條 組合合併ノ認可申請書ニハ合併スル各組合ノ名稱及被保險者ノ數竝ニ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立スル組合ノ名稱ヲ記載シ左ニ揭ケル書類ヲ添付スヘシ

一 合併後ニ於ケル事業計畫書

二 認可申請前一月以內ノ現在ニ於テ調製シタル各組合ノ財產目錄

三 合併ニ因リテ成立スル組合アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ規約、保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面竝ニ初年度ノ收入支出ノ豫算

合併後存續スル組合アル場合ニ於テハ合併ニ伴フ規約變更ノ認可申請ハ合併ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 組合分割ノ認可申請書ニハ分割後存續スル組合、及分割ニ因リテ成立スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數

ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一　分割後ニ於ケル各組合ノ事業計畫

二　認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル分割スル組合ノ財產目錄

三　分割後ニ因リテ成立スル組合ノ永續スル標準義務ノ限度ヲ示シタル書面

四　分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面竝ニ初年度ノ收入支出ノ豫算

前條第二項ノ規定ハ分割後存續スル組合ノ分割ニ伴フ規約變更ノ認可申請ニ之ヲ準用ス

第三十八條　組合解散ノ認可申請書ニハ解散スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第三十九條　被保險者タル組合員常時ナキニ至リタル爲組合解散シタルトキハ其ノ事由、組合ノ名稱及解散ノ年月日ヲ理事タリシ者ニ於テ遲滯ナク厚生大臣ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆書ニハ解散ノ日ノ現在ニ依リ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第四十條　組合ノ設立アル事業所ノ編入又ハ削除ニ關スル規約變更ノ申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一　規約變更後ニ於ケル事業計畫書

二　令第七十一條ノ書面ノ寫（被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スコトヲ認ムルニ足ル書類）

三　事業所ノ編入又ハ削除ニ付令第六十九條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類

第四十一條　組合カ合併又ハ分割シタル場合ニ於テハ理事又ハ理事タリシ者ハ其ノ組合員タリシ被保者ノ保險ヲ管掌スル組合ノ理事ニ對シ遲滯ナク其ノ事務ノ引繼ヲ爲シタル者及引繼ヲ受ケタル者ハ連署ノ上完了ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四十二條　前條ノ規定ハ組合カ解散シタル場合及組合カ其ノ組合ノ設立アル事業所ヲ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　組合會ノ會議錄ニハ議長及出席議員二人以上之ニ署名スヘシ

第四十四條　收入支出ノ豫算ハ樣式第八號ニ依リ之ヲ調製シ每年二月末日迄ニ認可申請ヲ爲スヘシ

第四十五條　保險料率ノ認可申請書ニハ計算ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添附スヘシ

第四十六條　決算ハ樣式第八號ニ依リ、事業報告ハ樣式第九號ニ依リ之ヲ調製シ年度經過後四月以内ニ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算及事業報告ハ組合會ノ認定ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ保險醫長官ニ屆出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ事業報告ヲ組合會ノ認定ニ付シ又ハ保險院長官ニ屆出ヅル場合ニ於テハ之ニ年度末現在ニ依リ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第四十七條　財產目錄ハ樣式第十號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四十八條　組合ハ事業報告ニ付組合會ノ認定ヲ經タルトキハ年度末現在ニ依リ調製シタル財產目錄ト共ニ之ヲ公示スヘシ

第四十九條　組合ハ樣式第十一號ニ依リ每月ノ事業狀況ヲ翌月十五日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

第五十條　組合原簿ハ樣式第十二號ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五十一條　組合ハ被保險者臺帳、歲入簿、歲出簿及現金出納簿ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第五十二條　組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムヘシ

第五十三條　理事長カ就職、退職又ハ死亡シタルトキハ組合ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四章　保險給付

第五十四條　被保險者ハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師（以下保險醫ト稱ス）ニ就キ診療ヲ受ケントスルトキハ其ノ都度被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提示スヘキ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提出スヘシ

前項ノ規定ハ被保險者カ保險者ノ指定シタル藥劑師（以下保險藥劑師ト稱ス）ニ就キ處方箋ニ依ル藥劑ノ支給ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ被保險者證ノ提示ヲ受ケタルトキハ保險醫又ハ保險藥劑師ハ所定ノ事項ヲ之ニ記入ノ上被保險者ニ返付スヘシ

第五十六條　療養費ノ支給ヲ受クル疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ其ノ事實、第三者ノ氏名及住所（氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨）竝ニ疾病又ハ負傷ノ狀況ヲ遲滯ナク地方長官又ハ組合ニ屆出ツヘシ

第五十七條　被保險者カ保險醫又ハ保險藥劑師ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テハ地方長官又ハ組合ハ令第七十七條第一項ノ規定ニ依リ其ノ被保險者ニ對シ支給スヘキ療養費ヲ當該保險醫又ハ保險藥劑師ニ對シ支拂フモノトス

前項ノ規定ニ依ル療養費支拂ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　被保險者ノ氏名

二　被保險者證ノ記號及番號

三　事業所ノ名稱及所在地
四　傷病名及發病又ハ負傷ノ年月日竝ニ原因
五　疾病又ハ負傷ノ經過
六　療養ノ開始日及期間
七　療養ノ內容
八　療養ニ要シタル費用ノ額

第五十八條　被保險者ハ保險醫又ハ保險藥劑師以外ノ者ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テ療養費ノ支給ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル療養費支給ノ申請書ヲ各月分ニ付翌月ト雖翌月十日迄ニ地方長官又ハ組合ニ提出スヘシ

一　前條第二項各號ニ揭クル事項
二　療養ヲ爲シタル者ノ氏名及住所
前項ノ申請書ニハ其ノ療養ニ要シタル費用ノ受領書其ノ他費用ノ額ニ關スル證憑書類竝ニ被保險者證ヲ添附スヘシ
前項ノ規定ニ依リ被保險者證ノ提出アリタルトキハ地方長官又ハ組合ハ所定ノ事項ヲ記入ノ上還滯ナク被保險者ニ還付スヘシ

第五十九條　被保險者ハ令第七十五條第一項第三號（一回ノ費用二十圓ヲ超ユル場合ニ限ル）乃至第六號ノ療養ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後還滯ナク申請書記載事項及已ムヲ得サル事項ヲ記載シタル屆書ヲ提出スヘシ

一　被保險者證ノ記號及番號
二　發病又ハ負傷ノ年月日及原因
三　勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
四　日給ヲ受クル被保險者ナルトキハ其ノ旨
五　被保險者カ診療所ニ收容セラレタルモノナルトキハ其ノ診療所ノ名稱、所在地、收容セラレタル年月日及期間竝ニ事ヲ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ其ノ者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄
六　傷病手當金カ令第八十九條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
七　傷病手當金カ令第九十條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ、受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間竝ニ令第八十九條但書ノ規定ニ依リ受ケタル傷病手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由

前項ノ請求書ニハ前項第三號ノ期間ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ證明書ヲ添附スヘシ

第六十二條　埋葬料支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬許證ノ寫死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主ノ證明書ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル被保險者ノ氏名竝ニ被保險者證ノ記號及番號
二　死亡ノ年月日及原因
三　死亡カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實竝ニ第三者ノ氏名及住所（氏名及住所不詳ナルトキハ其ノ旨）
四　被保險者ト請求者トノ續柄

第六十三條　法第五十一條第二項又ハ法第五十七條第二項ノ埋葬費支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫、死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主ノ證明書及埋葬ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ揭クル事項
二　埋葬ヲ行ヒタル年月日
三　埋葬ニ要シタル費用ノ額

第六十四條　分娩費支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ市町村長醫師又ハ產婆ニ於テ出產ハ又死產ノ事實ヲ證明シタル書類ヲ添附スヘシ

一　被保險者證ノ記號及番號
二　分娩ノ年月日
三　死產ナルトキハ其ノ旨
四　分娩費カ令第八十三條第一項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ收容セラレタル產院ノ名稱及所在地又ハ助產ノ手

記載スヘシ

一　被保險者證ノ記號及番號
二　發病又ハ負傷ノ年月日及原因
三　勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
四　日給ヲ受クル被保險者ナルトキハ其ノ旨
五　被保險者カ診療所ニ收容セラレタルモノナルトキハ其ノ診療所ノ名稱、所在地、收容セラレタル年月日及期間竝ニ事ヲ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ其ノ者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄
六　傷病手當金カ令第八十九條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
七　傷病手當金カ令第九十條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ、受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間竝ニ令第八十九條但書ノ規定ニ依リ受ケタル傷病手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由

前項ノ請求書ニハ前項第三號ノ期間ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ證明書ヲ添附スヘシ

第六十二條　埋葬料支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬許證ノ寫死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主ノ證明書ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル被保險者ノ氏名竝ニ被保險者證ノ記號及番號
二　死亡ノ年月日及原因
三　死亡カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實竝ニ第三者ノ氏名及住所（氏名及住所不詳ナルトキハ其ノ旨）
四　被保險者ト請求者トノ續柄

第六十三條　法第五十一條第二項又ハ法第五十七條第二項ノ埋葬費支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫、死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主ノ證明書及埋葬ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ揭クル事項
二　埋葬ヲ行ヒタル年月日
三　埋葬ニ要シタル費用ノ額

第六十四條　分娩費支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ市町村長醫師又ハ產婆ニ於テ出產ハ又死產ノ事實ヲ證明シタル書類ヲ添附スヘシ

一　被保險者證ノ記號及番號
二　分娩ノ年月日
三　死產ナルトキハ其ノ旨
四　分娩費カ令第八十三條第一項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ收容セラレタル產院ノ名稱及所在地又ハ助產ノ手

當ヲ爲シタル醫師若ハ產婆ノ氏名及住所

第六十五條　出產手當金支給ノ請求書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　被保險者證ノ記號及番號

二　分娩前ノ場合ニ於テハ分娩ノ豫定年月日、分娩後ノ場合ニ於テハ分娩ノ年月日

三　勞務ニ服セサリシ期間

四　被保險者カ產院又ハ診療所ニ收容セラレタルモノナルトキハ其ノ產院又ハ診療所ノ名稱所在地、收容セラレタル年月日及期間竝ニ專ラ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ其ノ者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄

五　出產手當金カ令第八十九條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間

六　出產手當金カ令第九十條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコトヲ能ハサリシ報酬ノ額及期間竝ニ令第八十九條但書ノ規定ニ依リ受ケタル出產手當金ノミ及報酬ヲ受クルコトヲ能ハサリシ事由

前項ノ請求書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　前項第三號ノ期間ニ關スル事業主ノ證明書

二　分娩ノ豫定年月日ニ關スル醫師又ハ產婆ノ意見書

第六十六條　第五十九條第二項、第六十一條第二項、第六十二條乃至第六十四條及第六十五條第二項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師若ハ產婆ノ意見書若ハ證明書又ハ事業主若ハ市町村長ノ證明書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ保險給付ノ請求書又ハ申請書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ意見書又ハ證明書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第六十七條　保險給付ヲ受ケントスル者ヨリ第六十一條第二項、第六十二條、第六十三條及第六十五條第二項ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキハ事業主又ハ第十四條ノ規定ニ依ル代理人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス前條ノ規定ニ依ル證明ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第六十八條　保險給付ヲ受ケントスル者ヨリ第五十九條第二項、第六十一條第二項若ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依ル意見書又ハ第六十四條ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキハ保險醫ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス第六十六條ノ規定ニ依ル意見書ハ證明ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第六十九條　地方長官又ハ組合ハ保險醫又ハ保險藥劑師ニ就キ被保險者ニ對シ爲シタル診療又ハ藥劑ノ支給ニ關シ、帳簿書類ヲ閱覽シ說明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

第七十條　組合ハ其ノ管掌スル保險ノ給付ニ關スル手續ニ付

第五十四條乃至第六十五條ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　本章ニ於テ被保險者トアルハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受クル者ヲ含ムモノトス

第五章　職員健康保險法第八十一條ノ審查手續

第七十二條　審查ノ請求ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ第一次職員健康保險審查會ニ對スル審查ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十三條　文書ヲ以テ審查ノ請求ヲ爲サントスル者ハ審查請求書ニ記名調印シ證據書類アルトキハ之ヲ添附シ當該職員健康保險審查會ニ提出スヘシ

第一次職員健康保險審查會ニ對スル審查請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　審查請求人ノ氏名住所及生年月竝ニ審查請求人カ被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ非サルトキハ其ノ職業及被保險者又ハ被保險者タリシ者トノ關係

二　被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名竝ニ保險事故發生ノ際其ノ使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地

三　保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ組合ノ名稱

四　保險給付ニ關スル處分ノ通知ヲ受ケタル年月日

五　請求ノ事件及一定ノ申立

六　請求ノ理由

七　立證

八　年月日

第二次職員健康保險審查會ニ對スル審查請求書ニハ前項第一號第二號及第六號乃至第八號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ第一次職員健康保險審查會ノ決定書又ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ

一　第一次職員健康保險審查會ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル年月日

二　第一次職員健康保險審查會ノ決定ニ對スル不服ノ程度及變更ノ申立

第七十四條　口頭ヲ以テ審查ヲ請求シタル者アルトキハ書記ハ前條第二項各號ノ事項ヲ記載シタル審查請求調書ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名誤印セシメ證據書類アルトキハ之ヲ提出セシムヘシ

前項ノ審查請求調書ニハ之ヲ作製シタル書記署名捺印スヘシ

第七十五條　職員健康保險審查會ハ審查ノ請求ヲ受ケタルトキハ保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ組合ニ對シ審查請求書又ハ審查請求書ノ寫ヲ送付スヘシ

地方長官又ハ組合ハ前項ノ審查請求書又ハ審查請求調書ノ寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ答辯書及證據書類ヲ

當該職員健康保險審査會ニ提出スヘシ

第七十六條　職員健康保險審査會ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シテ當事者ヨリ反駁書及答辯書ヲ提出セシムルコトヲ得

第七十七條　審査ノ決定書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　審査請求人ノ氏名住所及生年月

二　保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ組合ノ名稱

三　決定主文

四　決定ノ理由

五　年月日

前項ノ決定書ノ原本ニハ會長署名捺印スヘシ

第七十八條　職員健康保險審査會ハ前條ノ決定書ノ原版本ニ基キ正本副本各一通ヲ作製シ職員健康保險審査會ノ印ヲ押シテ遲滯ナク正本ハ之ヲ審請求人ニ交付シ副本ハ之ヲ關係アル地方長官又ハ組合ニ送付スヘシ

審査請求人ニ對シ決定書ヲ交付スルコトヲ得サルトキハ職員健康保險審査會ハ其ノ決定書ヲ揭示スヘシ

前項ノ揭示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ決定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第七十九條　審査請求人ハ職員健康保險審査會ニ對シ決定書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條、第四條、第十八條、第十九條、第二十五條第一項及第二十六條乃至第二十九條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ其ノ屆書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

二　第五條第二項ノ規定ニ依ル標準報酬ノ告知ヲ怠リタル者

三　正當ノ事由ナクシテ第六十七條ノ規定ニ依ル請求ニ應セス又ハ虛僞ノ證明ヲ爲シタル者

四　第十二條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ノ備付若ハ記載ヲ怠リ、虛僞ノ記載ヲ爲シ又ハ故ナク被保險者ニ對シ閱覽ヲ拒ミタル者

五　第十三條ノ規定ニ依ル書類ノ保存ヲ怠リタル者

第八十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二十條、第二十五條第二項、第三十條第一項、第五十六條及第六十條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ其ノ屆出書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

二　事業主以外ノ者ニシテ第二十九條第二項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納又ハ提出ヲ怠リタル者

三　第三十三條第四項乃至第六項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納又ハ同條第一項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ提出ヲ怠リタル者

第八十二條　廳府縣ノ職員、組合ノ職員若ハ役員又ハ其ノ職ニ在リタル者故サク第六十九條ノ規定ニ依ル閱覽、說明又ハ報告ニ關シ知得シタル醫師、齒科醫師若ハ藥劑師ノ業務上ノ秘密又ハ個人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第一條、第八條、第十三條、第十五條、第十六條、第二十一條乃至第二十三條、第二十七條、第三十四條乃至第五十三條、第七十條及第八十條ノ規定ハ昭和十四年十二月二十六日ヨリ、第二條乃至第五條、第七條、第十四條、第十八條乃至第二十條、第二十四條乃至第二十六條、第二十八條乃至第三十三條及第八十一條ノ規定ハ昭和十五年四月一日ヨリ、第六條、第九條乃至第十二條、第十七條、第五十四條乃至第六十九條、第七十一條乃至第七十九條及第八十二條ノ規定ハ職員健康保險法中保險給付、保健施設及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條第一項ノ規定ニ依ル屆出ノ期間ハ昭和十五年四月一日以前ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ關シテハ昭和十五年四月一日ヨリ五日以內トス

（樣式省略）

職員健康保險ノ被保險者タラサル者ニ關スル件

厚生省令第三號（昭和十五年二月十六日）

職員健康保險ノ被保險者タラサル者ニ關スル件左ノ通定ム

職員健康保險ノ被保險者タラサル者ニ關スル件

職員健康保險法施行令第九條第四號ノ規定ニ依リ被保險者タラサル者ヲ指定スルコト左ノ如シ

一　臨時的事業ノ事業所ニ作用セラルル者但シ繼續シテ六月ヲ超エ作用セラルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

工業勞働者最低年齡法

法律第三十四號（大正十二年三月三十日）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル工業勞働者最低年齡法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業勞働者最低年齡法

第一條　本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ揭クル事業ヲ謂フ

一　鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二　物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ

爲ニスル仕上、破壞若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）

三　土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事

四　道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五　船舶、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條　十四歳未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ作用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條　十六歳未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住居、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備付アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第五條　工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　使用營業者ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條　使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條　法人ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條　本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

工業勞働者最低年齡法施行規則

內務省令第十四號（大正十五年六月七日）

工業勞働者最低年齡法施行規則左ノ通定ム

工業勞働者最低年齡法施行規則

第一條　工業勞働者最低年齡法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條　工業勞働者最低年齡法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歷ニ付テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ教科ヲ修了リサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條　工業勞働者最低年齡法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ工業勞働者最低年齡法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

危險物取締規則

警視廳令第六號（昭和十一年四月一日）

危險物取締規則左ノ通定ム

危險物取締規則

第一條　本令ニ於テ危險物ト稱スルハ別表ニ定ムルモノヲ謂フ

第二條　貯藏所ヲ別チテ大量貯藏所及小量貯藏所トス

大量貯藏所トハ別表第一數量以上ノ貯藏ヲ爲シ又ハ十二時間以內ニ同一數量以上ノ詰換ヲ爲ス場所ヲ謂ヒ、小量貯藏所トハ別表第二數量以上ノ貯藏ヲ爲シ又ハ十二時間以內ニ同一數量以上ノ詰換ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第三條　本令ニ依リ未成年者又ハ禁治產者ノ爲ス願屆書ニハ工業勞働者最低年齡法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別

法定代理人、準禁治産者、妻ノ爲ス願届書ニハ保佐人又ハ夫ノ連署ヲ要ス

第四條　本令ニ依リ願届ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第五條　本令ニ依リ警視總監ニ提出スヘキ願届書ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第六條　別表第二數量以上ノ危險物ノ貯藏又ハ詰換ハ本令ニ定ムル貯藏所以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

別表數量ニ達セサル危險物二種以上ヲ同室ニ於テ貯藏又ハ詰換ヲ爲サントスルトキハ各種類毎ニ別表ニ定メタル數量ヲ以テ貯藏又ハ詰換ヲ爲サントスル數量ヲ除シ、其ノ商ノ和一以上ニ達シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用ス

第七條　移動槽ヲ設置セントスルトキハ所轄警察署長ニ、其ノ他ノ貯藏所ヲ設置セントスルトキハ警視總監ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第八條第三號乃至第五號、第八號乃至第十號ノ事項ヲ變更セントスルトキ又ハ改築、增築、修繕、變更ヲ爲サントスルトキハ設置ノ許可ヲ受ケタル官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　前條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ具シ正副二通ヲ提出スヘシ但シ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　設置者ノ住所、氏名、生年月日及職業

二　設置地ノ地名及番號

三　數地及建物ノ坪數

四　貯藏品又ハ詰換品ノ種類及其ノ最大數量

五　建物又ハ設備ノ構造仕樣書及圖面（建物ニ在リテハ縮尺一又ハ二百分ノ一、五十分ノ一又ハ二十分ノ一）

六　消火設備ノ概要

七　四隣ノ略圖（大量貯藏所ニ在リテハ百メートル、小量貯藏所ニ在リテハ五十メートル）

八　詰換ノ方法

九　設置ノ目的

十　竣功期日

前項ノ外必要ト認ムル書類又ハ圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　貯藏所ノ設置、改築、增築、修繕又ハ變更工事竣功シタルトキハ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出テ使用認可ヲ受クヘシ

第十條　地下槽以外ノ大量貯藏所ハ其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ

一　宮城、御所、離宮、神宮又ハ御陵ヨリ四百メートル以上

二　御苑、皇族邸、王公族邸又ハ御墓ヨリ二百メートル以上

三　神社、佛閣、學校、病院、公會、兵舍、劇場其ノ他多衆ヲ收容スヘキ建造物ヨリ百メートル以上

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ貯藏所ノ設置ヲ許可セス

一　地下槽以外ノ大量貯藏所ニシテ前條各號ノ距離ヲ有セサルモノナルトキ

二　自動車ニ直授給油ヲ目的ト爲スモノニシテ道路ノ交叉點ヨリ二十メートル以內ナルトキ

三　其ノ他場所不適當ト認ムルトキ

四　第三十四條第七號及第八號ニ依リ取消處分ヲ受ケ六月ヲ經過セサルモノナルトキ

第十二條　前二條ノ距離ハ土地、建物、設備其ノ他周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認メタルトキハ斟酌スルコトアルヘシ

第十三條　貯藏所敷地ノ周圍ニハ不燃材料ヲ以テ構造シタル高サ二・五メートル以上ノ塀ヲ設クヘシ但シ周圍ノ狀況ニ依リ保安上支障ナシト認ムルトキハ其ノ一部又ハ全部ヲ省略スルコトヲ得

第十四條　貯藏庫（詰換場ヲ含ム以下之ニ倣フ）ノ構造設備ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

イ　大量貯藏庫

一　平家建ト爲スコト

二　別表第三類及第四類甲ニ屬スルモノヲ貯藏スル貯藏庫ノ床面ハ地盤面以上ト爲スコト

三　一棟ノ建坪ハ二百平方メートルヲ超過セサルコト

四　別表第一數量以上ヲ貯藏セントスル貯藏庫ノ周圍ニハ其ノ數地內ニ於テ別表保有距離ノ空地ヲ保有スルコト但シ同一數地內ニ於テ二以上ノ貯藏庫又ハ貯藏槽ヲ設置セントスルトキハ其ノ相互間ノ距離ヲ三分ノ一迄減少スルコトヲ得

五　外壁、床又ハ隔壁ハ耐火構造ト爲スコト但シ別表中乙ニ屬スルモノニ在リテハ準耐火構造ト爲スコトヲ得

六　屋根ハ石綿盤又ハ石盤等輕量ナル不燃材料ヲ以テ覆葺スルコト

七　窓及出入口ニハ內部ニ網入不透明硝子戶、外部ニ甲種防火戶ヲ設クルコト但シ別表乙ニ屬スルモノニ在リテハ乙種防火戶ト爲スコトヲ得

八　建物ノ最高部地上ヨリ二メートル以上ナルトキハ避雷針ヲ設クルコト但シ別表中乙ニ屬スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

避雷針ハ其ノ尖頭ヨリ最遠ノ屋端ニ至ル想像線ト四十五度以內ノ角度ヲ有セシメ、地中板抵抗ハ十オーム以下タラシムルコト

ロ　小量貯藏庫

一　平家建又ハ專用ノ室ト爲スコト但シ別表第三類及第四類甲ニ屬スルモノハ地盤面以下ニ床面ヲ有スル室

ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

二　上階又ハ下階ニ通スル階段ヲ設ケサルコト

三　外壁、室ノ周壁又ハ床耐火構造ト爲スコト但シ別表中乙ニ屬スルモノニ在リテハ準耐火構造ト爲スコトヲ得

四　屋根ハ石綿盤又ハ石盤等ノ輕量ナル不燃材料ヲ以テ覆葺スルコト

五　天井ハ防火的構造ト爲スコト

六　窓及出入口ニハ甲種防火戸ヲ設クルコト但シ別表中乙ニ屬スルモノニ在リテハ乙種防火戸ト爲スコトヲ得

第十五條　貯藏槽ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

イ　屋外槽（移動槽ヲ除ク）

一　槽ハ厚サ三ミリメートル以上ノ金屬板ヲ以テ氣密ニ作リ、水張試驗ヲ施行シ漏洩セサルモノナルコト

二　槽ノ外面ニハ防錆方法ヲ施スコト

三　槽ニハ適當ナル通氣口ヲ設ケ銅網ヲ裝置スルコト

四　貯藏容量ニ等シキ漏油ヲ收容シ得ヘキ防油壁ヲ設クルコト

五　防油壁ト槽トノ間ニハ四十五センチメートル以上ノ空間ヲ有セシムルコト

六　別表第一數量以上ヲ貯藏セントスル貯藏槽ノ周圍ニ有セシムルコト

九　貯藏容量ニ等シキ漏油ヲ收容シ得ヘキ設備ヲ爲スコト

地下槽

一　槽ノ容積ハ七千二百リットル以下ト爲スコト

二　槽ハ油槽室內ニ橫置シ、槽ト油槽室ノ間ニハ十センチメートル以上ノ距離ヲ保有セシメ乾砂ヲ充塡スルコト

三　油槽室ノ壁體ハ厚サ三十センチメートル以上ノコンクリート造又ハ之ト同等以上ノ强度ヲ有スル構造トシ且適當ナル防水設備ヲ施スコト

四　槽ノ天端ハ地面下一メートル以上ト爲スコト

五　槽ハ厚サ三ミリメートル以上ノ金屬板ヲ以テ造リ、每平方センチメートルニ付一・四キログラム以上ノ水壓試驗ニ耐ユルモノナルコト

六　槽ノ外面ニハ防錆方法ヲ施スコト

七　槽ニハ直徑三十ミリメートル以上ノ通氣管ヲ其ノ天端ニ取付クルコト

八　通氣管ハ其ノ先端ヲ下方ニ屈曲シ銅網ヲ裂置シ且建築物ノ窓又ハ出入口ヨリ一メートル以上ノ距離ヲ保有セシムルコト

九　同一敷地內ニ於テ二以上ノ地下槽ヲ設置セントスル

ハ其ノ敷地內ニ於テ別表保有距離ノ空地ヲ保有スルコト但シ同一敷地內ニ於テ二以上ノ貯藏庫又ハ貯藏槽ヲ設置セントスルトキハ其ノ相互間ノ距離ヲ三分ノ一迄減少スルコトヲ得

ロ　屋內槽（移動槽ヲ除ク）

一　槽ハ專用室內ニ設クルコト但シ別表第四類甲ニ屬スルモノヲ貯藏スル貯藏槽ハ地盤面以下ニ床面ヲ有スル室ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

二　室ノ周壁又ハ床ハ耐火構造ト爲スコト但シ別表中乙ニ屬スルモノニ在リテハ準耐火構造ト爲スコトヲ得

三　槽ト壁面トノ間ニハ四十五センチメートル以上ノ空間ヲ有セシムルコト

四　槽ノ容積ハ別表第一數量未滿タルコト

五　槽ハ厚サ三ミリメートル以上ノ金屬板ヲ以テ造リ、每平方センチメートルニ付〇・七キログラム以上ノ水壓試驗ニ耐ユルモノナルコト

六　槽ノ外面ニハ防錆方法ヲ施スコト

七　槽ニハ直徑三十ミリメートル以上、高サ地上四メートル以上ノ屋外ニ通スル通氣管ヲ其ノ天端ニ取付クルコト

八　通氣管ハ其ノ先端ヲ下方ニ屈曲シ銅網ヲ裝置シ且建築物ノ窓又ハ出入口ヨリ一メートル以上ノ距離ヲ保トキハ其ノ相互間ノ距離ヲ二メートル以上ト爲スコト但シ雙方ノ貯藏量ヲ合算シ七千二百リットル以下ナルトキハ其ノ相互間ノ距離ヲ三十センチメートル迄減少スルコトヲ得

ニ　移動槽

一　槽ノ容積ハ三百六十リットル以下ト爲スコト

二　槽ハ厚サ三ミリメートル以上ノ金屬板ヲ以テ造リ、每平方センチメートルニ付〇・七キログラム以上ノ水壓試驗ニ耐ユルモノナルコト

三　槽ノ外面ニハ防錆方法ヲ施スコト

四　槽ニハ適當ナル通氣口ヲ設ケ銅網ヲ裝置スルコト

第十六條　前二條ノ制限ハ土地ノ狀況又ハ貯藏セントスル危險物ノ種類、數量等ニ依リ特ニ斟酌スルコトアルヘシ

第十七條　自動車ニ直接給油ヲ目的ト爲ス貯藏所ニハ給油場ヲ設クヘシ但シ交通上支障ナキト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　前條ノ給油場ノ構造設備ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ自動車車庫內ニ設置スルモノニシテ一般自動車ニ給油ヲ目的トセサルモノニ在リテハ第一號及第四號ノ規定ヲ適用セサルコトアルヘシ

一　間口五メートル以上、奥行八メートル以上ト爲スコト
二　建築物ノ一部ヲ給油場ニ充ツルトキハ其ノ周壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スコト
三　給油場内ノ建築物ハ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スコト
四　給油場ニハ地下槽付屬ノ計量機ニ依ル給油設備ヲ爲シ移動槽ヲ設置セサルコト但シ東京市及八王子市以外ノ場所ナルトキハ移動槽（計量機ノ付屬スルモノ）ヲ許可スルコトヲ得
五　給油管ノ全長ハ三メートル以下ト爲スコト
六　同一給油場内ニ於テ二個以上ノ計量機ヲ設置セントスルトキハ他ノ貯藏槽ノ通氣口、注油口、計量口又ハ給油設備ヨリ屋外ニ在リテハ五メートル、屋内ニ在リテハ十五メートル以上ノ距離ヲ保有セシムルコト
七　計量機ハ道路境界線ヨリ四メートル以上ノ距離ヲ有セシムルコト
八　空氣壓縮裝置ヲ設置セントスルトキハ適當ナル安全裝置アルモノヲ用ヒ、保安上危險ノ虞ナキ場所ニ設クルコト

第十九條　大量貯藏所ニハ監理人ヲ置クコトヲ要ス但シ地下槽ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ監理人ヲ定メ又ハ其ノ監理人ニ變更アリタルトキハ

履歷書ヲ添ヘ速ニ警視總監ニ屆出ツヘシ
前項ノ監理人ニシテ不適當ト認メタルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條　前條ノ監理人ハ工業學校（尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年若ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ）以上ノ學校ノ卒業者ニシテ在學中化學ニ關スル學科ヲ修得シタル者又ハ之ト同等以上ノ化學ニ關スル技能アル者タルコトヲ要ス

第二十一條　監理人ハ常ニ危害豫防ニ注意シ、危害發生ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ相當ノ措置ヲ爲シ速ニ所轄警察署長ニ申告スヘシ

第二十二條　大量貯藏所ニ於テハ監理人ノ立會アルニ非サレハ危險物ノ詰換搬出搬入包裝其ノ他ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス但シ地下槽ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ設置ノ許可ヲ受ケタル官廳ニ屆出ツヘシ
一　設置者ノ住所及氏名ヲ變更シタルトキ
二　敷地ノ地名及番號ニ變更アリタルトキ
三　法定代理人又ハ保證人ニ變更アリタルトキ
四　貯藏所ヲ廢止シ又ハ九十日以上其ノ使用ヲ休止セントスルトキ
五　相續、讓渡又ハ貸付ヲ爲シタルトキ
六　設置者死亡シ若ハ所在不明トナリ又ハ法人解散シタ

ルトキ
前項第五號ノ場合ニ在リテハ關係者ノ連署ヲ要シ第六號ノ場合ニハ戸主又ハ家族若ハ清算人ヨリ屆出ツヘシ

第二十四條　貯藏所ニハ其ノ出入口賭易キ個所ニ左ノ事項ヲ標示スヘシ
一　貯藏所ノ種別
二　設置者、借受人及監理人ノ住所、氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名）
三　貯藏又ハ詰換ノ品名及其ノ最大數量

第二十五條　大量貯藏所ニハ簿冊ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ地下槽ハ此ノ限ニ在ラス
一　貯藏又ハ詰換ノ爲搬出又ハ搬入シタルトキハ其ノ品名、數量、年月日
二　買入若ハ賣渡先又ハ貯藏若ハ詰換委託者ノ住所、氏名
三　每月末ニ於ケル現在高

第二十六條　別表中類ヲ異ニスル危險物ハ同一貯藏所ニ於テ貯藏又ハ詰換ヲ爲スコトヲ得ス但シ隔壁ヲ設ケ各室每ニ出入口ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　貯藏所ニ於テハ危險物以外ノモノノ貯藏又ハ詰換ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　大量貯藏所ニ於ケル危險物ノ取扱ハ地下槽ノ場合ヲ除キ日出前、日沒後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　貯藏所ニ於テハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ但シ第一號ノ室内、給油場又ハ其ノ附近ニ於テ熱源ヲ使用セサルコト但シ事務所内ニシテ防火設備ヲ爲シ保安上危險ノ虞ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
一　室内、給油場又ハ其ノ附近ニ於テ發火若ハ燃燒シ易キ物品ノ携帶又ハ取扱ヲ爲ササルコト
二　危險物ノ性質ニ從ヒ室内ノ溫度、濕氣、遮光又ハ換氣ニ注意スルコト
三　電燈以外ノ燈火ヲ使用又ハ携帶セサルコト
四　給油又ハ注油ニ際シ給油場以外ノ場所ニ自動車ヲ駐車セシメサルコト但シ第十七條但書ニ依リ給油場ヲ設ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス
五　貯藏所ニ於テ火災、爆發、破裂其ノ他ノ事故發生シタルトキハ其ノ日時、場所、原因及狀況ヲ具シ遲滯ナク所轄警察署長ニ屆出ツヘシ

第三十條　貯藏所ニ於テハ危險物ヲ運搬スルトキハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ但シ第一號ノ危害ヲ生スル虞アルトキハ別表中類ヲ異ニスルモノ又ハ他ノ物品ヲ混載セサルコト
一　牛馬車ニテ運搬スル場合ニハ牛馬取付ノ儘荷積、荷卸ヲ爲ササルコト

三　物品ノ種類ニ依リ日光ノ直射又ハ雨水ノ滲透セサル機
適當ナル被覆ヲ爲スコト
四　衝撃、衝動、轉倒、墜落ノ虞ナキ樣積載スルコト
五　火氣ニ注意スルコト
六　運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ安全ノ地點ヲ選ヒ且
看守人ヲ附スルコト
七　船舶ニ在リテハ荷積、荷卸ヲ爲ス場合ノ外沿岸ノ建造
物又ハ繫留セル船舶ヨリ二十メートル以内ノ場所ニ繫
留セサルコト

第三十二條　危險物ハ別表ニ定ムル所ニ從ヒ容器ニ收納シ、
品名及數量ヲ外部諸易キ個所ニ表示スヘシ

第三十三條　別表第二數量未滿ノ危險物ヲ貯藏シ又ハ取扱フ
研究室、實驗室、藥品室、倉庫、工場等ニ於テハ左ノ事項
ヲ遵守スヘシ
一　危險物ヲ貯藏スル戸棚類ハ容易ニ轉倒セサル設備ヲ爲
スコト
二　棚ニハ扉ノ有無ニ拘ラス容器ノ容易ニ轉落セサル裝置
ヲ爲スコト
三　混合ニ依リ發火又ハ爆發ノ虞ナキ樣貯藏スルコト
四　適當ナル消火設備ヲ爲スコト

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ設置ノ許可ヲ取
消スコトアルヘシ
一　許可ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ其ノ工事ニ着手セ
サルトキ
二　竣功期日ヲ經過シ仍竣功セサルトキ
三　九十日以上使用ヲ休止シタルトキ
四　設置者所在不明トナリタルトキ
五　未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニシテ法定代理
人、保證人若ハ夫ノ同意又ハ許可ヲ取消サレタルトキ
六　第十一條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スルニ至リタル
トキ
七　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
八　其ノ他公安ヲ害スル虞アリト認メタルトキ

第三十五條　當該官吏貯藏所又ハ第三十三條ニ規定スル場所
ニ臨檢シ若ハ簿冊其ノ他書類ノ檢査ヲ爲サントスルトキハ
之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十六條　危害豫防上必要アリト認ムルトキハ貯藏所ノ使
用ヲ制限若ハ停止シ又ハ構造ノ變更其ノ他ノ措置ヲ命スル
コトアルヘシ

第三十七條　所轄警察署長ハ危害豫防上必要アリト認ムルト
キハ危險物ノ運搬ヲ制限又ハ禁止シ貯藏、詰換其ノ他取扱
ニ關シ必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第三十八條　他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可ヲ要スル貯藏所
ニ在リテハ其ノ法令ニ依ル願書ニ第八條ノ事項ヲ併セ具ス
ヘシ但シ重複スル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
前項ノ願出ニ對シ許可ヲ爲シタルトキハ第七條ノ許可ヲ爲
シタルモノト看做ス
前項ノ貯藏所ニ對シ警視總監他ノ法令ニ依リ使用認可ヲ爲
シタルトキハ第九條ノ使用認可ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十九條　第六條、第七條、第九條、第十九條第一項及第
二項、第二十一條乃至第三十三條及第三十五條ノ規定ニ違
反シ又ハ第十九條第三項、第三十六條及第三十七條ノ規定
ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十條　本令ノ罰則ハ未成年者又ハ禁治産者ニ在リテハ法
定代理人、法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ營
業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ對シテハ
此ノ限ニ在ラス

第四十一條　危險物ノ取扱ヲ爲ス者ハ代理人、戸主、家族、
同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又
ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮
ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第四十二條　本令ハ昭和十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條　大正十四年二月警視廳令第五號危險物取締規則
ハ之ヲ廢止ス

第四十四條　大正十四年二月警視廳令第五號危險物取締規則
第四條ニ依リ設置許可ヲ受ケタル貯藏所ニシテ本令施行ノ
際現ニ使用中ノモノハ本令第七條ノ許可ヲ受ケタルモノト
看做ス
前項ノ貯藏所ニシテ本令ニ適合セサルモノハ第十七條及第
十八條ノ事項ニ付テハ昭和十五年十二月三十一日迄ニ其ノ
他ノ事項ニ付テハ將來改築、增築、修繕、又ハ變更ヲ爲ス
トキ本令ニ依リ改造スヘシ但シ特別ノ事情アリト認ムルト
キハ斟酌スルコトアルヘシ

第四十五條　大正十四年警視廳令第五號危險物取締規則第十
二條ニ依リ屆出ヲ爲シタル貯藏所ノ監理人ハ本令第十九條
ニ依リ屆出ヲ爲シタルモノト看做ス

別表

第一類

品名	種屬	第一數量	第二數量
危險物取締規則			

塩素酸塩類	甲	「キログラム」五〇〇	「キログラム」五〇	完全ニ罐詰ト爲シ木製容器ニ容ルルコト但シ塩素酸「カリ」ハ木製容器ニ入ルルコトヲ得
過塩素酸塩類	甲	五五〇	五五	同
硝石	乙	四,〇〇〇	四〇〇	
硝酸ソーダ	乙	四,〇〇〇	四〇〇	
硝酸アンモン	乙	四,〇〇〇	四〇〇	

第二類

品名	種屬	第一數量	第二數量	容器（一「キログラム」以下ノ容器ハ此ノ限ニ在ラス）
黄燐	甲	「キログラム」二〇〇	「キログラム」二〇	水ヲ充滿セル完全ナル罐ニ詰メルコト
赤燐	甲	四〇〇	四〇	完全ニ罐詰ト爲スコト
硫化燐	甲	四〇〇	同	同

第三類

品名	種屬	第一數量	第二數量	容器（一「キログラム」以下ノ容器ハ此ノ限ニ在ラス）
金屬カリウム	甲	「キログラム」二五	「キログラム」二	石油ヲ充滿セル罐ニ容ルルカ又ハ空氣ヲ遮斷セル堅牢ナル罐ニ詰メルコト
金屬ナトリウム	甲	二五	二	同
マグネシウム粉	甲	五〇	五	完全ニ罐詰ト爲シ木製容器ニ容ルルコト
過酸化ソーダ	甲	五五〇	五五	同
カーバイド	乙	二,五〇〇	二五〇	完全ニ罐詰ト爲スコト
燐化カルシウム	乙	二,五〇〇	二五〇	同
アルミニウム粉	乙	二,〇〇〇	三〇〇	同
亞鉛粉	乙	三,〇〇〇	三〇〇	同
眞鍮粉	乙	三,〇〇〇	三〇〇	同
生石灰	乙	四,〇〇〇	四〇〇	

第四類

品名	種屬	第一數量	第二數量	容器（一「リツトル」又ハ一「キログラム」以下ノ容器ハ此ノ限ニ在ラス）
エーテル	甲	「リツトル」四〇〇	「リツトル」四〇	完全ニ罐詰又ハ壜詰ト爲シ木製容器ニ容ルルカ若ハ堅牢ナル罐ニ入ルルコト
二硫化炭素	甲	四〇〇	四〇	同
コロヂオン	甲	四〇〇	四〇	同
第一種石油	甲	八〇〇	四〇	同
メタノール	甲	一,〇〇〇	一〇〇	同
ベンゾール	甲	一,〇〇〇	一〇〇	同
トルオール	甲	一,〇〇〇	一〇〇	同

ソルベントナフサ	甲	1°000	100	同
第二種石油	甲	11°000	1100	同
アルコール	甲	11°000	1100	同
アセトン	甲	11°000	1100	同
キシロール	甲	11°000	1100	同
テレビン油	甲	11°000	1100	同
酢酸エステル類	甲	11°000	1100	同
第三種石油	乙	110°000	1000	
クレオソート油	乙	110°000	1000	
植物油脂	乙	110°000	1000	
動物油脂	乙	110°000	1000	
ヲール類	乙	110°000	1000	

第五類

品名	種属	第一数量	第二数量	容器（一容器ハ此ノ限ニ在ラス）
ニトロセルロース	甲	五〇〇瓩	五瓩	完全ナル金属製容器ニ入レ且「アルコール」又ハ「アルコール」ニ「ナフサ」ヲ混合シタル液体ニ浸シ水ヲ以テ湿潤ナラシメタルモノ
セルロイド	甲	一°五〇〇瓩	一五〇瓩	完全ナル木製容器又ハ金属製容器ニ各ルコト

第六類

品名	種属	第一数量	第二数量	容器（一容器ハ此ノ限ニ在ラス）
発煙硫酸	甲	一〇〇瓲	四〇瓲	完全ナル金属製容器又ハ堅牢ナル木製容器ニ収メ且容器ノ口栓ヲ確実ニ閉鎖シタルモノ
発煙硝酸	甲	四〇〇瓩	四〇瓩	同

備考　一、石油ト称スルハ原油、原油ノ分溜製品（残渣ヲ含ム）及其ノ分解製品並天然「ガス」ノ分離製品ニシテ常温ニ於テ液状ヲ為スモノヲ謂フ、「ヲール」類ノ分溜油、頁岩油、石炭液化油及其ノ他之ニ類スル燃料油ハ之ヲ石油ト看做ス

石油ニシテ「アーベル」又ハ「ペンスキー、マルテンス」閉鎖試験器ヲ用ヒ七百六十「ミリメートル」ノ気圧ニ於テ摂氏二十一度未満ノ温度ニテ発火スルモノヲ第一種、二十一度以上七十度未満ニテ発火スルモノヲ第二種、七十度以上ノ温度ニ達セサレハ発火セサルモノヲ第三種トス

二、「アルコール」中ニハ変性「アルコール」ヲ含ム

三、「セルロイド」中ニハ「フイルム」ヲ除ク他ノ加工品ヲ含マス

保有距離

品名＼貯蔵数量	以二「メートル」上	以五「メートル」上	以十「メートル」上	以十五「メートル」上	以二十「メートル」上	以二十五「メートル」上
塩素酸塩類	一〇〇瓩以下	三〇〇瓩以下	一〇°〇〇〇瓩以下	三〇°〇〇〇瓩以下	四〇°〇〇〇瓩以下	四〇°〇〇〇瓩ヲ超ユルモノ
過塩素酸塩類	一°一〇〇	一°三〇〇	一〇°〇〇〇	三〇°〇〇〇	四〇°〇〇〇	四〇°〇〇〇

生研灰	八、000	二〇、000	八〇、000	一六〇、000	三二〇、000	三二〇、000
眞鍮粉	六、000	一五、000	六〇、000	一二〇、000	三四〇、000	二四〇、000
亞鉛粉	六、000	一五、000	六〇、000	一二〇、000	二四〇、000	二四〇、000
アルミニウム粉	六、000	一五、000	六〇、000	一二〇、000	二四〇、000	二四〇、000
燐化カルシウム	五、000	一二、五00	五〇、000	一00、000	三00、000	二00、000
カーバイド	五、000	一二、五00	五〇、000	一00、000	二00、000	二00、000
過酸化ソーダ	一、一00	二、五00	一〇、000	二〇、000	四〇、000	四〇、000
マグネシウム粉	一00	二五0	一、000	二、000	四、000	四、000
金屬ナトリウム	五0	一二0	五00	一、000	二、000	二、000
金屬カリウム	五0	一二0	五00	一、000	二、000	二、000
硫化燐	八00	二、000	八、000	一六、000	三二、000	三二、000
赤燐	八00	二、000	八、000	一六、000	三二、000	三二、000
黄燐	四00	一、000	四、000	八、000	一六、000	一六、000
硝酸アンモン	八、000	二〇、000	八〇、000	一六〇、000	三二〇、000	三二〇、000
硝酸ソーダ	八、000	二〇、000	八〇、000	一六〇、000	三二〇、000	三二〇、000
硝石	八、000	二〇、000	八〇、000	一六〇、000	三二〇、000	三二〇、000

クレオソート油	四、000	一00、000	四00、000	八00、000	一、六00、000	一、六00、000
第三種石油	四、000	一00、000	四00、000	八00、000	一、六00、000	一、六00、000
醋酸エステル類	四、000	一〇、000	四〇、000	八〇、000	一六〇、000	一六〇、000
テレビン油	四、000	一〇、000	四〇、000	八〇、000	一六〇、000	一六〇、000
キシロール	四、000	一〇、000	四〇、000	八〇、000	一六〇、000	一六〇、000
アセトン	四、000	一〇、000	四〇、000	八〇、000	一六〇、000	一六〇、000
アルコール	四、000	一〇、000	四〇、000	八〇、000	一六〇、000	一六〇、000
第二種石油	四、000	一〇、000	四〇、000	八〇、000	一六〇、000	一六〇、000
ソルベントナフタ	二、000	五、000	二〇、000	四〇、000	八〇、000	八〇、000
トルオール	二、000	五、000	二〇、000	四〇、000	八〇、000	八〇、000
ベンゾール	二、000	五、000	二〇、000	四〇、000	八〇、000	八〇、000
メタノール	二、000	五、000	二〇、000	四〇、000	八〇、000	八〇、000
第一種石油	一、六00	四、000	一六、000	三二、000	六四、000	六四、000
コロヂオン	八00	二、000	八、000	一六、000	三二、000	三二、000
二硫化炭素	八00	二、000	八、000	一六、000	三二、000	三二、000
エーテル	八00	二、000	八、000	一六、000	三二、000	三二、000
	「リットル屋」	「リットル屋」	「リットル屋」	「リットル屋」	「リットル屋」	「リットル」ヲ超ユルモノ

植物油脂	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
動物油脂	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
タール類	四〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
ニトロセルローズ	「キログラム」以下 一〇〇	「キログラム」以下 二五〇	「キログラム」以下 一、〇〇〇	「キログラム」以下 二、〇〇〇	「キログラム」以下 四、〇〇〇	「キログラム」ヲ超ユルモノ 四、〇〇〇	「キログラム」ヲ超ユルモノ 四、〇〇〇
セルロイド	三、〇〇〇	七、五〇〇	三〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ	「キログラム」又ハ「リツトル」以下 四、〇〇〇	「キログラム」又ハ「リツトル」以下 一〇、〇〇〇	「キログラム」又ハ「リツトル」以下 四〇、〇〇〇	「キログラム」又ハ「リツトル」以下 八〇、〇〇〇	「キログラム」又ハ「リツトル」以下 一六〇、〇〇〇	「キログラム」又ハ「リツトル」以下ヲ超ユルモノ 一六〇、〇〇〇	「キログラム」又ハ「リツトル」以下ヲ超ユルモノ 一六〇、〇〇〇
貯藏又ハ詰換指數	一以下	二、五以下	一〇以下	二〇以下	四〇以下	四〇ヲ超ユルモノ	

備考　本表ニ於テ貯藏又ハ詰換指數トハ危險物二種以上ヲ同一棟内ニ貯藏又ハ詰換ヲ爲サントスル場合其ノ品目ノ本表第一段數量ヲ以テ貯藏又ハ詰換ヲ爲サントスル數量ヲ除シタル其ノ商ノ和トス

「アセチレン」熔接取締規則

警視廳令第七號(昭和十一年五月二十一日)

改正　昭和一三年八月廳令第四二號

「アセチレン」熔接取締規則左ノ通定ム

「アセチレン」熔接取締規則

第一條　本令ハ酸素ト「アセチレン」(熔解「アセチレン」ヲ除ク以下之ニ同シ)トヲ用ヒ金屬ノ熔接(切斷ヲ含ム以下之ニ同シ)ヲ爲スモノニ適用ス

本令ニ於テ「アセチレン」熔接裝置(以下單ニ熔接裝置ト稱ス)ト稱スルハ酸素ト「アセチレン」トヲ用ヒ金屬ノ熔接ヲ爲スニ要スル「アセチレン」發生器(以下單ニ發生單ト稱ス)安全器、清淨器、導筆、吹筆等ヲ含ム一切ノ裝置ヲ謂フ

第二條　熔接裝置ヲ設置(出張用接熔裝置ニ在リテハ格納ヲ含ム)セントスルトキハ熔接裝置毎ニ左ノ事項ヲ具シ別記第一號樣式(正副二通)ニ使リ警視總監ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第五號イ、ロ、ニ、ヘ若ハ第七號ノ事項ヲ變更シ又ハ發生器室(出張用熔接裝置ニ在リテハ格納宮以下之ニ同シ)ノ改築、增築、移轉、大修繕若ハ大變更ヲ爲サントスルトキ亦同シ

一　設置者ノ住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名、以下之ニ同シ)

二　使用ノ目的

三　設置地地名番號

四　出願ノ要旨

五　摘要書

イ　發生器室ノ構造及床面積

ロ　發生器ノ構造、種類、型式、主要寸法

ハ　發生器ノ製作所名及製作年月日

ニ　安全器ノ構造、種類、型式、主要寸法、箇數

ホ　清淨器其ノ他附屬器具ノ名稱、主要寸法、箇數

ヘ　「カーバイド」ノ貯藏量竝貯藏方法

ト　「カーバイド」ノ一日ノ最大使用量

チ　作業ノ始終時

六　圖面

イ　熔接裝置ノ配置圖

ロ　發生器、安全器ノ構造圖

ハ　發生器室ノ圖面

ニ　設置地四隣ノ留圖

七　熔接裝置設置場ノ構造調書

八　工事撤功期日

前項ノ外必要ト認ムルトキハ書類又ハ圖面ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

出張用熔接裝置ニ在リテハ第一項第六號イ及ニノ事項ヲ省留スルコトヲ得

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セントスルトキハ別記第二號樣式(正副二通)ニ依リ豫メ警視總監ニ屆出ツヘシ

一　作業ノ始終時

二　「カーバイド」ノ一日ノ最大使用量

三　工事竣功期日

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ熔接裝置ノ設置ヲ許可セス

一　宮城、離宮又ハ御用邸ヨリ四百米以内ナルトキ

二　學校、疑院、公園、興行場其ノ他多衆ヲ收容スヘキ建築物ヨリ百米以内ナルトキ

三　著シク保安上危險衛生上有害ノ虞アリト認ムルトキ

四　其ノ他公共ノ利益ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

前項第一號及第二號ノ距離ハ設備又ハ四圍ノ狀況ニ依リ支

障ナシト認ムルトキハ特ニ斟酌スルコトアルヘシ

第五條　發生器ハ專用ノ發生器室内ニ設ケ同一室内ニ二箇以上設クルコトヲ得ス但シ已ムヲ得スト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　發生器室ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　平塚建又ハ直上ニ階ヲ有セサル場所ニ設クルコト

二　壁體ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ鐵骨若ハ木骨ニ厚四糎以上ノ「メタルラス」張「コンクリート」若ハ「セメントモルタル」塗或ハ鐵骨ノ外部ニ厚二糎以上ノ鐵板張ヲ施シタル構造ト爲スコト但シ徑九十糎以上ノ發生器ヲ收容スルモノニ在リテハ厚十三糎以上ノ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト

三　屋根及天井ハ鐵板又ハ輕量ナル不燃材料ヲ用ヒ室面積ノ十六分ノ一以上ノ斷面積ヲ有スル排氣筒ヲ屋上ニ突出セシメ其ノ開口ハ窓、出入口其ノ他ノ孔口ヨリ一米以上ノ距離ヲ保有セシムルコト

四　扉ハ鐵製ニシテ鐵板ノ厚二糎以上又ハ之ト同等以上ノ構造ト爲シ二箇以上ノ堅固ナル締金具ヲ附シ二米未滿ノ距離ニ於テ火氣ヲ使用スル場所ニ面セシメサルコト

五　壁體ト發生器トノ間隔ハ十五糎以上ト爲スコト

前項ノ制限ニ付テハ設備、發生器ノ構造若ハ四圍ノ狀況ニ依リ特ニ斟酌シ又ハ別段ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

出張用熔接裝置ヲ格納スル室ハ木骨鐵板張又ハ之ト同等以上ノ構造ト爲シ第一項各號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七條　熔接接裝ノ構造、設備ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　發生器ノ水室ハ厚三糎以上ノ鋼板、氣鐘ハ徑四十糎以上ノモノニ在リテハ厚二糎以上、四十糎未滿ノモノニ在リテハ厚一・五糎以上ノ鋼板ヲ以テ構成シ「ガス」ノ漏洩セサルモノト爲スコト

二　發生器ハ地盤ヨリ高十糎以上ノ「コンクリート」、煉瓦等ノ臺上ニ安定ニ据付クルコト

三　發生器ニハ氣鐘ノ昇降ヲ支持スルニ必要ナル鐵柱及安全排氣筆、清淨器ヲ設クルコト

四　發生器、安全器、清淨器、導器、吹管其ノ他ノ附屬器具ニシテ「アセチレン」ノ接觸スル虞アル部分ニハ銅ヲ使用セサルコト

五　安全器ハ厚二糎以上ノ鋼板ヲ以テ構成シ接合部分ハ熔接又ハ之ト同等以上ノ强度ヲ有セシムルコト

六　安全器ハ水封式トシ其ノ內部ニ略常ノ壓力ヲ生シタル際之ヲ容易ニ外部ニ逸散セシムル構造ト爲スコト

七　安全器ハ內徑十二糎以下、有效水柱二十五糎以上トシ水位ヲ檢スルニ便ナル構造ト爲スコト

八　安全器ハ吹管每ニ設ケ「ガス」溜ガ發生器ト分離セルモノニ在リテハ更ニ其ノ間ニ之ヲ設クルコト

九　導管ハ容易ニ毀損セサルモノヲ用ヒ「ゴムホース」ヲ使用スル場合ハ其ノ接合部ニ締金等ヲ附シ弛緩セシムメサルコト

十　導管ハ酸素用ニ在リテハ黑色、「アセチレン」用ニ在リテハ赤色ノモノヲ用ヒ其ノ混同ヲ防クコト

十一　「カーバイド」ノ殘渣ノ溜拂ハ發生器室內ニ設ケ「カーバイド」塡充器ノ容積ノ十倍以上ト爲シ「コンクリート」、煉瓦等耐水材料ヲ以テ構成スルコト

前項ノ制限ハ構造上支障ナシト認ムルトキハ特ニ斟酌スルコトアルヘシ

出張用熔接裝置ニ在リテハ第一項第二號及第十一號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八條　工事竣功シタルトキハ熔接裝置每ニ警視總監ニ屆出テ別記第三號樣式ニ依ル檢查證ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

檢查證ハ熔接裝置ノ設置場所ニ提出シ出張作業ノ場合ハ之ヲ携帶スヘシ

檢查證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具シ屆出テ再交付ヲ受クヘシ

第九條　發生器及安全器ニハ檢查證ニ依リ指示セラレタル番號ヲ別記第四號樣式ニ依リ作製シ其ノ見易キ箇所ニ標示スヘシ

第十條　出張用熔接裝置ヲ設置地以外ニ於テ使用セントスルトキハ別記第五號樣式(正副二通)ニ依ル屆書ヲ使用地所轄警察署若ハ巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ提出スヘシ

前項ノ屆書副本ハ作業中之ヲ携帶スヘシ

第十一條　熔接裝置ニシテ第四條第一項第三號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ構造、設備ノ變更其ノ他必要ナル措置ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　本令ニ依ル願屆ニ虛僞ノ事項ヲ記載シタルトキ

二　竣任期日ヲ經過シ仍竣功セサルトキ

三　(削除)

四　熔接裝置ノ使用ヲ引續キ一年以上休止シタルトキ

五　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ

第十二條ノ二　設置者ノ所在不明九十日以上ニ亘リタルトキハ本令ニ依ル許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條　設置者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　發生器室ヨリ二米未滿ノ距離ニ於テ喫煙、火氣ノ使用其ノ他火花ヲ發スル虞アル行爲ヲ禁止スル旨適當ナル箇所ニ揭示スルコト

二　熔接裝置設置場ニハ適當ナル消火設備ヲ置クルコト
三　作業場ニハ適當ナル保護眼鏡、保護手袋ヲ備フルコト
四　熔接士ヨリ熔接裝置ノ構造、設備ノ缺陷ニ付告知ヲ受ケタルトキハ直ニ危害防止ニ付必要ナル措置ヲ爲スコト

第十四條　設置者檢査證ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク熔接主任ヲ選任シ其ノ氏名ヲ發生器室又ハ熔接裝置ノ見易キ箇所ニ掲示スヘシ

第十五條　熔接士ニ非サレハ熔接主任タルコトヲ得ス

第十六條　熔接士タラントスル者ハ別記第六號樣式ニ依リ履歷書及寫眞（出願前六箇月以內ニ撮影シタル脫帽、正面、半身ノ名刺型二葉）ヲ添ヘ警視總監ニ願出テ免許ヲ受クヘシ

第十七條　熔接士免許ハ試驗ニ合格シ且左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニ之ヲ與フ

一　十八歲未滿ノ者
二　精神病者、聾者、啞者又ハ盲者
三　熔接士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セサル者
四　其ノ他不適當ト認メタル者

熔接士ノ免許ヲ與ヘタルトキハ別記第七號樣式ニ依ル免許證ヲ交付ス

第十八條　熔接士免許試驗ハ左ノ各號ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　發生器、安全器其ノ他附屬器具ノ構造及取扱概要
二　「アセチレン」、「カーバイド」及酸素ニ關スル事項
三　「アセチレン」熔接ニ關スル法規

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上、高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ化學又ハ機械ノ學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
二　前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認ムル者
三　警視總監ノ指定シタル講習會ニ於テ所定ノ講習ヲ受ケ其ノ修了證ヲ有スル者

第二十條　熔接士ハ就業中免許證ヲ携帶スヘシ

免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具シ願出テ再交付ヲ受クヘシ

免許證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク願出テ其ノ書替ヲ受クヘシ

第二十一條　熔接士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消又ハ停止スルコトアルヘシ

一　故意又ハ重大ナル過失ニ因リ火災、爐發又ハ之ニ準スル事故ヲ惹起シタルトキ
二　免許試驗ニ不正ノ行爲アリタルコト發覺シタルトキ

三　免許證ヲ他人ニ貸與シタルトキ
四　第十七條第一項第二號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク免許證ヲ返納スヘシ

免許ノ停止期間滿了シタルトキハ免許證ヲ還付ス

第二十二條　熔接作業又ハ熔接裝置ノ取扱ニ從事スル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　熔接作業中ハ備付ノ保護眼鏡、保護手袋ヲ著用スルコト
二　熔接裝置ハ常ニ整頓シ打擊其ノ他危險ノ虞アル取扱ヲ爲ササルコト
三　安全器ハ熔接作業中容易ニ水位ヲ認メ得ヘキ箇所ニ置クコト
四　安全器ノ機能ヲ保持スル爲一日一回以上其ノ水位ヲ檢スルコト
五　發生器室ノ扉ハ開放セサルコト
六　發生器ノ氣鐘ニ濫ニ重錘ヲ荷セサルコト
七　發生器ヲ修繕、運搬、格納セントスルトキ又ハ繼續シテ使用ヲ休止セントスルトキハ「アセチレン」及「カーバイド」ヲ完全ニ除去シ置クコト
八　熔接裝置ノ各部分ニ於ケル「ガス」漏洩ノ點檢ニハ火氣ヲ使用セサルコト
九　發生器、安全器其ノ他ノ附屬器具內ノ水凍結シタルトキハ融解ノ爲火氣ヲ使用セサルコト
十　發生器又ハ發生器室ヨリ二米未滿ノ距離ニ於テ喫煙、火氣ノ使用其ノ他火花ヲ發スル虞アル行爲ヲ爲ササルコト
十一　「カーバイド」ノ殘渣ハ「ガス」ノ發生ナキニ至ル迄溜桝又ハ容器ニ容レ置キ適當ニ處理スルコト
十二　「カーバイド」罐ヲ開封スル際ハ打擊シテ火花ヲ發セシムルコトナキニ注意スルコト
十三　「アルコール」、揮發油其ノ他引火性料品ヲ容レタル容器ヲ熔接セントスルトキハ其ノ內部ヲ充分ニ清掃スルコト
十四　危害豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スコト

熔接主任ハ從業者カ前項各號ノ事項ヲ遵守スルヤ否ヤニ付常ニ周到ナル監督ヲ加ヘ危害防止ノ注意ヲ爲スヘシ

第二十三條　設置者自ラ熔接裝置ヲ管理スルコト能ハサルトキハ管理人ヲ選任シ別記第八號樣式ニ依リ選任契約書寫及檢査書ヲ添ヘ警視總監ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

管理人ハ本令ノ適用及本令ノ規定ニ基キテ發スル命令ノ遵守ニ付テハ設置者ニ代ルモノトス

管理人不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

工場法又ハ工場取締規則ノ定ムル所ニ供リ選任セラレタル工場管理人ハ本令ニ依ル管理人ト看做ス

第二十四條 熔接裝置ニシテ火災、爆發其ノ他ノ事故發生シタルトキハ設置者ハ別記第九號樣式ニ依リ遲滯ナク屆出ツヘシ但工場法施行規則第二十五條、第二十六條ノ規定ニ依リ提出セルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ設置者ハ遲滯ナク屆出ツヘシ但シ設置者又ハ管理人ノ氏名ノ變更及第三號第五號ノ屆出ニハ檢查證ヲ添附スヘシ

一 設置者又ハ管理人ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキ

二 法定代理人、保證人又ハ夫ニ變更アリタルトキ

三 設置地地名番號ニ變更アリタルトキ

四 熔接裝置ノ使用ヲ九十日以上ニ亙リ休止セントスルトキ又ハ休止後之ヲ使用シタルトキ

五 熔接裝置ノ使用ヲ廢止シタルトキ

第二十六條 熔接裝置ヲ承繼シタルトキハ住所、氏名、生年月日ヲ記シ双方連署ノ上檢查證ヲ添附シ十日以內ニ屆出ツヘシ但シ連署シ能ハサルトキ又ハ檢查證ヲ添附シ能ハサルトキハ其ノ旨屆書ニ附記シ其ノ事由ヲ確認スルニ足ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

設置者ノ死亡ニ因ル承繼アリタルトキハ承繼人ハ三十日以內ニ檢查證ヲ添附シ使用ノ繼續又ハ廢止ノ旨屆出ツヘシ

第二十七條 本令ノ規定ニ依リ警視總監又ハ廳止ノ旨屆出ツヘキ願屆書類ハ設置地所轄警察署長ヲ經由スヘシ但シ第十六條ノ規定ニ依ル熔接士免許願ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 本令ノ規定ニ依ル願屆ハ願屆人ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ保證人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス

第二十九條 本令ニ規定スル事項ニ付他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ要スル場合ニ於テ本令ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ法令ノ規定ニ依ル願書又ハ屆書ニ本令ニ規定スル事項ヲ併セ具スヘシ但シ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十條 設置者ハ第二條、第三條ノ規定ニ依リ提出シタル願屆書ノ副本ヲ事業體績期間中保存スヘシ

第三十一條 當該官吏、吏員熔接裝置ヲ臨檢セントスルトキ又ハ檢查ニ必要ナル準備ヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第二條、第三條、第五條乃至第十條、第十三條乃至第十五條、第二十條、第二十二條、第二十三條第一項、第二十四條乃至第二十六條、第三十條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條、第二十一條及第二十三條第三項ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第三十三條 設置者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 設置者法人ニシテ管理人ナキトキハ本令ノ罰則ハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第三十五條 設置者又ハ管理人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

管理人ノ選任アル場合ト雖モ違反行爲ニシテ設置者ノ指揮ニ出テタルトキハ設置者ヲモ處罰ス

第三十六條 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ之ヲ處罰ス

附 則

第三十七條 本令ハ昭和十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條 本令施行前許可ヲ受ケタル熔接裝置竝發生器室ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ熔接裝置竝發生器室ハ別記第十號樣式ニ依リ昭和十一年十一月三十日迄ニ屆出ツヘシ

汽罐取締令

內務省令第二十號（昭和十年四月九日）

汽罐取締令

第一章　総則

第一條　本令ニ於テ汽罐ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　密閉セル容器ニシテ專ラ大氣壓ヨリ高キ壓力ノ蒸汽ヲ發生スル汽罐

二　密閉セル容器ニシテ其ノ罐水ノ溫度ヲ上昇セシメテ容器外ニ給湯スル溫水罐

三　密閉セル容器ニシテ蒸汽ヲ發生シ又ハ之ニ蒸汽ヲ送入シテ直接物品ヲ加熱スル蒸罐

第二條　本令ニ於テ傳熱面積ト稱スルハ汽罐ノ一面カ熱ガスニ觸レ他ノ面カ水ニ觸ルル部分ヲ熱ガスノ觸ルル側ニ於テ測レル面積ヲ謂フ

本令ニ於テ爐格面積ト稱スルハ汽罐ノ燃料燒燒ヲ目的トスル火格子ノ有效面積ヲ謂フ

本令ニ於テ制限壓力ト稱スルハ汽罐ノ最高使用ゲージ壓力ヲ謂フ

第三條　本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ之ヲ適用セス

一　制限壓力〇・五瓩平方糎以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ內徑三百粍以下、長六百粍以下又ハ傳熱面積一平方米以下ノモノ

二　傳熱面積三・五平方米以下ノ汽罐ニシテ大氣ニ開放セル蒸汽管又ハ水頭壓五米以下ノ壓管ヲ有シ其ノ管ノ內

徑二十五粍以上ノモノ

三　水頭壓十米以下ノ溫水罐ニシテ爐格面積〇・五平方米以下、傳熱面積八平方米以下ノモノ

四　制限壓力〇・五瓩平方糎以下ノ蒸罐ニシテ罐胴ノ內徑五百粍以下、長千粍以下又ハ內容積〇・二立方米以下ノモノ

五　炊事用高壓釜

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル汽罐ニハ第三十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セス

一　制限壓力四瓩平方糎以下ノ汽罐ニシテ罐胴ノ內徑七百五十粍以下、長千三百粍以下又ハ傳熱面積三平方米以下ノモノ

二　水頭壓二十米以下ノ溫水罐ニシテ爐格面積一平方米以下又ハ傳熱面積十四平方米以下ノモノ

三　蒸罐

第五條　汽罐ヲ設置セントスル者ハ汽罐每ニ別記第一號樣式ニ依ル願書正副二通ニ別記第二號樣式ニ依ル汽罐明細書二通（先ニ罐體檢查ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ罐體檢查濟ノ印ヲ押捺シアル汽罐明細書及其ノ寫）ヲ添ヘ設置地（移動式汽罐ニ在リテハ其ノ主タル作構事務所所在地以下之ニ同シ）地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　汽罐ハ罐體檢查ニ合格シタルモノニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

前項ノ罐體檢查ニ於テ行フ水壓試驗ノ水壓力ハ左ノ各號ニ依ル

一　制限壓力四・三瓩平方糎ヲ超ユルトキハ其ノ壓力ノ一三倍ニ三瓩平方糎ヲ加ヘタル壓力

二　制限壓力一糎平方瓩ヲ超エ四・三瓩平方糎以下ナルトキハ其ノ壓力ノ二倍ノ壓力

三　制限壓力一瓩平方糎以下ナルトキハ二瓩平方糎ノ壓力

四　制限壓力以上ノ壓力ヲ受クルノ虞ナキ溫水罐ニ在リテハ其ノ壓力ニ一瓩平方糎ヲ加ヘタル壓力

第七條　罐體檢查ヲ受ケントスル者ハ汽罐每ニ別記第三號樣式ニ依ル願書ニ別記第二號樣式ニ依ル汽罐明細書二通（第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ヲ爲シタル地方長官ノ罐體檢查ヲ受ケントスル場合ハ此ノ限ニ在ラス）ヲ添ヘ汽罐所在地地方長官ニ申請スヘシ

罐體檢查ニ合格シタルトキハ汽罐ニ別記第四號樣式ニ依ル刻印ヲ押刻シ汽罐明細書一通ニ別記第五號樣式ニ依ル罐體檢查濟ノ印ヲ押捺シ之ヲ交付ス

前項ノ汽罐明細書ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ遠ニ書換ヲ受檢地地方長官ニ申請スヘシ

第二項ノ汽罐明細書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ受檢地地方長官ニ申請スヘシ

第八條　汽罐設置工事竣功シタルトキハ汽罐每ニ別記第六號樣式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ竣功檢查ヲ受クヘシ

竣功檢查ニ合格シタルトキハ別記第七號樣式ノ汽罐檢查ヲ交付ス

移動式汽罐ニ付テハ第一項ノ撤功檢查ヲ省留シ先ニ第五條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ罐體檢查ニ合格シタル際先ニ罐體檢查ニ合格シタルモノニ在リテハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ際別記第七號樣式ノ汽罐檢查證ヲ交付ス

第九條　汽罐ハ汽罐檢查證ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

汽罐設置者ニ變更アリタルトキハ承繼者ハ十日以內ニ設置地地方長官ニ屆出テ汽罐檢查證ノ書換ヲ受クヘシ

汽罐檢查證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ設置地地方長官ニ申請スルコトヲ得

第十條　汽罐設置者汽罐又ハ其ノ設備ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル部分ヲ修繕又ハ變更セントスルトキハ別記第八號樣式ニ依ル願書正副二通ニ汽罐檢查證ヲ添ヘ設置地地方長官ノ許可ヲ受クヘシ汽罐ノ制限壓力又ハ水頭壓ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　汽罐ノ罐胴、炉筒、火室、鏡板、冠板、管板及接
二　焚焼装置
三　汽罐ノ据付基礎

第十一條　前條第一號ノ部分ノ修繕又ハ變更工事竣功シタルトキハ別記第九號樣式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ修繕又ハ變更檢査ヲ受クヘシ

汽罐ハ前項ノ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十二條　汽罐檢査ノ有效期間ハ一年トス但シ汽罐ノ構造又ハ管理ノ狀況ニ依リ地方長官ハ之ヲ短縮シ又ハ延長スルコトヲ得

第十三條　汽罐檢査ノ有效期間滿了後引續キ汽罐ヲ使用セントスルトキハ有效期間滿了前別記第十號樣式ニ依ル願書ヲ提出シ設置地地方長官ノ更新檢査ヲ受クヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ臨時ニ汽罐ノ檢査ヲ行フコトヲ得

地方長官前二項ノ檢査ヲ行フトキハ別記第十一號樣式ニ依リ豫メ期日ヲ指定シテ之ヲ通知ス

第十四條　汽罐ニシテ內務大臣ノ指定スル保險業者ノ保險ニ付シタルモノニ付テハ地方長官ハ前條第一項ノ更新檢査ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ更新檢査ヲ省略セラレタル汽罐ニ付保險契約ノ終了又ハ解除アルトキハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ保險業者ノ保險ニ付シタルトキハ十日以內ニ別記第十二號樣式ニ依リ設置地地方長官ニ屆出ツヘシ其ノ保險契約ノ更新、終了又ハ解除アリタルトキ亦同シ

第一項ノ保險業者汽罐ノ檢査ニ從事スル汽罐檢査員ヲ選任セントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

內務大臣汽罐檢査員カ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十五條　汽罐ノ檢査ヲ受ケントスルトキハ罐體ヲ冷却シ煙道ヲ掃除シ其ノ他受檢ニ必要ナル準備ヲ爲シ置クヘシ

第十六條　汽罐設置者又ハ汽罐取扱主任者ハ檢査ニ立會シ當該官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第十七條　當該官吏檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ命スルコトヲ得

一　汽罐ノ被覆物ノ全部又ハ一部ヲ取除クコト
二　汽罐ヲ移動スルコト
三　鉄若ハ管ヲ押出シ又ハ罐材ニ穿孔スルコト
四　水壓試驗ヲ施行スルコト
五　鑄鐵製汽罐ニ付テハ解體スルコト
六　其ノ他必要ナル事項

第十八條　汽罐設置者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　汽罐室其ノ他汽罐ノ設置場所ニハ係員ノ外濫リニ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨見易キ箇所ニ揭示スルコト
二　汽罐檢査證竝ニ汽罐取扱主任者ノ資格及氏名ヲ汽罐室其ノ他汽罐設置場所內ノ見易キ箇所ニ揭示スルコト但シ移動式汽罐ニ在リテハ汽罐取扱主任者ヲシテ之ヲ携帶セシムルコト
三　汽罐取扱主任者ヨリ汽罐ノ構造裝置ノ缺陷ニ付告知ヲ受ケタルトキハ直ニ危害防止ニ付必要ナル措置ヲ爲スコト

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ汽罐設置者ハ遲滯ナク設置地地方長官ニ屆出ツヘシ

一　汽壓ノ使用ヲ廢止セントスルトキ
二　一年以上汽罐ノ使用ヲ休止セントスルトキ

前項第一號ノ場合ハ汽罐設置者ハ汽罐檢査證ヲ返納スヘシ

第一項第二號ノ汽罐ヲ再ヒ使用セントスルトキハ運滯ナク設置地地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ汽壓檢査ノ有效期間滿了後ナルトキハ再使用檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ再使用檢査ヲ受ケントスルトキハ別記第十三號樣式ニ依リ設置地地方長官ニ申請スヘシ

第二十條　汽罐ノ設置場所ニ於テ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ準スル事故發生シタルトキハ汽罐設置者ハ別記第十四號樣式ニ依リ遲滯ナク設置地地方長官ニ屆出ツヘシ但シ工場法施行規則第二十六條ノ規定ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　汽罐設置者ハ汽罐ニ付一切ノ權限ヲ有スル汽罐管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ汽罐管理人ヲ選任セントスルトキハ汽罐設置者ハ汽罐管理人連署ノ上設置地地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

汽罐管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ汽罐設置者ニ代ルモノトス

第二十二條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ汽罐ノ設置場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第二十三條　地方長官ハ汽罐ノ使用ニ關シ危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ汽罐設置者ニ對シ除害若ハ豫防ノ爲必要ナル施設ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

第二十四條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ノ規定ニ依ル許可ヲ取消スコトヲ得

一　本令ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ニ虛僞ノ事項ヲ記載

シタルトキ

二　汽罐設置者ノ所在不明三月以上ニ亙リタルトキ

三　汽罐ノ使用ヲ引續キ三年以上休止シタルトキ

第二章　汽罐ノ構造

第二十五條　汽罐ハ告示ヲ以テ別ニ定ムル構造上ノ要件ヲ具備シタルモノナルコトヲ要ス

應張力又ハ應曲力ヲ生スル部分ニ付熔接ヲ行ヒタル汽罐ハ熔接ノ設備、設計、施行方法及熔接者ニ付熔接着手前汽罐熔接地地方長官ノ承認ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

地方長官支障ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三章　汽罐室

第二十六條　汽罐ハ專用ノ建物又ハ適當ニ區劃セル場所ニ之ヲ設置スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　汽罐ノ据付位置ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　汽罐ノ外側ト天井又ハ屋根裏トノ間ニハ百二十糎以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ安全弁其ノ他ノ裝置ノ檢査及取扱ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

二　罐體ヲ露出セル汽罐又ハ竪型汽罐ニ在リテハ前號ノ外其ノ外側ト壁體トノ間ニ四十五糎以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ罐胴ノ內徑五百粍以下ニシテ長千粍以下ノモノニ在リテハ三十糎迄短縮スルコトヲ妨ケス

第二十八條　露出セル汽罐ノ外側又ハ金屬性煙突若ハ煙筒ヨリ十二糎以內ニ在ル可燃性材料ハ金屬以外ノ不燃性材料ヲ以テ適當ニ被覆スヘシ

汽罐室又ハ汽罐設置場所ニ燃料ヲ貯藏スル場合ニハ汽罐外側ヨリ百二十糎以上ノ距離ヲ保有セシムヘシ但シ防火ノ爲適當ナル障壁ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　汽罐室ニハ二以上ノ出入口ヲ設クヘシ但シ避難ニ支障ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　本章ノ規定ハ移動式汽罐ニハ之ヲ適用セス

第四章　汽罐士及汽罐取扱主任者

第三十一條　汽罐士免許ヲ受ケタル者（以下單ニ汽罐士ト稱ス）ニ非サレハ汽罐ノ取扱ニ從事スルコトヲ得ス但シ汽罐士ノ指揮監督ノ下ニ補助トシテ作業ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラス

汽罐士免許ヲ分チ一級汽罐士免許及二級汽罐士免許ノ二種トス

第三十二條　汽罐士免許ハ汽罐士試驗ニ合格シ且一級汽罐士免許ニ在リテハ一年以上、二級汽罐士免許ニ在リテハ六月以上、汽罐取扱ノ作業ニ從事シタル者ニ之ヲ與フ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ之ヲ與ヘス

一　女子又ハ十八歲未滿ノ者

二　精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

三　汽罐士免許ノ取消ヲ受ケ一年ヲ經過セサル者

四　其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

第三十三條　汽罐士試驗ハ左ノ各號ノ科目ニ關シ之ヲ行フ

一　汽罐構造（設計及材料ニ關スル事項ヲモ含ム）

二　汽罐取扱方法

三　燃料及燃燒

四　汽罐取締ニ關スル法令

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ一級汽罐士試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　工業學校ニシテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ若ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ機械又ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

三　二級汽罐士免許ヲ受ケ三年以上汽罐取扱ニ從事シタル者

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テ二級汽罐士試驗ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　前項第一號ニ定ムル以外ノ工業學校ニ於テ機械若ハ船用機關ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者又ハ地方長官ノ指定シタル青年學校ニ於テ汽罐ニ關スル學科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

二　前號ト同等以上ノ學識經驗ヲ有スト認メタル者

三　二級汽罐士免許ヲ受ケ一年以上汽罐取扱ニ從事シタル者

四　其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

第三十五條　汽罐士試驗ハ左ノ各號ノ科目ニ關シ之ヲ行フ

一　汽罐構造（設計及材料ニ關スル事項ヲモ含ム）

二　汽罐取扱方法

三　燃料及燃燒

四　汽罐取締ニ關スル法令

第三十六條　汽罐士免許ヲ受ケントスル者ハ別記第十七號樣式ニ依リ前條ノ試驗ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スヘシ

地方長官汽罐士免許ヲ與ヘタルトキハ別記第十八號樣式ノ汽罐士免許證ヲ交付ス

第三十七條　汽罐士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

一　故意又ハ重大ナル過失ニ因リ火災、汽罐ノ破裂又ハ之ニ準スル事故ヲ惹起シタルトキ

二　第三十二條第二號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

三　汽罐取扱主任者タル汽罐士第四十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク汽罐士免許證ヲ返納スヘシ

汽罐士免許ノ停止期間滿了シタルトキハ汽罐士免許證ヲ還付ス

第三十八條 汽罐士免許證ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ別記第十九號樣式ニ依リ免許ヲ受ケタル地ノ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三十九條 汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者ヲ選任スヘシ

前項ノ汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ニ該當スル者ナルコトヲ要ス但シ第四條ノ汽罐ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七瓩平方糎以上ノモノニ在リテハ一級汽罐士

二 其ノ他ノモノニ在リテハ一級汽罐士又ハ二級汽罐士

汽罐設置者第一項ノ規定ニ依リ汽罐取扱主任者ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書及汽罐士免許證ノ寫（前項但書ノ場合ヲ除ク）ヲ添ヘ設置地地方長官ニ屆出ツヘシ

地方長官汽罐取扱主任者カ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第四十條 汽罐取扱主任者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 水面測定裝置ハ一日ニ一回以上其ノ機能ヲ檢査スルコト

二 罐水ノ汚濁ニ注意シ適宜排水ヲ行フコト

三 給水裝置ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト

四 安全弁ノ機能ヲ保持スル爲常ニ注意スルコト

五 汽罐檢査證ニ記載シタル制限壓力ヲ超エテ蒸汽壓ヲ上昇セシメサルコト

六 危害豫防ニ注意シ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ適當ナル措置ヲ爲スコト

汽罐設置者ハ汽罐取扱主任者カ項前各號ノ事項ヲ遵守スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第五章 手數料

第四十一條 汽罐設置者第七條第一項（罐體檢査）、第八條第一項（竣功檢査）、第十一條第一項（修繕、變更檢査）、第十三條第一項（更新檢査）又ハ第十九條第五項（再使用檢査）ノ檢査ヲ受ケントスルトキハ別表第一號ニ定ムル手數料ヲ納付スヘシ

第四十二條 汽罐士試驗若ハ汽罐士免許ヲ受ケントスル者又ハ汽罐士免許證ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ別表第二號ニ定ムル手數料ヲ納付スヘシ

第四十三條 前二條ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ願書ニ之ヲ貼付スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス但シ第三十四條ノ規定ニ依リ汽罐士試驗ノ全部ヲ省略シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六章 罰則

第四十四條 左ニ揭クル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

一 第五條（汽罐設置許可）、第六條第一項（罐體檢査）、第九條第一項（汽罐檢査證）、第十條（汽罐修繕、變更許可）、第十一條第二項（汽罐修繕、變更檢査）、第十四條第四項（汽罐檢査員ノ認可）、第十五條（汽罐檢査ノ準備）、第十六條（汽罐檢査ノ立會）、第十八條（汽罐設置者ノ遵守事項）、第十九條第四項（汽罐再使用檢査）、第二十六條乃至第二十九條（汽罐室）、第三十一條第一項（汽罐士免許）、第三十九條第一項（汽罐取扱主任者ノ選任）及第四十條（汽罐取扱主任者ノ遵守事項及汽罐設置者ノ義務）ノ規定ニ違反シタル者

二 第十三條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ妨ケ若ハ檢査ヲ受クルコトヲ怠リタル者、第十七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ從ハサル者又ハ第二十三條ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者

第四十五條 第七條第三項（汽罐明細書換手續）、第九條第二項（汽罐設置者變更手續）、第十四條第三項（保險契約及其ノ更新終了又ハ解除ノ屆出）、第十九條第一項乃至第三項（汽罐使用ノ廢止又ハ休止ノ屆出、汽罐檢査證ノ返納及汽罐再使用ノ屆出）、第二十條（事故ノ屆出）、第三十七條第二項（汽罐士免許證ノ返納）及第三十九條第三項（汽罐取扱主任者ノ屆出）ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十六條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第四十七條 汽罐設置者又ハ汽罐管理人ハ其ノ代理人、戶主家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四十八條 本令ニ依ル罰則ハ汽罐管理人ヲ選任シタル場合ニ在リテハ汽罐管理人ニ、法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第七章 附則

第四十九條 本令ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 地方長官ハ本令施行ノ際汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ設置又ハ修繕ノ許可申請中ノ汽罐ニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラス從前ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ本令ニ依リ處分シタルモノト看做ス

第五十一條 本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ檢査若ハ試驗又ハ許可若ハ認可ヲ受ケタル汽罐ハ本令ニ依リ檢査又ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル汽罐檢査ノ有效期間ハ之ヲ變更セス但シ本令施行後一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 本令施行ノ際現ニ許可又ハ檢査ヲ要セスシテ使

用スル汽罐ニシテ本令ノ規定ニ依リ新ニ許可又ハ檢査ヲ受クルヲ要セルモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラス從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五十三條 本令施行ノ際現ニ汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ從事スル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ハ本令ノ規定ニ拘ラス從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行前汽罐取締ニ關スル道府縣ノ命令ニ依リ汽罐取扱ニ關スル資格ニ付地方長官ノ證明若ハ免許ヲ有スル者若ハ本令施行前一年以上汽罐ノ取扱ニ從事シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年以内ニ本人ノ申請アリタル場合ニ限リ第三十二條ノ規定ニ拘ラス左ノ區別ニ從ヒ汽罐士免許ヲ與フ

一　取扱汽罐ノ傳熱面積合計二十五平方米以上又ハ制限壓力七瓩平方糎以上ノ汽罐ノ取扱ニ付資格又ハ免許アル者ハ其ノ取扱全任ニハ一級汽罐士

二　其ノ他ノ者ニ在リテハ二級汽罐士

第三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ在リテハ第四十二條ノ規定ニ依ル手數料ハ之ヲ徵收セス

（別記樣式略ス）

汽罐取締令施行細則

警視廳令第七號（昭和十年四月四日）

改正　昭和十三年八月第三三號

汽罐取締令施行細則左ノ通定ム

汽罐取締令施行細則

第一條 汽罐取締令（以下單ニ令ト稱ス）ニ依ル願屆書類ハ警視總監ニ提出スヘシ但シ第五條（汽罐設置許可）、同第九條（汽罐設置者變更、汽罐檢查證再交付）、同第十九條第一項（汽罐使用廢止休止）、及第三項（汽罐再使用）、同第二十條（災害發生屆）、同第二十一條（汽罐管理人選任）及同第三十九條（汽罐取扱主任者選任）ノ規定ニ依ルモノハ汽罐設置地所轄警察署長ヲ、令第五十三條第二項（附則）ニ依ル汽罐士免許申請）ノ規定ニ依ルモノハ住所地所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第三條ノ二、第八條第七項、第十二條及第十三條ニ依リ警視總監ニ提出スヘキ願屆書類ハ汽罐設置地所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第二條 令第九條第二項ノ規定ニ依ル屆出ハ別記第一號樣式ニ、同樣第三項ノ規定ニ依ル申請ハ別記第二號樣式ニ依ルヘシ

第三條 罐體檢查ヲ受ケントスルトキハ罐内外ヲ清掃シ水壓檢查ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

鑄鐵製分割式汽罐ノ罐體檢查ヲ受ケントスルトキハ別記第三號樣式ニ依ル銘板ヲ準備シ置クヘシ

移動式汽罐ノ罐體檢查ヲ受ケントスルトキハ附帶設備ヲ完備シ置クヘシ

第三條ノ二 令第十條第二號又ハ第三號ニ該當スル工事竣功シタルトキハ別記第三號樣式ノ二ニ依ル竣功屆ヲ提出スヘシ

第四條 令第十三條ノ規定ニ依ル更新檢查願ハ有效期間滿了ノ前月十日迄ニ提出スヘシ

更新檢查ヲ受ケントスルトキハ罐體ヲ冷却セシメ罐水ヲ排除シ入孔蓋、檢查孔蓋、掃除孔蓋、辨爐格及火橋（蒸罐ニ在リテハ入孔蓋又ハ蓋板）ヲ取外シ罐内ノ罐石又ハ塗料ヲ剝離シ煙道其ノ他ノ必要ナル部分竝ニ安全瓣、硝子水面計等ヲ清掃シ受檢（鑄鐵製分割式汽罐ニ在リテハ罐内外ヲ清掃シ水壓檢查）ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第五條 移動式汽罐ヲ設置地以外ニ於テ使用セントスルトキハ使用前日迄ニ別記第四號樣式ニ依リ使用地所轄警察署長ニ屆出ツヘシ

第六條 令第十九條第一項第一號ノ規定ニ依ル廢罐屆ハ別記第四號樣式ノ二ニ、同項第二號ノ規定ニ依ル休罐檢查證添附ノ上別記第四項樣式ノ三ニ依ルヘシ

第七條 令第二十一條ノ規定ニ依リ汽罐管理人選任ノ認可ヲ受ケントスルトキハ別記第五號樣式ニ依ル申請書正副二通ヲ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ汽罐管理人タルヘキ者ノ履歷書竝選任契約書ノ寫ヲ添附スヘシ

汽罐管理人ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

第八條 汽罐設置者ハ汽罐ノ使用開始前汽罐取扱主任者ヲ選任シ屆出ツヘシ

令第四條ニ該當スル汽罐ノ取扱主任者ノ選任屆書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

汽罐取扱主任者ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

前三項ノ屆書ハ別記第六號樣式ニ依リ正副二通ヲ提出スヘシ

前項ノ屆書副本ハ別記第七號樣式ニ依ル取扱主任選任屆濟印又ハ別記第八號樣式ニ依ル取扱主任變更屆濟印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

作業ノ狀態ニ依リ必要アリト認メタルトキハ二人以上ノ汽罐取扱主任者ヲ選任セシムルコトアルヘシ

汽罐設置者ハ特殊ノ事由アル場合ニ限リ警視總監ノ認可ヲ得テ汽罐取扱主任者ヲシテ二以上ノ汽罐設置地ニ勤務セシムルコトヲ得

第九條　汽罐士免許願ニハ所定ノ期間汽罐ノ取扱ニ從事シタルコトヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

第十條　「コルニツシエ」型、「ランカシヤ」型汽罐又ハ之ニ類似セル汽罐ヲ据付ケントスルトキハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一　數箇ノ汽罐ヲ併置セントスルトキハ各汽罐間ノ隔壁ノ厚サヲ四百六十粍以上ト爲スコト

二　汽罐ト煉瓦壁トノ間隔ハ檢査又ハ掃除ノ爲潛入シ得ル間隔ヲ保有セシムルコト

三　煉瓦積ニ設クル出入口ノ寸法ハ幅三百粍以上、長サ四百粍以上ト爲スコト

四　汽胴ノ最底部ト煙道底部トノ距離ハ三百粍以上ト爲スコト

五　汽罐ノ前面ト壁面トノ間ニハ爐格ノ長サノ一倍半以上ノ距離ヲ保有セシムルコト但シ汽罐ノ前面ニ適當ナル出入口ヲ有シ作業ニ支障ナキトキ又ハ爐格ヲ有セス若ハ自動給炭機ヲ許備セル汽罐ニ在リアハ此ノ限ニ在ナス

六　汽罐ト煉瓦トノ接觸スル部分ニシテ間隙ヲ生シ火焰ヲ漏出スル虞アル部分ハ耐熱材料ヲ以テ之ニ防止スルコト

第十一條　溫水罐ノ逸水裝置ノ逸水管ハ傳熱面積ニ從ヒ左ノ大サタルヘシ

傳熱面積	逸水管ノ內徑
十平方米未滿	二十五粍以上
十五平方米未滿	三十粍以上
二十平方米未滿	四十粍以上
二十平方米以上	五十粍以上

第十二條　燃料ヲ變更セントスルトキハ警視總監ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

一　汽罐設置地地名番號

二　汽罐設置者又ハ汽罐管理人ノ住所氏名（法人ノ場合ニ在リテハ主タル事務所所在地、代表者氏名）

三　汽罐設置者ノ法定代理人、保佐人又ハ夫

前項第一號及第二號ノ屆書ニハ汽罐檢查證ヲ添附スヘシ

第十四條　從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル合格證書若ハ責格證明書ヲ所持スル者令第五十三條ノ規定ニ依リ汽罐士免許證交付ノ申請ヲ爲サントスルトキハ該證書ヲ添附スヘシ

第十五條　第三條（罐體檢查ノ準備）、第四條第二項（更新檢查ノ準備）、第五條（移動式汽罐ノ使用地變更）、第十二條（燃料變更）及第十三條（汽罐設置者住所等ノ變更）ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十六條　令第四十七條及同四十八條ノ規定ハ本令ノ罰則ニ之ヲ適用ス

附　則

第十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　昭和七年六月警視廳令第十六號汽罐取締規則ハ之ヲ廢止ス

第十九條　本令施行ノ際既ニ設置セル汽罐ニ付テハ其ノ改築ニ至ル迄第十條第一號乃至第五號及第十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第一號樣式

汽罐承繼屆

一　設置地地名番號
一　被承繼者住所氏名
一　承繼者住所氏名生年月日
一　事業ノ種類竝使用目的
一　汽罐ノ種類
一　汽罐檢查證番號

左ノ通承繼仕候此段以連署及御屆候也

年　月　日

右　被承繼者　氏　名印
　　承繼者　氏　名印

第二號樣式

汽罐檢查證再交付願

一　設置地地名番號
一　設置者氏名
一　事業ノ種類竝使用目的
一　汽罐ノ種類
一　汽罐檢查證番號
一　再交付ノ事由（毀損ノ場合ハ舊檢查證添附）

右ノ通汽罐檢查證滅失（毀損）致候條再交付相成度此段及御願候也

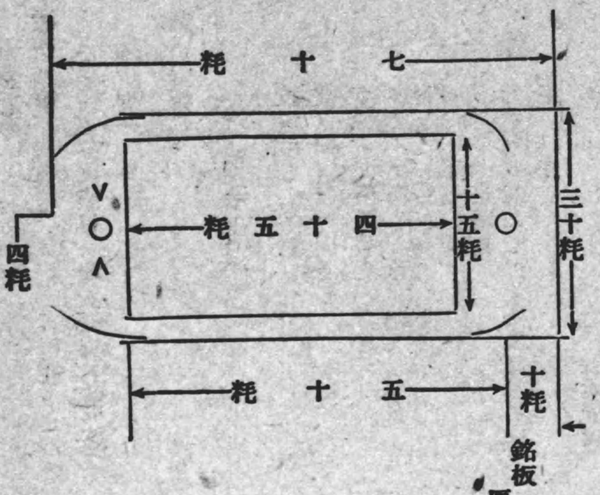
年　月　日

右　氏　名印

（妻ノ場合ハ夫、未成年者ノ場合ハ法定代理人ノ同意ヲ要ス）

警視總監氏名殿

第三號樣式



第三號樣式ノ二

汽罐焚燒裝置据付基礎竣功屆

一 設置地地名番號
一 設置者ノ住所氏名
一 汽罐ノ種類
一 汽罐檢查證番號

右ノ通移動式汽罐使用致度汽罐檢查證寫相添氏段及御屆候也

年 月 日

右 氏 名印

警視署長氏名殿

第四號樣式ノ二

一 汽罐檢查證番號
一 傳熱面積
一 汽罐焚燒裝置据付基礎許可年月日及指令番號

右ノ通汽罐焚燒裝置据付基礎工事撤功致候條此段及御屆候也

年 月 日

右 氏 名印

警視總監氏名殿

第四號樣式

移動式汽罐使用屆

一 設置者ノ住所、氏名
一 汽罐取扱主任者ノ資格及氏名
一 汽罐檢查證番號
一 使用場所、使用期間及使用始終時
一 燃料ノ種類
一 煙突ノ口徑及高

右ノ通移動式汽罐使用致度汽罐檢查證寫相添氏段及御屆候也

年 月 日

右 氏 名印

警視署長氏名殿

第四號樣式ノ二

汽罐廢止屆

一 設置地地名番號
一 設置者ノ住所氏名
一 汽罐ノ種類
一 汽罐檢查證番號

右ノ通廢止仕候條汽罐檢查證相添此段及御屆候也

年 月 日

右 氏 名印

警視總監氏名殿

第四號樣式ノ三

一 設置地名番號
一 設置者ノ住所氏名
一 汽罐ノ種類
一 汽罐檢查證番號
一 汽罐休止繼續期間 自 至

右ノ通汽罐休止繼續致度候條汽罐檢查證相添此段及御屆候也

年 月 日

右 氏 名印

警視總監氏名殿

第五號樣式

汽罐管理人選任認可申請

一 設置地地名番號
一 設置者ノ住所氏名
一 汽罐檢查證番號
一 事業ノ種類竝使用目的
一 管理人ノ住所、氏名、生年月日
一 管理人選任ノ事由

右ノ通汽罐管理人選任致度御認可相成度別紙履歷書及選任契約書相添へ此段及申請候也

年 月 日

右 氏 名印

警視總監氏名殿

第六號樣式

汽罐取扱主任選任變更屆

一 設置地地名番號
一 設置者氏名
一 事業ノ種類竝使用目的
一 汽罐種類
一 傳熱面積
一 制限壓力又ハ水頭壓
一 取扱主任者氏名

一　免許證級別
一　變更ノ場合ハ前取扱主任者ノ氏名、免許證級別解任年月日
右ノ通汽罐取扱主任ニ選任致度履歴書及免許證寫相添ヘ此段及御屆候也
年　月　日　右　氏　名印
警視總監氏名殿

第七號樣式

第　號
昭和　年　月　日
取扱主任選任屆濟
警視廳

第八號樣式

第　號
昭和　年　月　日
取扱主任變更屆濟
警視廳

四　十　耗

原動機取締規則

警視廳令第八號（昭和十年五月四日）
改正　昭和一三年八月廳令第三四號
原動機取締規則左ノ通定ム
原動機取締規則

第一條　本令ニ於テ原動機ト稱スルハ蒸汽機關及內燃機關ヲ謂フ
左ニ揭クル原動機ハ本令ノ適用ヲ除外ス
一　他ノ法令ノ適用ヲ受クルモノ
二　五馬力未滿ノモノ
三　十馬力未滿ノ移動式原動機ニシテ稻扱、籾摺、灌漑用又ハ設置地ニ於テ六箇月以上ニ亙ナサル期間使用スルモノ

第二條　原動機ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シタル願書正副二通ヲ提出シ許可ヲ受クヘシ第五號(イ)又ハ(ト)若ハ第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但シ願出ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
一　原動機設置者ノ住所、氏名、生年月日（法人ニ在テハ其ノ名稱、事務所所在地ノ代表者ノ氏名以下之ヲ倣フ）
二　事業又ハ營業ノ種別、工場名又ハ屋號其ノ他之ニ類スル名稱
三　原動機設置地地名番號、市街地建築物法ニ依ル地域並地區
四　出願要旨
五　摘要書
イ　原動機室ノ構造及床面積
ロ　原動機ノ種類及基數
ハ　原動機又ハ其ノ附屬機械其ノ他設備ノ位置
ニ　原動機ノ附屬機械其ノ他設備ノ名稱又ハ能力ヲ示ス標準、用途及箇數
ホ　原動機ノ使用目的竝使用始終時
ヘ　燃料ノ種類及一日ノ最大消費見積高
ト　除害設備ノ概要
六　圖面
イ　周圍ノ狀況
ロ　原動機竝其ノ附屬機械其ノ他設備ノ配置
ハ　原動機ノ基礎
ニ　原動機室
七　原動機室ノ構造調書
八　原動機ノ構造調書
イ　原動機ノ種類及基數
ロ　氣筒數及其ノ內徑竝衝程
ハ　馬力數又ハ「キロワット」數
ニ　回轉數(毎分)
ホ　調速機ノ種類
ヘ　勢輪ノ材質、主要寸法竝箇數
九　原動機ノ附屬機械其ノ他設備ノ構造調書
イ　起動裝置ノ概要
ロ　冷却裝置竝冷却方法ノ概要
ハ　排氣裝置竝排氣方法ノ概要
ニ　瓦斯發生裝置ノ概要
ホ　燃料貯藏設備ノ概要
十　工事竣功期日
前項ノ外必要ト認ムル書類又ハ圖面ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ
第一項ノ副本ハ指令書ト共ニ之ヲ交付ス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ前條第一項各號ノ事項ヲ具シタル屆書正副二通ヲ提出スヘシ但シ屆出ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
一　原動機又ハ其ノ附屬機械ノ位置
二　原動機ノ附屬機械
三　原動機ノ使用目的竝使用始終時
四　工事竣功期日
前項ノ副本ハ別記第一號樣式ニ依ル原動機屆濟印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

第四條　工事撤功シタルトキハ屆出テ檢查ヲ受ケ別記第二號樣式ニ依ル原動機檢查證ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
原動機檢查證ハ原動機ノ使用繼續中之ヲ設置地ニ保存スヘシ
原動機檢查證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ事由ヲ

具シ届出テ再交付ヲ受クヘシ

第五條 原動機設置者ハ原動機使用開始前原動機取扱主任者ヲ選任シ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ届出ヲ爲サントスルトキハ履歴書ヲ添附シ届書正副二通ヲ提出スヘシ

前項届書ノ副本ハ別記第三號樣式ニ依ル取扱主任選任届濟印又ハ別記第四號樣式ニ依ル取扱主任變更届濟印ヲ押捺シテ之ヲ交付ス

原動機取扱主任者ニシテ不適當ト認メタルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 移動式原動機ヲ設置地以外ニ於テ使用セントスルトキハ使用前日迄ニ左ノ事項ヲ具シ使用地所轄警察署長ニ届出ツヘシ

一 原動機設置者ノ住所、氏名

二 原動機ノ種類

三 原動機取扱主任者ノ氏名

四 原動機檢査證番號

五 原動機ノ使用場所、使用期間及使用始終時

第七條 原動機ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ設置ヲ許可セス

一 破裂又ハ火災ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキ

二 著シク震動、騷音ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキ

三 其ノ他公共ノ利益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキ

第八條 工事ニ付特ニ指示シタルトキハ其ノ都度届出テ檢査ヲ受クルニ非サレハ爾後ノ工事ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 原動機設置者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 原動機室又ハ原動機設置場所ニハ係員ノ外濫リニ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨見易キ箇所ニ掲示スルコト

二 原動機檢査證及原動機取扱主任者ノ氏名ヲ原動機室又ハ原動機設置場所内ノ見易キ箇所ニ掲示スルコト

三 原動機ハ原動機取扱主任者ヲシテ取扱ハシメ又ハ現場ニ於テ監督ヲ爲サシムルコト

四 原動機ニ事故發生シタルトキハ原動機取扱主任者ヲシテ適宜ノ措置ヲ講セシメ即時届出ツルコト

第十條 原動機ハ專用ノ建物又ハ別室若ハ適當ニ區劃セル場所ニ設置スヘシ但シ作業ノ性質上已ムヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ原動機室又ハ原動機設置場所ハ採光及照明ヲ良好ニスヘシ

必要アリト認ムルトキハ換氣又ハ防火ノ爲適當ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 原動機室ニハ二以上ノ出入口ヲ依クヘシ但シ差支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

出入口ノ扉ハ外開戸又ハ引戸ト爲スヘシ

第十二條 當該官吏原動機ヲ檢査又ハ臨檢セントスルトキ若ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 原動機設置者又ハ原動機管理人及原動機取扱主任者ハ本令ニ依ル檢査ニ立會シ當該官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第十四條 當該官吏檢査ノ爲必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ命スルコトアルヘシ

一 原動機ヲ運轉スルコト

二 原動機ヲ解體スルコト

三 原動機ヲ移動スルコト

四 壓力槽ニ在リテハ鉄ヲ抽出シ槽材ニ穿孔スルコト

五 水壓試驗ヲ施行スルコト

六 其ノ他必要ナル事項

第十五條 原動機ノ使用權ヲ承繼シタル者ハ住所、氏名、生年月日ヲ記シ雙方連署ノ上原動機檢査證ヲ添附シ十日以内ニ届出ツヘシ但シ連署シ能ハサルトキ又ハ原動機檢査證ヲ添附シ能ハサルトキハ其ノ旨届書ニ附記シ其ノ事由ヲ確認スルニ足ルヘキ書類ヲ添附スヘシ

相續ニ因ル承繼アリタルトキハ相續人ハ相續開始ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ原動機檢査證ヲ添附シ其ノ旨届出ツヘシ

第十六條 原動機設置者自ラ原動機ヲ管理スルコト能ハサルトキハ原動機ニ關スル一切ノ權限ヲ有スル管理人ヲ選任シ左ノ事項ヲ具シ原動機檢査證ヲ添附シ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一 原動機設置者ノ住所、氏名、生年月日

二 原動機設置地地名番號

三 原動機管理人ノ住所、氏名、生年月日

四 原動機檢査證番號

五 選任契約書ノ寫

六 原動機管理人ノ履歷書

工場法、汽罐取締令、工場取締規則又ハ「セルロイト」工場取締規則ニ依リ選任セラレタル管理人ハ本令ニ依ル原動機管理人ト看做ス

前項ニ該當スル事實アリタルトキハ第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ具シ原動機檢査證ヲ添附シ遲滯ナク届出ツヘシ第一項及第二項ノ原動機管理人不適當ト認メタルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

原動機管理人ハ本令ノ適用及本令ノ規定ニ基キテ發スル命令ノ遵守ニ付テハ原動機設置者ニ代ルモノトス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ選滯ナク届出ツヘシ

一 原動機設置者又ハ原動機管理人ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキ

二　法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキ
三　事業又ハ營業ノ種別、工場名又ハ屋號名其ノ他之ニ類スル名稱又ハ原動機設置地地名番號ニ變更アリタルトキ
四　原動機ヲ廢止シタルトキ

前項第一號、第三號及第四號ノ屆出ニハ原動機檢查證ヲ添附スヘシ

第十八條　原動機設置場所ニ於テ火災、破裂、倒壞其ノ他ノ事故發生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滯ナク屆出ツヘシ但シ工場法施行規則第二十六條、汽罐取締令第二十條、工場取締規則第十五條及「セルロイド」工場取締規則第二十一條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　原動機設置者ノ住所、氏名
二　原動機設置地地名番號
三　事故發生ノ日時及場所
四　事故ノ原因及發生ノ狀況
五　被害ノ狀況及損害見積高
六　死傷者ノ氏名、男女別及年齡

第十九條　原動機ノ使用ニ關シ危害ヲ生シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ原動機設置者ニ對シ除害若ハ豫防ノ爲必要ナル施設ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ禁止スルコトアルヘシ

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

一　本令ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ニ虛僞ノ事項ヲ記載シタルトキ
二　撤功期日ヲ經過シ仍工事竣功セサルトキ
三　（削除）
四　原動機ノ使用權ヲ喪失シタルトキ
五　法定代理人、保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ取消サレタルトキ

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル許可又ハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

一　竣功期日經過後六月以內ニ原動機檢查證ヲ受ケサルトキ
二　原動機設置者ノ所在不明九十日以上ニ亘リタルトキ

第二十二條　本令ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ハ第六條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外原動機設置地所轄警察署長ヲ經由シ警視總監ニ提出スヘシ

第二十三條　本令ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類ハ未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ法定代理人、準禁治產者ニ在リテハ保佐人、妻ニ在リテハ夫ノ連署ヲ要ス

第二十四條　原設動機置者ハ本令ノ規定ニ依リ提出シタル書類ニシテ第二條、第三條及第五條ノ規定ニ依ル願書又ハ屆書ノ副本ハ原動機ノ使用繼續中、其ノ他ノ書類ハ謄本ヲ作成シ二箇年間之ヲ原動機設置地ニ保存スヘシ

第二十五條　本令ニ規定スル事項ニ付他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ要スル場合ニ於テ本令ノ規定ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ法令ノ規定ニ依ル願書又ハ屆書ニ本令ニ規定スル事項ヲ併セ具スルコトヲ得

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第二條、第四條、第八條、第九條、第十一條乃至第十三條及第二十四條ノ規定ニ違反シタル者
二　第三條、第五條第一項、第六條、第十五條、第十六條第一項、同第三項、第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ若ハ其ノ屆書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者
三　第五條第四項、第十條第三項、第十四條、第十六條第四項及第十九條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第二十七條　原動機設置者又ハ原動機管理人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十八條　本令ニ依ル罰則ハ原動機管理人ヲ選任シタル場合ニ在リテハ原動機管理人ニ、法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ、未成年者及ハ禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

原動機管理人ノ選任アル場合ト雖違反行爲ニシテ原動機設置者ノ指揮ニ出テタルトキハ原動機設置者ヲモ處罰ス

第二十九條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ之ヲ處罰ス

附　則

第三十條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條　昭和七年六月警視廳令第十七號原動機取締規則ハ之ヲ廢止ス

第三十二條　昭和七年六月警視廳令第十七號原動機取締規則ニ依リ許可又ハ許可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一號樣式

第二號樣式

（表面）

一五〇粍

原動機檢査證

設置地

設置者氏名

番號	種類	出力
第　號	定置式 移動式	馬力 キロワット

年　月　日

警視廳印

二一〇粍

第二號樣式

（裏面）

年月日	記載事項	主務者認印

第三號樣式

第　號
年　月　日
取扱主任選任届済
警視廳

四〇粍

第　號
年　月　日
取扱主任變更届済
警視廳

第四號樣式

昇降機取締規則

警視廳令第三十號（大正十五年七月三日）

改正　昭和五年九月廳令第三三號

昇降機取締規則左ノ通定ム

昇降機取締規則

第一章　總則

第一條　本令ニ依ル願届書ハ別段ノ定アルモノノ外昇降機「エスカレーター」又ハ起重機所在地所轄警察官署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ

第二條　本令ニ依ル願届書ハ願出人又ハ届出人ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ヲ設置、改許、增設、修繕シ又ハ其ノ構造設備若ハ用途ヲ變更セムトスルトキハ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ乘用ヲ貨物用ニ變更セムトスルトキ及一時ノ用途ニ供スルモノニ在リテハ届出ツヘシ

一　昇降機

二　「エスカレーター」

三　能力三噸以上又ハ主柱若ハ斜柱ノ長四十尺以上ノ起重機但シ市街地建築物法施行區域内ニ於ケル建築工事用ノモノ又ハ工場敷地内ニ設置スルモノニシテ斜柱ヲ有セサルモノヲ除ク

第四條　前條ノ規定ニ依ル願届書ニハ左ノ事項ヲ具シ設計書及圖面ヲ添ヘ正副二通ヲ提出スヘシ但シ願届ニ關係ナキ事項及圖面ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　設置者ノ氏名、住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地代表者ノ氏名）

二　設置地ノ地名、番號

三　建築物ノ名稱、用途

四　種類及用途

五　定員又ハ積載定量

六　願届ノ要旨

七　工事監督者ノ氏名、住所
八　起工期日及竣工期日
前項ノ設計書ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一　昇降機及「エスカレーター」ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
イ　昇降體ノ構造設備、重量及速度
ロ　昇降路ノ構造設備
ハ　軌道ノ構造
ニ　捲揚用及平衡錘用索條ノ構造强度及把持方法
ホ　平衡錘ノ構造及重量
ヘ　原動機、制禦器及捲揚機ノ種類、能力、位置、構造及据付方法
ト　各種安全裝置ノ構造及作用
チ　特殊ノ裝置アルモノハ其ノ構造及作用
二　「ガイダリック」起重機ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
イ　「フック」ノ構造、重量及吊揚速度
ロ　主柱及斜柱ノ構造設備、重量、旋廻速度、起伏速度
ハ　主柱ノ基礎及据付方法
ニ　吊揚用、旋廻用及起伏用索條ノ構造、强度、重量及把持方法
ホ　吊揚用及起伏用「ブロック」ノ構造及重量

ヘ　原動機、制禦器及捲揚機ノ種類、能力、位置、構造重量及据付方法
ト　各種安全裝置ノ構造及作用
チ　特殊ノ裝置アルモノハ其ノ構造及作用
三　其ノ他ノ起重機ノ設計書ハ前號ノ設計書ニ準スヘシ
第一項ノ圖面ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一　昇降機「エスカレーター」及「ガイデリック」起重機ノ圖面ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
イ　建築物各階ニ於ケル昇降路ノ位置ヲ示ス圖（建築物外ニ設置スルモノニ在リテハ附近建築物其ノ他ノ工作物ニ對スル位置ヲ示ス圖）
ロ　昇降體及昇降路又ハ吊揚用「フック」、主柱及斜柱ノ構造圖
ハ　軌道、平衡錘又ハ主柱、斜柱、「フック」及「ブロック」竝索條、支線、原動機、制禦器、捲揚機及各種安全裝置ノ配置圖
ニ　原動機、制禦器、捲揚機ノ構造圖
ホ　電氣配線圖
ヘ　特殊ノ裝置アルモノハ其ノ詳細圖
二　其ノ他ノ起重機ノ圖面ハ前號ニ準スヘシ
第五條　第三條ノ許可ヲ受ケタル昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ニシテ工事竣功前前條第一項第四號乃至第六號

第二項及第三項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ設計書及圖面ヲ具シタル願書正副二通ヲ提出シ許可ヲ受クヘシ
前項ノ昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ノ使用認可證交付前前條第一項第一號、第三號、第七號又ハ第八號ノ事項ニ變更アリタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ
第六條　工事ヲ中止シ又ハ廢止シタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ
第七條　工事場ニハ願書ノ副本又ハ其ノ寫ヲ備置クヘシ
當該吏員前項書類ノ提示ヲ要求シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第八條　工事竣功シタルトキハ直ニ屆出テ使用認可證ノ交付ヲ受クヘシ
前項使用認可證ノ交付ヲ受ケタル後ニ非サレハ昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ヲ使用スルコトヲ得ス
第九條　起工期日ヲ經過シ起工セサルトキ又ハ竣功期日ヲ經過シ仍竣功セサルトキハ第三條ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第十條　昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ヲ承繼シタル者ハ使用認可證ヲ添ヘ被承繼者連署ノ上五日（相續ニ依ルモノハ十日）以內ニ屆出テ使用認可證ノ書換ヲ受クヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スルコトヲ要ス
前項ニ依リ屆出テタル承繼者ハ之ヲ設置者ト看做ス

第十一條　昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ヲ廢止シタルトキハ五日以內ニ使用認可證ヲ添ヘ屆出ツヘシ
第十二條　當該吏員昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ノ檢査ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス之ニ必要ナル準備ヲ命シタルトキ亦同シ
第十三條　昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ除去、修繕、使用禁止、使用停止工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ
一　保安上危險、衞生上有害其ノ他公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキ
二　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ工事ヲ爲シ又ハ使用シタルトキ
第十四條　昇降機運轉手又ハ起重機取扱主任者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ
一　業務上不適當ト認メタルトキ
二　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
第十五條　本令ハ機械ノ一部ヲ構成シ獨立ノ效用ヲ目的トセサル昇降機ニ之ヲ適用セス

第二章　構造設備

第十六條　昇降機各部ノ强度計算ニ於ケル昇降體ノ動荷重ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　乗用昇降機ニ在リテハ床面積一平方米ニ付三百七十瓩以上

二　貨物用昇降機ニ在リテハ床面積一平方米ニ付二百五十瓩以上

貨物用昇降機ニ在リテハ貨物ノ種類ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ動荷重ヲ指定スルコトアルヘシ

第十七條　昇降體ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ特殊ノ用途ニ供スルモノニシテ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　主要構造部ハ鐵材ヲ以テ構成スルコト

二　周圍ニハ圍障ヲ設ケ昇降體內ノ人又ハ物カ平衡錘、昇降路ノ壁其ノ他ニ觸ルル虞ナキ構造ト爲スコト

三　出入口ヲ二以上設ケサルコト

四　出入口ニ堅牢ナル戸ヲ設クルコト

五　非常出口ヲ有スル屋蓋ヲ設クルコト

六　電燈設備ヲ爲スコト

第十八條　昇降路ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ特殊ノ構造設備又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ第三號乃至第十一號ニ依ラサルコトヲ得

一　主要構造部ハ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

二　周圍ニ圍障ヲ設ケ圍障外ノ人又ハ物カ昇降體又ハ平衡錘ニ觸ルル虞ナキ構造ト爲スコト

三　周圍ノ內面ニハ凹凸ナカラシムルコト但シ昇降體ニ通スル出入口床先ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

四　昇降體ニ通スル出入口ヲ建物ノ各階ニ設クルコト

五　前號出入口ハ幅及高ヲ昇降體出入口ノ幅及高ト同シカラシメ且出入口床先ト昇降體トノ間隔ヲ二糎以上四糎以下ト爲スコト

六　出入口ニ不燃材料ヲ以テ構成シタル戸ヲ設ケ之ニ鍵ヲ備フルコト

七　頂部ニ於ケル索輪其ノ他ノ裝置ヲ支持スル構造部ハ鐵造又ハ「鐵筋コンクリート」造ト爲スコト

八　前號裝置ノ下方ニ不燃材料ヲ以テ構成シタル床又ハ間隙四糎以下ノ格子ヲ設クルコト

九　前號床又ハ格子ノ下端ハ昇降體カ昇降路最上出入口ニ停止セル際其ノ頂上ヨリ一米以上高キ位置ニ在ラシムルコト

十　原動機、制禦器、捲揚機等ヲ昇降體進路ノ直下ニ設クルトキハ其ノ裝置ノ上方ニ堅固ナル床ヲ設クルコト

十一　昇降路ノ下底又ハ前號ノ床ハ昇降路最下出入口床面ヨリ一米以上低キ位置ニ設クルコト

第十九條　昇降體又ハ平衡錘ノ進路ハ昇降路ノ頂上ヨリ下底ニ達スル鐵製軌道ニ依ルヘシ

第二十條　昇降體ハ二以上ノ鐵製索條ヲ以テ吊リ各條別箇ニ取付クヘシ平衡錘ニ付亦同シ但シ構造特殊ノモノニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項索條ノ直徑ハ捲揚用鼓胴又ハ索輪ノ直徑ノ四十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項索條ノ强度計算ニ於テハ安全係數ヲ十以上ト爲スヘシ

第二十一條　昇降體及捲揚用鼓胴ノ平衡錘ハ金屬製ト爲スヘシ

前項ノ平衡錘ハ軌道ヨリ脫離セサル構造ト爲シ其ノ各片ハ二本以上ノ「ボールト」ヲ以テ貫通連結スヘシ

第二十二條　原動機、制禦器、捲揚ハ一昇降機毎ニ之ヲ設クヘシ

前項機械ノ設置場所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　機械ノ周圍ハ半米以上ノ間隔ヲ以テ圍障スルコト

二　面積ハ昇降路水平斷面積ノ二倍以上ト爲スコト

三　屋蓋ヲ設ケ機械室床面ヨリノ高內法二米以上ト爲スコト

四　廊下其ノ他適當ナル通路ニ接シ出入口ヲ設クルコト

五　出入口ニハ堅牢ナル戸ヲ設ケ之ニ鍵ヲ附スルコト

第二十三條　昇降機ニハ左ノ各號ノ安全裝置ヲ爲スヘシ

一　昇降體ノ位置、運轉開始及其ノ方向ヲ指示スルモノ

二　操縱器ヲ自動的ニ運轉休止ノ位置ニ復セシムルモノ

三　昇降體又ハ昇降路ノ戸ヲ開キタルトキ原動機ノ動力ヲ自動的ニ遮斷スルモノ

四　昇降體停止ノ位置ヲ自動的ニ限定スルモノ

五　動力遮斷ノ際惰性ニ因ル原動機ノ回轉ヲ自動的ニ制止スルモノ

六　昇降體ノ速度カ豫定ノ限度ニ達シタルトキ動力ヲ自動的ニ遮斷スルモノ

七　昇降體ノ落下ヲ自動的ニ停止セシムルモノ

八　昇降體又ハ平衡錘カ昇降路底部ニ落下シタルトキ衝撃ヲ緩和スルモノ

九　「ドラム」式昇降機ニ在リテハ捲揚用索條カ弛緩シタルトキ動力ヲ自動的ニ遮斷スルモノ

第二十四條　昇降體ノ床面積一平方米以下、天井高一、二五米以下ノ貨物用昇降機ニハ第十六條乃至前條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ昇降機ニハ適當ナル信號裝置及昇降路周圍ニ危險防止上必要ナル圍障ヲ設クヘシ

第二十五條　「エスカレーター」ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ヘシ但シ構造設備特殊ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　進路ハ鐵製軌道ニ依ルコト
二　進路ノ兩側ニハ適當ナル扶壁ヲ設クルコト
三　非常ノ際直ニ動力ヲ遮斷シ得ル裝置ヲ爲スコト
四　制動裝置ヲ爲スコト
五　運轉開始及停止ノ信號裝置ヲ爲スコト
六　乘用ノモノニ在リテハ進路ノ兩側ノ扶壁ニ沿ヒ移動手摺ヲ設クルコト

第二十五條ノ二　第三條第三號ニ該當スル起重機ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ構造設備又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　索條强度ノ安全係數ハ支線用ノモノニ在リテハ四以上捲揚用ノモノニ在リテハ八以上ト爲スコト
二　捲揚用鋼索條ノ直徑ハ其ノ通過スル捲揚用鼓胴又ハ索輪ノ直徑ノ三十分ノ一ヲ超エサルモノト爲スコト
三　自立不安定ナルモノハ適當ナル支線ヲ張ルコト
四　前號ノ支線ハ「ターンバックル」及「ロープシンブル」ヲ用キ「ロープクリップ」其ノ他ヲ以テ緊結スルコト
五　捲揚機ニハ適當ナル制動機ヲ設クルコト
六　運轉操作上必要ナル信號裝置ヲ設クルコト
七　運轉中荷重又ハ動力傳導裝置ニ觸ルルヲ防クニ足ルヘキ柵其ノ他ノ裝置ヲ設クルコト
八　捲揚機ノ設置場所ニ付テハ第二十二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三章　管理及使用

第二十六條　昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ノ管理者ヲ定メタルトキハ管理者連署ノ上五日以內ニ屆出ツヘシ管理者ヲ變更シ又ハ其ノ氏名、住所ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條　第四條第一項第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ使用認可證ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ設置者（管理者アルトキハ管理者）ヨリ五日以內ニ屆出テ使用認可證ノ再下付ヲ受クヘシ

第二十八條　設置者（管理者アルトキハ管理者）昇降機、「エスカレーター」又ハ起重機ノ使用ヲ引續キ一箇月以上休止セムトスルトキハ使用認可證ヲ添ヘ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ屆出休止シタル機械ハ使用開始屆ヲ爲シ使用認可證ノ返付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十九條　昇降機又ハ起重機ノ設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ左ニ該當スル昇降機運轉手又ハ起重機取扱主任者ヲ定メ其ノ履歷書及寫眞ヲ添附シ之ヲ屆出ツヘシ但シ第二十四條第一項ノ昇降機及手動昇降機又ハ自動昇降機ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　昇降機運轉手

イ　滿十七歲以上ニシテ身體健全ナル者
ロ　昇降機ノ運轉ニ關シ適當ナル技能ヲ有スル者

二　起重機取扱主任者

イ　滿二十歲以上ノ者
ロ　適當ナル學識又ハ經驗ヲ有スル者

前項ノ規定ニ依リ屆出タル起重機取扱主任者又ハ昇降機運轉手ヲ解雇シ又ハ其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ

第三十條　乘用昇降機ニ於ケル定員ハ昇降機ノ床面積一平方米ニ付五人ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

前項ノ定員ハ十歲未滿ノ小兒ニ在リテハ二人ヲ以テ之ヲ一人ト看做ス

第三十一條　設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　昇降機

イ　用途及定員（貨物用昇降機ニ在リテハ積載定量）ヲ見易キ箇所ニ揭ケ置クコト
ロ　昇降路ノ內部又ハ第二十二條第二項ノ場所ヲ昇降機ニ直接關係ナキ用途ニ供セサルコト
ハ　運轉手ニ非サル者ヲシテ運轉セシメサルコト（第二十九條第一項但書ニ依ルモノヲ除ク）
ニ　第二十四條第一項ノ昇降機ニ人ヲ乘ラシメサルコト
ホ　構造設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト
ヘ　構造設備破損シタルトキハ直ニ使用ヲ中止シ完成ニ至ル迄ノ間之ヲ使用セサルコト

二　「エスカレーター」

イ　用途ヲ見易キ箇所ニ揭ケ置クコト
ロ　昇降路又ハ機械設置場所ヲ「エスカレーター」ニ直接關係ナキ用途ニ供セサルコト
ハ　使用認可ヲ受ケタル用途以外ニ使用セサルコト
ニ　構造設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト
ホ　構造設備破損シタルトキハ直ニ使用ヲ中止シ完成ニ至ル迄ノ間之ヲ使用セサルコト

三　起重機

イ　荷重能力ヲ見易キ箇所ニ揭ケ置クコト
ロ　機械室ヲ起重機ニ直接關係ナキ用途ニ供セサルコト
ハ　運轉手ヲ定メ其ノ他ノ者ヲシテ運轉セシメサルコト
ニ　構造設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト
ホ　構造設備破損シタルトキハ直ニ使用ヲ中止シ完成ニ至ル迄ノ間之ヲ使用セサルコト
ヘ　起重機取扱主任者ノ立會スルニ非サレハ起重機ノ据付、使用、移動又ハ解體ヲ爲ササルコト

第三十二條　昇降機運轉手又ハ起重機取扱主任者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　昇降機運轉手

イ　昇降機內見易キ箇所ニ自己ノ名札ヲ掲ケ置クコト

ロ　昇降機內ニ於テハ酒氣ヲ帶ヒ又ハ喫煙セサルコト

ハ　定員又ハ積載定量ヲ超エテ乘載セシメサルコト

ニ　昇降路各出入口ハ開放シ置カサルコト

ホ　運轉ニ先チ昇降路及昇降臉出入口ヲ閉鎖スルコト

ヘ　昇降機內ノ採光不十分ナルトキハ點燈スルコト

ト　貨物昇降機ニ貨物取扱者以外ノ者ヲ乘ラシメサルコト

チ　事故アリタルトキ又ハ危險發生ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ運轉ヲ中止シ設置者又ハ管理者ニ報告シ指導ヲ承クルコト

二　起重機取扱主任者ニ付テハ前號ハ、ト、チノ規定ヲ準用ス

第三十三條　設置者(管理者アルトキハ管理者)ハ昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ニ於テ死傷者ヲ生テタルトキハ直ニ其ノ運轉ヲ中止シ所轄警察署ニ屆出ツヘシ前項ノ場合ニ於テハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運轉ヲ開始スルコトヲ得ス

第四章　罰則

第三十四條　第二條第二項、第三條、第五條乃至第八條、第十條第一項、第十一條、第十二條、第二十六條乃至第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ第十三條及第十四條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十五條　前條ノ規定ハ未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者又ハ運轉手タル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前條ノ規定ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ法人解散ノ場合ニハ淸算人ニ之ヲ適用ス

附則

第三十六條　本令ハ昭和五年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條　本令施行前ニ設置シタル起重機ニシテ第三條第三號ニ該當スルモノヲ引續キ使用セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ左ノ事項ヲ具シ屆出テ使用認可證ノ交付ヲ受クヘシ

一　設置者ノ氏名、住所(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名)

二　設置地ノ地名、番號

三　建築物ノ名稱、用途

四　種類及用途

五　積載定量

六　主柱及斜柱ノ長

七　原動機ノ種類、能力及箇數

八　設置年月日

市街地建築物法

法律第三十七號（大正八年四月）

改正　昭和九年第四六號、一三年第二九號

第一條　主務大臣ハ本法ヲ適用スル區域內ニ住居地域、商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

第二條　建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居區域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ住居地域內ニ住居專用地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル住宅以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第四條　工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衞生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域內ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衞生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域內ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

主務大臣必要ト認ムルトキハ工業地域內ニ工業專用地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキモノ以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條　第二條第一項、第三條及前條第一項ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ノ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第七條　道路幅ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第八條　建築物ハ其ノ敷地カ命令ノ定ムル所ニ依リ道路敷地ニ接スルニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　建築物ハ建築線ヨリ突出シテ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ建築物ノ地盤面下ニ在ル部分ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　行政官廳ハ市街ノ計畫上必要ト認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

第十一條　建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其ノ高又ハ其ノ敷地內ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀態、地域及地區ノ種別、土地ノ狀態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

主務大臣必要ト認ムルトキハ高度地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付高ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定メ又ハ空地地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及敷地ノ彊界線ヨリノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衛生上、保安上又ハ防空上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムルトキハ防火地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防火地區内ニ於テハ物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ境界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ建築物ノ工事執行ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 行政官廳ハ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ除去、改築、修繕、使用禁止、使用停止其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 保安上危險ト認ムルトキ

二 衛生上有害ト認ムルトキ

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

第十八條 本法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物カ其ノ後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スヘキ物ナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ建築物ニ付前條ニ揭クル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物所在地ノ公共團體ヲシテ損失ヲ補償セシム

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スル事ヲ得ス

第十九條 建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 前條ノ規定ハ前條ニ揭クル者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條ニ揭クル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人及其ノ他ノ從業者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

前條ニ揭クル者法人ナルトキハ明治三十三年法律第五十二號ヲ準用ス

第二十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 本法適用ノ區域ハ主務大臣ノ指定スル市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ前項ノ市街地ノ外ニ亘リ本法適用ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

第二十四條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築工事中ノ建築物、建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物又ハ建築物ニ非サル工作物ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第二十五條 本法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ副員四メートル以上ノモノヲ謂フ

幅員四メートル未滿二・七メートル以上ノ道路及道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於ケル其ノ計畫ノ道路ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ道路ト看做ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正九年十二月一日ヨリ施行）

市街地建築物法施行令

勅令第四百三十八號（大正九年九月）

改正 大正一二年第三九五號、一三年第一五二號、第三〇四號、昭和六年第二九四號、八年第三三七號、九年第三四〇號、一四年第一一號

第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ住居地區内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第四號ニ該當スル

建築物ニシテ行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得スト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　常時使用スル原動機馬力數ノ合計三ヲ超過スル工場

二　左ニ掲クル事業ヲ營ム工場

イ　玩具用普通火工品ノ製造

ロ　「アセチレンガス」ヲ用フル金屬ノ工作（溶解「アセチレンガス」ヲ用フルモノヲ除ク）

ハ　引火性溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」又ハ「ドライダイング」

ニ　「セルロイド」ノ加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工

ホ　印刷用「インキ」又ハ繪具ノ製造

ヘ　塗料ノ吹付

ト　亞硫酸ガスヲ用フル物品ノ漂白

チ　骨炭其ノ他動物質炭ノ製造

リ　羽又ハ毛ノ洗滌染色又ハ漂白

ヌ　襤褸、屑綿、屑紙、屑絲、屑毛ノ類ノ消毒、選別、洗滌又ハ漂白

ル　製綿、古綿ノ再製、起毛、反毛又ハ「フエルト」ノ製造ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ヲ　骨、角、牙、蹄、貝殼ノ挽割若ハ乾燥研磨又ハ金屬ノ乾燥研磨ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ワ　鑛物、岩石、土砂、硫黃、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器、骨又ハ貝殼ノ粉碎ニシテ原動機ヲ用フルモノ

カ　墨、木炭又ハ煉炭ノ製造

ヨ　活字又ハ金屬工藝品ノ鑄造

タ　瓦、煉瓦、土器類、陶磁器、人造砥石、坩堝又ハ琺瑯鐵器ノ製造

レ　硝子ノ製造又ハ砂吹

ソ　動力槌ヲ用フル鍛冶

三　室面積ノ合計五十平方メートルヲ超過スル自動車ノ車庫

四　劇場、活動寫眞館、藝場又ハ觀物場

五　待合又ハ貸座敷

六　倉庫業ヲ營ム倉庫

七　火葬場又ハ產穢物處理場

八　屠場又ハ死畜處理場

九　塵芥又ハ汚物ノ處理場

十　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

第二條　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商業地域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ第一號又ハ第二號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得スト認ムルモノハ此限ニ在ラス

一　常時使用スル原動機馬力數ノ合計十五ヲ超過スル工場

但シ日刊新聞印刷所ヲ除ク

二　前條第二號ニ該當スルモノ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ヲ營ムモノヲ除ク

イ　容量三十リットル以下ノ「アセチレンガス」發生器ヲ用フル金屬ノ工作

ロ　馬力數ノ合計〇・二五以下ノ原動機ヲ用フル塗料ノ吹付

ハ　原動機ヲ使用スル二臺以下ノ研磨機ニ依ル金屬ノ乾燥研磨

三　前條第七號乃至第九號ニ該當スルモノ

四　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

第三條　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業地域內ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ第一號、第二號又ハ第四號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳衛生上有害若ハ保安上危險ノ虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得スト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ヲ超過スル工場但シ印刷工場精密機器製作工場、製氷工場及冷凍工場ヲ除ク

二　左ニ掲クル事業ヲ營ム工場

イ　銃砲火藥類取締法ノ火藥類ノ製造

ロ　塩素酸塩類、過塩素酸塩類、硝酸塩類、黃燐、赤燐、硫化燐金屬「カリウム」、金屬「ナトリウム」、「ケグネシウム」、過酸化水素水、過酸化「カリ」、過酸化「ソーダ」、過酸化「バリウム」、二硫化炭素「メタノール」、「アルコール」、「エーテル」、「アセトン」、酢酸「エステル」類、「ニトロセルロース」、「ペンゾール」、「トルオール」、「キシロール」、「ピクリン」酸、「ピクリン」酸塩類、「テレピン」油又ハ石油類ノ製造

ハ　燐寸ノ製造

ニ　「セルロイド」ノ製造

ホ　「ニトロセルロース」製品ノ製造

ヘ　「ピスコース」製品ノ製造

ト　合成染料若ハ其ノ中間物、顏料又ハ塗料ノ製造（漆又ハ水性塗料ノ製造ヲ除ク）

チ　溶劑ヲ用フル「ゴム」製品又ハ芳香油ノ製造

リ　乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ類造

ヌ　溶劑ヲ用フル塗料ノ加熱乾燥又ハ燒付

ル　石炭「ガス」類又ハ「コークス」ノ製造

ヲ　壓縮「ガス」又ハ液體「ガス」ノ製造（製氷又ハ冷凍ヲ目的トスルモノヲ除ク）

ワ　塩素、「ブロム」、「ヨード」、硫黃、塩化硫黃、弗化

超過セサルコト

三　建築物ノ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ増加スヘキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ床面積ヲ超過セサルコト

四　工場ノ常時使用スル原動機馬力數ヲ増加スル場合ニ於テ増加スヘキ馬力數ハ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタル際常時使用スル馬力合計數ヲ超過セサルコト

五　前號ニ掲ケルモノヲ除ク外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得サル際現ニ存スル建築物ノ用途ニ類似スル用途ニ變更セントスル若ハ建築物ノ用途ニ變更ヲ加フルニ依リ營ムコトヲ得ル用途ニ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ營ムコトヲ得ル用途ニ變更セントスル若ハ設備ヲ變更セントスル若ハ前項第二號乃至第四號ノ特殊建築物ノ構造設備又ハ敷地ノ種別、土地ノ狀況、事業ノ種類、作業ノ方法、建築物ノ構造、除害ノ設備等ヲ參酌シ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ前號ニ揭ケルモノヲ除ク外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得サル際現ニ存スル建築物ノ用途ニ類似ス

前二項ノ地盤面ニ高低アルトキハ行政官廳其ノ地盤面ヲ認定ス

第七條　建築物各部分ノ高ハ其ノ部分ヨリ建築物ノ敷地ノ前面道路ノ對側境界線迄ノ水平距離ノ一倍四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス且其ノ前面道路幅員ノ一倍四分ノ一ニ八メートルヲ加ヘタルモノヲ限度トス但シ住居地域外ニ在ル建築物ニ付テハ一倍四分ノ一ヲ一倍二分ノ一トス

前項ノ高トハ前面道路ノ中央ヨリノ高ヲ謂フ

第八條　建築物ノ敷地カ幅員同シカラサル二以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ一ノ道路ノ境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一以内ニシテ且二十五メートル以内ノ區域ノ内ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ道路ヲ前面道路ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル前面道路二以上アル場合ニ於テ其ノ幅員同シカラサルトキハ幅員小ナル前面道路ハ幅員最大ナル前面道路ト同一ノ幅員ヲ有スルモノト看做ス

第一項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル區域ノ外ニ在ル建築物各部分ニ付テハ幅員最大ナル道路ト前面道路ト看做ス

第九條　道路境界線カ建築線ト一致セサル場合ニ於テハ道路境界線又ハ道路幅員ニ關スル前二條ノ規定ノ適用ニ關シ建築線ヲ其ノ道路境界線ト看做ス

第十條　建築物ノ敷地左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前三條ノ規定ニ拘ラス行政官廳其ノ地盤面ヲ認定ス

一　公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルトキ

二　前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキ

三　其ノ地盤面ト前面道路ノ路面トノ高低ノ差著シキトキ

四　高低ノ差著シキ二以上ノ道路ニ接スルトキ

五　道路ノ終端ニ位スルトキ

第十一條　（削除）

第十二條　煙突、棟飾、避雷針、旗竿、風見竿等建築物ノ屋上ニ突出スルモノノ高ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セス

裝飾塔、物見塔、屋窓、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ノ高ハ行政官廳命令ノ定ムル數ニ依リ建築物ノ高ニ之ヲ算入セサルコヲ得

第十三條　本令中高ニ關スル規定ハ煙突、物見塔、起重機、水槽、氣槽、無線電信用電柱ノ類及工業用建築物ニシテ行政官廳其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セス

本令中高ニ關スル規定ハ社寺建築物ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付之ヲ適用セス

第十四條　建築物ノ建築面積ハ建築物ノ敷地ノ面積ニ對シ商業地域内ニ於テハ十分ノ八商業地域外ニ於テハ十分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス但シ行政官廳特ニ指定シタル角地其ノ他ノ區域ニ於ケル建築物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　本令ニ於テ建築面積トハ建築物ノ水平斷面ニ於ケル外壁ノ又ハ之ニ代ルヘキ柱ノ中心線内面積中最大ナルモノヲ謂フ但シ地階ニシテ其ノ外壁ノ高地盤面上二メートル以下ノモノノ部分ノ面積ハ之ヲ建築面積ト看做サス

軒、庇、桔出縁ノ類カ前項ノ中心線ヨリ突出スルコト一メートルヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ外端ヨリ一メートルヲ後退スル線ヲ以テ前項ノ中心線ト看做ス

第十四條ノ建築物ノ敷地ノ面積トハ建築物ノ敷地ノ水平斷面ノ面積中最大ナルモノヲ謂フ

第十六條　本令ニ於テ建築物ノ敷地トハ一棟ノ建築物ニ屬スル一團ノ土地ヲ謂フ

第十六條ノ二　建築物ノ敷地カ二以上ノ地域又ハ地區ニ跨ル場合ニ於テ第一條乃至第三條若ハ第十四條ノ規定又ハ住居專用地區、工業地域内特別地區、工業專用地區若ハ空地地區ニ關スル制限ノ適用ニ關シテハ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ補償スヘキ場合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ル

一　地域住居專用地區、工業地域内特別地區又ハ工業專用地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ使用禁止又ハ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

二　美觀地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物主要構造部ノ除去ヲ命シタル場合

三　建築線ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ除去ヲ命シタル場合

四　建築線ニ面スル建築物ノ壁面ノ位置ノ指定ニ基キ建築物主要構造部ノ變更又ハ除去ヲ命シタル場合

五　建築物ノ高又ハ建築物ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關スル規定ニ基キ建築物主要構造部ノ除去ヲ命シタル場合

第十八條　市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損失ハ通常生スヘキ損失ニ限ル

第十九條　前二條ノ規定ニ依ル損失補償ノ請求ハ市街地建築物法第十八條第一項ノ措置ヲ命セラレタル者之ヲ命セラレタル日ヨリ起算シ三日以内ニ之ヲ爲スコト得

第二十條　市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體トハ同法第二十三條ノ規定ニ依ル同法適用區域ノ屬スル市區町村トス

第二十一條　補償義務ノ有無及補償ノ金額ハ補償審査會之ヲ裁定ス

第二十二條　補償審査會ハ第二十條ニ規定スル市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體毎ニ之ヲ置ク補償審査會ハ會長一人及委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十三條　會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ左ニ掲ケル者ヲ以テ之ニ充ツ
一　關係各廳高等官　四人
二　前條第一項ノ公共團體ノ吏員　二人
三　前號ノ公共團體ノ議會ノ議員　四人
四　學識經驗アル者　二人
前項第一號、第二號及第四號ノ委員ハ主務大臣之ヲ命シ第三號ノ委員ハ其ノ議會ニ於テ之ヲ選擧ス

第二十四條　補償審査會ニ關シテハ土地收用法第二十七條乃至第三十一條、第三十七條、第三十九條、第四十條第一項第二項、第四十二條乃至第四十五條、第六十九條、第七十二條及第八十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條　市街地建築物法第十八條ノ規定ハ建築工事中ノ建築物及建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニ之ヲ準用ス

第二十六條　行政官廳ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニシテ其ノ建築竣成ノ後ニ於テ市街地建築物法第十八條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スル必要ナシト認メルモノニ付テハ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第二十六條ノ二　建築物ノ敷地ヲ造成スル爲ニスル擁壁ニ對シテハ市街地建築物法第九條、第十二條、第十五條乃至第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十七條　市街地建築物法ハ國寶保存法又ハ史蹟名勝天然記念物保存法ニ適用ヲ受クル建築物ニ付之ヲ適用セス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳支障ナシト認メルモノニ對シテハ市街地建築物法第八條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

一　鳥居、形像、記念門、紀念塔類
二　交通信號塔公共便所ノ類
三　陸橋ノ類
四　地下停車場ノ類
五　高架工作物内ニ設クル倉庫、店舗ノ類

第二十九條　博覽會建築物、觀覽場、飾門、飾塔、足代、棧橋其ノ他ノ假設建築用ニシテ行政官廳支障ナシト認ムルモノニ對シテハ市街地建築物法第二條乃至第六條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第二十九條ノ二　市街地建築物法第二十六條第二項ノ規定ニ依リ道路ト看做サレタル計畫ノ道路ノ境域内ニ於テ行政官廳支障ナシト認ムルトキハ同法第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス存續期限ヲ附シ假設建築物ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第三十條　幅員四メートル未滿二・七メートル以上ノ道路ニシテ左ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ市街地建築物法ノ道路ト看做ス

一　行政官廳市街地ノ狀況ニ依リ特ニ指定シタルモノ
二　土地區劃整理設計又ハ行政官廳ノ指定シタル建築線ニ基キ築造セラレタルモノ

幅員四メートル以上ノ道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ市街地建築物法ノ道路ト看做ス

附　則

本令ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市街地建築物法施行規則

内務省令第三十七號（大正九年十一月）

改正　大正一一年第二一號、一二年第一一六號、一三年第一五號、第三〇號、一四年第一號、一五年第五三號、昭和七年第一號、九年第三八號、一二年第二五號、一四年第一號

第一章　通　則

第一條　本則ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル
一　居室トハ居住ノ用ニ供スル室ヲ謂フ
玄關、廊下、階段室、外套室、便所、手洗所、浴室、物置、納屋、暗室ノ類ハ居室ト看做サス
二　地階トハ其ノ床面地盤面下ニ在ル階ヲ謂フ但シ天井高ノ三分ノ二以上カ地盤面上ニ在ル階ハ之ハ第一階ト看做ス
三　屋階トハ尾根裏ニ設ケタル院ヲ謂フ但シ地方長官其ノ構造、用途、床面積其ノ他ノ狀況普通階ト大差ナシト認ムルモノヲ除ク
四　床高トハ床面ヨリ其ノ直下地面迄ノ距離ヲ謂フ
五　階高トハ其ノ階ノ床面ヨリ其ノ直上階ノ床面ヨリ迄ノ高ヲ謂フ但シ最上階ニ在リテハ其ノ天井高ヲ謂フ
六　天井高トハ室ノ床面ヨリ天井迄ノ高ヲ謂フ
一室ニシテ天井高異ナル部分アルトキハ其ノ室ノ床面積ヲ以テ容積ヲ除シタルモノヲ謂フ
七　外壁トハ建築物ノ外側ヲ構成スル壁體ヲ謂フ
八　間壁トハ建築物ノ内部ヲ區劃スル壁體ヲ謂フ
九　（削除）
十　不燃材料トハ煉瓦、石、人造石、「コンクリート」、石綿盤、瓦、金屬、陶磁器、硝子、「モルタル」、漆喰ノ類ヲ謂フ
十一　耐水材料トハ煉瓦、石、人造石、「コンクリート」、鉛、「アスファルト」、陶磁器ノ類ヲ謂フ

十二　石造トハ石造、人造石及「コンクリート」造ヲ謂フ
十三　壁體ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
イ　厚一尺以上ノ煉瓦造又ハ石造
ロ　厚四寸以上ノ鐵筋「コンクリート」造
ハ　厚一尺以上ノ孔煉瓦造、厚六寸以上ノ鐵筋「コンクリート、ホロブロック」造、厚五寸以上ノ鐵筋「コンクリート、ホロブロック」造ノ類ニシテ地方長官本號(イ)又ハ(ロハ)ニ規定スル壁體ト同等以上ノ耐火的効力アリト認ムルモノ
十四　條床又ハ屋根ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
イ　鐵筋「コンクリート」造
ロ　鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造煉瓦造又ハ石造
ハ　煉瓦造又ハ石造
ニ　最下階ノ床ニ在リテハ土間、叩、敷ノ類
ホ　鐵骨ヲ有シ「メタルラス、コンクリート」網入硝子ノ類ヲ以テ覆葺スル屋根ニシテ地方長官ノ承認セルモノ
十五　柱ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
イ　煉瓦造又ハ「コンクリート」造
ロ　鐵筋「コンクリート」造
ハ　鐵柱ニシテ耐火的ニ有効ナル被覆ヲ爲シタルモノ
ニ　石造ニシテ地方長官ノ承認セルモノ
十六　段階ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
イ　鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造
ロ　鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造又ハ石造
ハ　鐵造
十七　防火戸ハ甲種防火戸及乙種防火戸ノ二種トス
甲種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚一・五ミリメートル以下ノモノ
ロ　鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート造」ニシテ厚二・五ミリメートル以上ノモノ
ハ　厚十五センチメートル以上ノ土藏扉
ニ　其ノ他地方長官前各號ニ準スト認ムルモノ
乙種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚一・五ミリメートル未滿ノモノ
ロ　鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚三・五センチメートル未滿ノモノ
ハ　木造又ハ鐵造ニシテ屋外ニ面スル部分ヲ厚三センチメートル以上ノ「モルタル」、漆喰又ハ適當ナル厚ノ石綿盤ノ類ヲ以テ被覆シタルモノ

ニ　其ノ他地方長官前各號ニ準スト認ムルモノ
地方長官ハ防火戸ノ構造ノ種類ニ依リ適當ト認ムルモノニ對シ前各號ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
十八　(削除)
十九　建築物ノ大修繕トハ壁體、柱、小屋若ハ基礎ノ過半ノ修繕又ハ之ニ準スル構造上主要ナル部分ノ修繕ヲ謂フ
二十　大變更トハ壁、柱、床、小屋、基礎、構造上主要ナル部分ノ變更ヲ謂フ
二十一　階數ハ地階及屋階ヲ除キタル階數ヲ謂フ

第二條　本則ノ適用ニ關シ土地又ハ建築物ニ關スル測算方法呼稱等ニ付疑義ヲ生シタルトキハ地方長官之ヲ決定ス

第三條　本則ニ規定セル建築物ノ彩光、換氣、防火避難、清潔、强度ニ關スル構造設備ハ常ニ有効ニ保存スヘシ

第一章ノ二　專用地區及特別地區

第三條ノ二　建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノハ住居專用地區內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス
一　住宅
二　住宅ニシテ事務所ノ類ヲ兼ヌルモノ
三　共同住宅、寄宿舍又ハ下宿屋
四　神社
五　學校、圖書館ノ類
六　養育院、託兒所ノ類
七　寺院、教會所ノ類
八　形像、記念塔ノ類
九　物品販賣業ヲ營ム店舖(床面積十平方メートル以下ノモノ)、旅館、俱樂部、診療所、農業用建築物ノ類ニシテ地方長官土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノ
十　前各號ノ一ニ該當スル建築物ニ附隨スルモノニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノ
十一　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外地方長官支障ナシト認メ又ハ公益上已ムヲ得スト認ムルモノ

第三條ノ三　工業地域內ニ特別地區ヲ指定シタル場合ニ於テ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ特別地區內ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ地方長官保安上危險又ハ衞生上有害ノ虞ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
一　銃砲火藥類取締法施行規則ノ火藥庫
二　左ニ揭クル事業ヲ營ム工場
イ　銃砲火藥取締法ノ火藥類ノ製造
但シ銃砲火藥類取締法施行規則第四十四條第二項ノ火工品ヲ除ク
ロ　硝化纖維素「セルロイド」、鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、「ピクリン」酸、「ピクリン」酸鹽類、黃燐、過酸化「ナトリウム」、硫化炭素、「エーテル」、「アセト

ン」、「ベンゾール」、「キシロール」、「トルオール」又ハ「テレビン」油ノ製造

ハ　石油類、鹽化硫黄、硫酸、硝酸、鹽化水素、「クロール石灰」、「チアン」化合物、砒素化合物、水銀化物、亜硫酸類及動物質肥料ノ製造竝動物質原料ノ化製

三　各號ニ掲クルモノヲ除クノ外地方長官著シク危險又ハ衛生上有害ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ四　工業地域内特別地區ノ全部又ハ一部ヲ甲種特別地區ニ指定シタル場合ニ於テ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ甲種特別地區内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

一　前條第一號又ハ第二號(イ)若ハ(ロ)ニ該當スルモノ

二　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外地方長官著シク保安上ノ危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ五　工業地域内特別地區ノ全部又ハ一部ヲ乙種特別地區ニ指定シタル場合ニ於テ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ乙種特別區内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

一　第三條ノ三第二條(ハ)該當スルモノ

二　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外地方長官著シク衛生上有害ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ六　前三條中二條ノ規定ノ適用ヲ併セ受クル建築物ヲ建築セントスル場合ニ在リテハ地方長官其ノ建築スヘキ地區ヲ指定ス

第三條ノ七　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業專用地區内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス但シ地方長官公益上已ムヲ得スト認ムルモノ又ハ工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキモノニ附隨スル建築物ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　住宅

二　共同住宅、寄宿舍、下宿屋又ハ旅館

三　物品販賣業ヲ營ム店舗

四　劇場、活動寫眞館、演藝場又ハ觀物場

五　料理屋、飲食店、待合又ハ貸座敷

六　學校、圖書館ノ類

七　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外地方長官支障アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

第三條ノ八　市街地建築物法第二條第二項又ハ第四條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得サル種類ニ屬スル建築物ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ左記各號ニ規定スル制限内ニ於テ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲スコトヲ妨ケス

一　建築物ノ敷地ヲ擴張セサルコト

二　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スヘキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ノ二分ノ一ヲ超過セサルコト

三　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スヘキ床面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタル際限ニ存在スル建築物ノ床面積ヲ超過セサルコト

四　工場ノ常時使用スル原動機馬力數ヲ增加スル場合ニ於テ增加スヘキ馬力數ハ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタル際常時使用スル馬力合計數ヲ超過セサルコト

五　前號ニ掲クルモノヲ除クノ外用除ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタリ際現ニ存在スル建築物ノ用途ニ類似スル用途又ハ設備ヲ變更セス若ハ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ營ムコトヲ得サル用途ニ限ルコト

行政官廳地區ノ種別、土地ノ狀況、事業ノ種類、作業ノ方法、建築物ノ構造設備、除害ノ設備又ハ裝置等ヲ參酌シ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ前項第二號乃至第四號ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

市街地建築物施行令第二十六條ノ規定ニ依リ建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地ニ建築スルコトヲ得サルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ト看做ス

第二章　建築物ノ敷地及高

第四條　建築物ノ敷地ハ長二メートル以上道路敷地ニ接セシムヘシ

地方長官ハ土地ノ情態、建築物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第五條　(削除)

第六條　裝飾塔、物見塔、屋窠、昇降機塔、水槽等ノ建築物ノ屋上突出部ニ付テハ市街地建築物法令施行第四條乃至第九條ノ適用ニ關シ其ノ部分ノ高ノ最高限ノ五分ノ一迄ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セス但シ其ノ算入セサル部分ノ最大面積ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

昇降機塔ニ付テハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケ前項ノ五分ノ一ヲ九メートル迄增加スルコトヲ得

第二章ノ二　空地地區

第六條ノ二　空地地區内ニ於ケル建築物ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度ハ十分ノ二乃至十分ノ七ノ範圍ニ於テ土地ノ狀況ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

空地地區指定又ハ變更ノ際現ニ存在スル建築物ニシテ其ノ

床面積ノ敷地面積ニ對スル割合前項ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ地區指定又ハ變更ノ際ニ於ケル割合ヲ超エサル範圍ニ於テ改築又ハ再築ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ床面積ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ屋階ヲ除キタル部分又ハ第一階ノ部分ニ付之ヲ算ス

第六條ノ三 空地地區內ニ於ケル建築物ノ其ノ敷地ノ境界線ヨリノ距離ノ限度ハ地方ノ狀況ニ依リ內務大臣ヲ定ム

左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付テハ地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一 道路、公園、廣場、河、海ノ類ニ面スルモノ

二 軒高二・五メートル以下ノモノ

三 敷地ノ境界線ニ面スル部分ノ長二メートル以下ノモノ

第三章 建築物ノ構造設備

第一節 一般構造設備

第七條 建築物ノ敷地ハ其ノ接スル道路境界ニ於ケル路面ヨリ高カラシメ建築物ノ床下ノ地盤面ハ周圍ノ地盤面ヨリ高カラシムヘシ但シ建築物ノ用途又ハ土地ノ狀況ニ依リ地方長官本條ノ規定ニ依リ難シト認メ又ハ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 建築物ノ敷地濕潤ナルトキ、出水汎濫ノ虞アルモノナルトキ又ハ塵芥ノ類ヲ以テ埋立テラレタルモノナルトキハ地方長官ノ指定スル下水道ニ非サレハ放流スヘカラス但シ地方長官ノ承認スル汚物處理槽ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ下水道ノ設備アル地區ニシテ地方長官特ニ指定スル區域內ニ在リテハ便所ハ汲取便所ト爲スヘカラス

第十三條 汲取便所ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 糞尿溜、尿樋、糞尿壺及其ノ上口周圍ハ不透滲質ノ材料ヲ以テ造ルコト

二 床下ニ於テハ耐火材料ヲ以テ他ノ部分ト遮斷スルコト

三 汲取口ハ密閉シ得ル裝置ヲ爲テ地盤面ヨリ一センチメートル以上高カラシメ且之ヲ直接道路ニ面セシメサルコト

第十四條 井戶ト汲取便所及汚物溜トノ距離ハ三間以上ヲ有セシムヘシ但シ地方長官其ノ構造設備又ハ土地ノ狀況ニ依リ衞生上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地方長官ハ井戶、汲取便所又ハ汚物溜ノ位置、構造、設備等ニ關シ前三條及前項ノ外必要ナル規定ヲ設ケ又ハ措置ヲ命スルコトヲ得

第十五條 建築物ノ壁體ニシテ直接土壤ニ接觸スル部分ハ耐水材料ヲ以テ構造スヘシ但シ門、障壁其ノ他輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 居室ノ床地盤面下ニ在ル建築物ニ在リテハ最下階ノ居室ノ床又ハ其ノ床下ハ耐水材料ヲ以テ構成シ其ノ壁體及床下ニハ適當ナル防濕方法ヲ施スヘシ

第十七條 居室ノ床高ハ一尺五寸以上ト爲スヘシ但シ床又ハ床下ニ「コンクリート」造其ノ他適當ナル防濕方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

居室ノ床木造ナルトキハ其ノ床下ニハ適當ナル換氣方法ヲ講スヘシ

第十八條 居室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スヘシ

第十九條 居室ハ其ノ室面積ノ十分ノ一以上ノ有效面積ヲ存スル窓又ハ之ニ代ルヘキ彩光面ヲ有スヘシ

前項ノ彩光面幅三尺以上ノ緣側ヲ距ツル場合ハ其彩光面積ノ二分ノ一ヲ有效面積ト看做ス此ノ場合ニ於テ濡緣ハ緣側ト看做サス

第一項ノ彩光面積ハ左ノ各號ニ該當スル部分ニ限リ有效ナルモノト看做ス但シ道路、公園、廣場等ノ空地ニ面スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一 其ノ部分ヨリ直上屋根面（直上屋根面ナキトキハ壁頂迄以下同シ）ニ至ル高ハ住居地域內ニ於テハ其ノ面スル隣地境界線迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域內ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セサルコト

二 其ノ部分ヨリ直上屋根面ニ至ル高ハ住居地域內ニ於テハ同一敷地內ニ在ル對向壁迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域ニ於テハ五倍ヲ住居地倍及商業地倍外ニ於テハ四倍ヲ超過セサルコト但シ其ノ部分ヲ含ム水平面ヨリ對向壁直上ノ屋根面ニ至ル高カ住居地倍內ニ於テハ對向壁迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域內ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニテハ四倍ヲ超過セサ

ル時ハ此ノ限ニ在ラス

軒、庇其ノ他著シク彩光ヲ妨クルモノアリト認メ又ハ衛生上特別ノ必要アリト認ムルトキハ地方長官ハ彩光ニ關シ特ニ彩光面ノ增加其ノ他適當ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ適用ニ於テ天窓ハ地方長官ノ認可ニ依リ其ノ面積ヲ三倍迄ニ換算スルコトヲ得

第一項ノ面積ニ相當スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ノ部分ハ其ノ上端ヲ上面上五尺七寸以上ト爲スヘシ

隨時開放シ得ル障子襖ノ類ヲ以テ仕切リタル二室ハ本條ノ適用ニ關シ之ヲ一室ト看做ス

第二十條　居室ニ於テハ直接外氣ニ面シテ室面積ノ二十分ノ一以上ニ相當スル面積ヲ開放シ得ヘカラシムヘシ但シ之ニ代ルヘキ適當ノ換氣裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第四項第六項及第七項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第二十一條　特殊ノ用途ニ充ツル居室ニシテ已ムヲ得サルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第十七條、第十九條及第二十條ノ規定ニ依ラサルコヲ得

第二十二條　浴室及便所ニハ採光換氣ノ爲直接外氣ニ面シ適當ナル窓ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ設備ヲ爲スヘシ

第二十三條　地方長官ハ建築物ニ對シ防疫上必要ナル防鼠其ノ他ノ設備ヲ命スルコトヲ得

第二十四條　出入口及窓ノ扉ハ路面上三メートル以上ニ在ル

モノヲ除クノ外開閉ノ際ト雖建築線ヨリ突出セサル構造ト爲スヘシ

第二十五條　階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ專ラ特殊ノ用途ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　階段及踊場ノ幅ハ內法七十五センチメートル以上ト爲スコト

二　蹴上二十三センチメートル以下踏面十五センチメートル以上ト爲スコト但シ多人數ノ使用ニ供スルモノハ蹴上十八センチメートル以下踏面二十六センチメートル以上ト爲スコト

三　高四・五メートルヲ超ユルモノニ在リテハ高四・五メートル以內每ニ踊場ヲ設クルコト

階段ノ用途又ハ構造ニ依リ危險ナリト認ムルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ拘ラス必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　地方長官保安上必要ト認ムルトキハ階段ノ設置ヲ命シ又ハ其ノ配置若ハ設備變更ヲ命スルコトヲ得

第二十七條　屋根ハ耐火構造ニ非サルトキハ不燃材料ヲ以テ覆葺スヘシ但「モルタル」塗、漆喰塗ノ類ヲ以テ覆葺セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

瓦葺屋根ニ在リテハ引掛桟瓦ノ類ヲ使用シ又ハ瓦ヲ野地ニ緊結スヘシ

神社建築物ノ屋根、茶室、四阿ノ類ノ屋根又ハ輕微ナル庇ノ類ハ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ本號ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ區域ヲ指定シ第一項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第二十八條　地方長官ハ物干物、見臺等屋上工作ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條　建築面積二百坪以上ノ建築物ニハ建築面積二百坪以內每ニ防火壁ヲ設クヘシ但シ外壁、床、屋根、柱及階段耐火構造ナルトキハ若ハ壁體、床、屋根、天井、小屋柱及階段不燃材料ヲ以テ構成セラレタルモノナルトキ又ハ地方長官其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認ムルトキ若ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條ノ二　地方長官ハ建築物ノ配置、構造又ハ用途ニ依リ危險ナリト認ムルモノニ付防火壁ノ設置其ノ他防火上必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第三十條　前二條防火壁ノ構成ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　耐火構造ト爲スコト但シ木造又ハ木骨造建築物ニ基リテハ煉瓦造石造其ノ他之ニ類スル構造ト爲サルコト

二　兩端ハ外壁ニ達スルコト但シ木造建築物ニ在リテハ之ニ近接スル木部ヨリ一尺以上屋外ニ突出セシムルコト

三　上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ一尺五寸以上屋上ニ突出セシムルコト但シ耐火構造ノ屋根ニ在リテハ屋上ニ突出セシメサルコトヲ得

四　各開口ノ幅及高ハ九尺以下ニシテ甲種防火戸ノ設備ヲ有スルコト但シ特殊ノ用途ニ充ツル建築物ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ幅及高ヲ十二尺迄ト爲スコトヲ得

五　四壁溝ヲ設クル場合ト雖モ其ノ部分ノ壁厚ハ煉瓦造及石造ニ在リテハ七寸以上、鐵筋「コンクリート」造ニ在リテハ三寸五分以上ト爲スコト

木造又ハ木骨造建築物ノ防火壁ニ在リテハ前項第一號ノ規定ニ拘ラス中央ニ金屬板ヲ有スル厚六センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壞ノ虞ナキ構造ト爲スコトヲ得

第三十一條　防火壁アル建築物ニ於テ屋窓、裝飾塔等ノ屋上突出部木造ニシテ延燒ノ虞アリト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ構造ニ對シ防火上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處又ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　（削除）

第三十三條　壁附煖爐ノ構造ニ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　爐胸ハ堅牢ナル基礎ノ上ニ築造シ木造建物ニ在リテハ上部ヲ積出シテ爲ササルコト

二　薪炭ヲ使用スル壁附煖爐ニ在リテハ焚口下及其ノ前方

一尺以上左右各五寸以上ノ部分ノ床ヲ、其ノ他ノ壁附煖爐ニ在リテハ焚口下ノ部分ノ床ヲ不燃材料ニテ構造シ其ノ下方八寸以内ニハ燃質材料ヲ取付ケササルコト

三　壁附煖爐ノ煙突ニシテ屋内ニ在ル部分ハ鐵筋「コンクリート」、石、煉瓦ノ類ヲ以テ構造シ外壁ノ厚ハ鐵筋「コンクリート」ニ在リテハ五寸以上、其ノ他ニ在リテハ七寸以上ト爲シ煙道ハ土管ヲ挿同シ又ハ「セメント、モルタル」ヲ以テ塗ルコト

四　煙道ノ屈曲百二十度以内ナルトキハ其ノ屈曲部ニ掃除口ヲ設クルコト

第三十四條　木造又ハ木骨造建物ノ壁附煖爐ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ鐵骨造ト爲スヘシ

第三十五條　煖爐、竈、風呂竈ノ類ノ煙突ノ屋上突出部ハ其ノ最短部ニ於テ二尺以上ト爲スヘシ煉瓦造又ハ石造ノ部分ハ補强ヲ爲ササル限リ三尺以上ト爲スヘカラス

第三十六條　煙突ノ直上部ニ軒アルトキハ其ノ軒ヨリ更ニ二尺以上突出セシムヘシ煙突ト上方軒先トノ水平距離三尺未滿ナルトキ亦同シ

第三十七條　金屬製煙突ニシテ小屋裏、床裏、等露出セサル位置ニ在ル部分ハ金屬以外ノ不燃材料ヲ被覆スヘシ

第三十八條　金屬製煙突ハ木材其ノ他ノ燃質材料ト五寸以上ノ間隔ヲ有スヘシ但シ厚三寸以上ヲ有スル金屬以外ノ不燃

材料ヲ以テ被覆スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　地方長官ハ煙突ニシテ近接建築物ニ危害ヲ及ホス虞アリト認ムルトキハ前數條ノ外必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第四十條　汽罐、營業用風呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル煙突ノ高及口徑ニ付テハ其ノ燃料ノ種類、量及土地ノ狀況ニ依リ地方長官之ヲ定ム

第四十條ノ二　地方長官ハ汽罐其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ對シ其ノ燃料ノ種類、量及土地ノ狀況ニ依リ煤煙ヲ發散サセル裝置ノ設備ヲ命スルコトヲ得

第四十一條　汽罐、風呂竈ノ類ノ焚場及灰捨場ニ對シ地方長官防火上必要ナル構造設備ヲ命スルコトヲ得

第四十一條ノ二　市街地建築物法施行令第三條第二號(ロ)又ハ(ニ)ノ物品ノ陳列場又ハ藏置場ニ對シテハ地方長官其ノ配置構造及設備ニ付防火上必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第四十二條　高六十五尺ヲ超過スル建築物ニハ適當ナル避雷設備ヲ爲スヘシ

但シ地方長官土地ノ狀況又ハ建築物ノ種類ニ依リ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　高六十五尺又ハ軒高五十尺ヲ超過スル建物ハ其ノ壁體、床、柱、屋根、階段等主要構造部ヲ耐火構造ト爲スヘシ

但シ壁體、床、屋根、天井、小屋、床及階段不燃材料ヲ以テ構成セラレタルモノニシテ地方長官支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條ノ二　地方長官ハ建築物ノ一般構造設備ニ關シ土地ノ狀況ニ依リ本節ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十三條ノ三　市街地建築物法施行令第二十九條及第二十九條ノ二ノ建築物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ本則第三章ノ規定ノ一部ヲ適用セサルコトヲ得

第二節　構造强度

第一款　概則

第四十四條　構造用「コンクリート」及「モルタル」ノ原料ト爲スヘキ「セメント」ハ商工省告示日本標準規格第二十八號又ハ第二十九號ノ規定ニ依リ合格シタルモノナルコトヲ要ス

構造用壓延鋼材ハ商工省告示日本標準規格第二十號ノ規定ニ依ル品質以上ノモノナルコトヲ要ス

第四十五條　建築物ノ基礎ニ使用スル木材ハ常水面下ニ在ルコトヲ要ス但シ規模小ナル建築物又ハ短期使用ノ建築物ニ在リテハ此ノ限ニ在ラテ

第四十六條　主要ナル構造用木材ニシテ石、煉瓦「コンクリート」、土ノ類ニ積込ム部分又ハ之ニ接スル部分ニハ防腐方法ヲ施スヘシ但シ木造建築物ノ眞壁ニ接スル木部ニ對シテ

第二款　木構造及木骨構造

第四十七條　地方長官ハ建築物ノ構造强度ニ關シ土地ノ狀況ニ依リ本節ニ定ムルモノノ外必要ナル規程ヲ設クルコトヲ得

第四十八條　柱、梁其ノ他之ニ類スル構材ノ繼手及仕口ニシテ主ナルモノハ「ボールト」締其ノ他適當ナル方法ニ依リ緊著スヘシ

第四十九條　建物ノ主要ナル柱ハ堀立ト爲スヘカラス但シ適當ナル防腐方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　堀立ニ非サル柱ノ下部ニハ土臺又ハ脚固ヲ使用スヘシ但シ柱ヲ其ノ基礎ニ緊著シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　石、煉瓦其ノ他ノ腰積ヲ有スル建物ハ之ヲ土臺敷構造ト爲シ土臺ハ腰積ニ緊結スヘシ

石、煉瓦、「コンクリート」ノ類ノ束ヲ以テ前項ノ腰積ニ代フルモノハ其ノ構造ニ付特ニ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第五十二條　建物ノ土臺及敷桁ノ隅角ニハ燈材ヲ使用スヘシ

第五十三條　柱ノ小徑ハ土臺、脚固、胴差、梁桁其ノ他ノ主要横架材間ノ距離ニ對シ三階建ノ第三階二階建ノ第二階又ハ平家建ニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ、三階建ノ第二階又ハ二階建ノ第一階ニ在リテハ其ノ二十五分ノ一ヲ、三階建ノ第一階ニ在リテハ其ノ二十二分ノ一ヲ下ルヘカラス但シ

庇ノ支柱其ノ他輕微ナル荷重ヲ承クルモノハ此ノ限ニ在ラス

屋根ヲ金屬板、石盤又ハ石綿盤ノ類ヲ以テ覆葺スルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ關シ三十分ノ一ヲ三十五分ノ一、二十五分ノ一ヲ三十分ノ一、二十二分ノ一ヲ二十五分ノ一ト爲スコトヲ得

木骨石造、木骨煉瓦造又土藏造ニ在リテハ第一項ノ適用ニ關シ三十分ノ一ヲ二十五分ノ一、二十五分ノ一ヲ二十二分ノ一、二十二分ノ一ヲ二十分ノ一トス

第五十四條　柱ニシテ其ノ必要ナル斷面積ノ三分ノ一以上ヲ缺取ル場合ニハ其ノ部分ヲ補强スヘシ

第五十五條　建物ニハ適當ニ筋違又ハ方杖ヲ設クヘシ

第五十六條　（削除）

第五十七條　建築物ノ敷地ノ地盤緊牢ナルトキ又ハ規模小ナル建築物ハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケ第五十條及第五十二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三　石構造煉瓦構造及「コンクリート」構造

第五十八條　石、煉瓦其ノ他之ニ類スル材料ヲ以テ築造スル建築物ノ部分ハ「セメント」入「モルタル」ヲ用ヒテ組積スヘシ但シ高三尺以下ノ壇壁其ノ他ノ構繰ノ輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條　建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ下階ノ壁厚ヨリ小ナルヘカラス

第六十條　石造又ハ瓦煉造壁體ノ厚ハ之ヲ一尺未滿ト爲スヘカラス

第六十一條　建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ壁長三十尺ヲ超過スヘカラス

壁厚特ニ大ナルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

壁長ハ其ノ壁體ニ接著スル對隣壁ノ接著部分ノ中心距離ヲ以テ之ヲ度ル

地方長官適當ト認ムル補强方法ヲ施シタル控壁ハ前項ノ適用ニ關シ之ニ隣隣壁ト看做ス

壁高ハ其ノ壁體ノ接著スル地盤面ヨリ之ヲ度ル

第六十二條　建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ壁頂ニ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ設クヘシ

第六十三條　建物ノ外壁煉瓦造ナルトキハ其ノ壁厚ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　長十八尺以下ノモノニ在リテハ一尺以上ト爲スコト

二　長十八尺ヲ超過シ三十尺以下ノモノニ在リテハ一尺三寸以上ト爲スコト

第六十四條　煉瓦造間壁ノ厚ハ前條ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得

第六十五條　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ或ル階ニ於ケル出入口、窓其ノ他ノ開口ノ幅ノ總和カ壁長ノ二分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ壁厚ハ前二條ノ厚ニ三寸ヲ加フヘシ但シ其ノ壁體ニ幅三尺以上ノ柱形（控壁ヲ含ム以下同シ）ヲ有スル場合ニ於テ其ノ柱形間及之ト對隣壁トノ中心距離十五尺以内ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條　建物ノ壁體煉瓦造ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ各階ノ壁厚ハ第六十三條及第六十四條ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得

一　其ノ階ノ床及其ノ階ノ直上階ノ床又ハ屋根鐵筋「コンクリート」造ナルトキ

二　地方長官適當ト認ムル控壁、鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁其ノ他ノ補强方法アルトキ

第六十七條　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ其ノ壁厚ハ第六十三條乃至第六十六條ノ規定ニ拘ラス其ノ階高ノ十五分ノ一未滿ト爲スヘカラス

第六十八條　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキハ其ノ階高ノ四分ノ三以上ノ高ヲ通シテ壁體ニ竪壁溝ヲ設クル場合ニハ其ノ壁溝部ノ壁厚ハ第六十條、第六十三條乃至第六十七條ノ厚ノ三分ノ二未滿ト爲スヘカラス

横壁溝ハ深三寸長九尺ヲ超過スヘカラス

第六十九條　煉瓦造壁體ニ於ケル出入口及窓相互間ノ直上垂直距離ハ二尺以上ト爲スヘシ但シ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ以テ適當ナル補强ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第七十條　煉瓦造二重壁ニ於テハ其ノ一方ノ壁ハ第五十九條乃至第六十九條ノ規定ニ依ルヘシ

第七十一條　建物ノ壁體「コンクリート」造ナルトキハ第六十三條乃至第七十條ノ適用ニ關シ之ヲ煉瓦造ト看做ス

第七十二條　建物ノ壁體「コンクリート」造以外ノ石造ナルトキ其ノ厚ハ第六十三條乃至第六十五條及第六十七條ノ厚ニ其ノ十分ノ二ヲ加フヘシ

第六十八條乃至第七十條ノ規定ハ之ヲ前項ノ壁體ニ準用ス

第七十三條　貼石、貼瓦ノ類ハ之ヲ壁厚ニ算入セス

第七十四條　鐵骨造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ於ケル石、煉瓦、「コンクリート」等ノ張壁ニハ第五十九條、第六十條第六十二條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス

第七十五條　高十二尺未滿ノ間壁其ノ他構造上輕微ナル壁體ニ對シテハ第六十條乃至七十二條ノ規定ヲ適用セス

第七十六條　石造又ハ煉瓦造ノ地壁ハ特殊ノ補强方法ヲ施シタル場合ノ外左ノ規定ニ依ルヘシ

一　壁厚ハ其ノ部分ヨリ壁頂迄ノ垂直距離ノ十分ノ一以上ト爲スコト

二　（削除）

三　長二間未滿每ニ適當ナル控壁ヲ設クルコト但シ其ノ壁厚第一號ノ規定ノ最小限ノ一倍半以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條　同一建築物ノ壁體二種以上ノ構造ヨリ成ルトキハ其ノ壁長及壁厚ニ付テハ地方長官之ヲ定ム

第七十八條　切妻壁體又ハ高三尺ヲ超過スル扶欄若ハ扶壁ハ石造又ハ煉瓦造ト爲スヘカラス但シ切妻壁體ニシテ其ノ頂部ノ鐵筋「コンクリート」造屋根ニ緊結シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　張間五尺以上ノ開口上ニ架スル石造又ハ煉瓦造ノ迫持ハ其ノ迫高ヲ張間ノ十分ノ一以上ト爲スヘシ但シ適當ナル補强ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十條　壁體ノ隅角、蛇腹、窓、出入口脇其ノ他之ニ類スル部分ニ使用スル石、人造石ノ類ハ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ其ノ接スル壁體ノ部分ニ緊結スヘシ

第八十一條　石造又ハ煉瓦造ノ桔出窓、桔出緣等ニ在リテハ鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ適當ナル補强ヲ爲スヘシ

第四　鐵構造及鐵骨構造

第八十二條　（削除）

第八十三條　建物ノ構造ニ使用スル鋼又ハ鍊鐵ノ主要ナル構材ノ接合ニハ地方長官已ムヲ得スト認ムル場合又ハ支障ナシト認ムル場合ノ外「リベット」ヲ使用スヘシ

接合用「リベット」又ハ「ボールト」ノ中心距離ハ其ノ直徑ノ二倍未滿ト、其ノ中心ト材端ト距離ハ其ノ直徑二倍未滿ト爲スヘカラス

第八十四條　建物ノ構造ニ使用スル鐵柱ハ其ノ斷面ノ最小二次率半徑ヲ其ノ主要ナル支點間距離ニ對シ鋼又ハ鍊鐵ニ在リテハ百五十分ノ一以上ト、鑄鐵ニ在リテハ七十五分ノ一以上ト爲スヘシ

柱以外ノ壓壓鋼材又ハ應壓鍊鐵材ニ在リテハ前項ノ百五十分ノ一ヲ二百分ノ一トス

第八十五條　鋼柱又ハ鍊鐵羽ノ接合ニハ其ノ小ナル柱ト同等以上ノ强ヲ有スル添鈑ヲ用ヒ柱ノ全應力ヲ傳フルニ足ルヘキ數ノ「リベット」ヲ使用スヘシ

第八十六條　鐵骨建築物ニ於ケル主要ナル柱ハ之ヲ基礎ニ緊結スヘシ

第八十六條ノ二　鐵骨建築物ニ在リテハ梁其ノ他ノ橫架材ト柱トノ接合ニハ適當ナル方杖、腰板ノ類ヲ使用シ之ヲ緊結スヘシ但シ筋違又ハ鐵筋「コンクリート」ノ壁體ヲ設ケタル部分ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第八十六條ノ三　鐵骨建築物ニハ適當ニ筋違又ハ鐵筋「コンクリート」ノ壁體ヲ設クヘシ

第八十七條　鐵骨建築物ノ張壁ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　鐵骨ニ緊結スルコト

二　「ホロタール」ノ類ヲ使用セサルコト但シ間壁ニシテ適當ナル補强ヲ爲シタル場合又ハ緊牢ナル壁體ノ表積若ハ裏積トシテ適當ニ之ニ連結シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五　鐵筋「コンクリート」構造

第八十八條　鐵筋「コンクリート」構造ニ使用スル「コンクリート」ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ其ノ用途ニ依リ已ムヲ得ス且建築上支障ナキモノニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第三號ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一　砂、砂利又ハ碎石ハ泥土、鹽分、有機物ヲ含マサルモノナルコト

二　砂利又ハ碎石ハ硬質ニシテ二センチメートル二分ノ一目篩ヲ通過シ且鐵筋相互間及鐵筋ト假構トノ間ヲ自由ニ通過スルモノナルコト

三　煉瓦屑、石炭燼ノ類ハ之ヲ使用セサルコト

四　軟度ハ均質ナル「コンクリート」ヲ得ルニ適當ナルモノナルコト

第八十九條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テハ鐵筋ノ兩端ヲ他ノ構造部ニ緊結スルカ又ハ之ヲ曲ケテ適當ニ「コンクリート」中ニ碇著スヘシ

第八十九條ノ二　鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル主筋ノ繼手ノ長ハ之ヲ主筋直徑ノ二十五倍以上ト爲スヘシ

第九十條　（削除）

第九十條ノ二　鐵筋「コンクリート」ノ主要ナル梁ニハ全張間ニ涉リ複筋及繫筋ヲ配置スヘシ

第九十一條　鐵筋「コンクリート」柱ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　主筋ハ四本以上タルコト

二　繫筋ノ中心距離ハ一尺以下トシ且主筋直徑ノ十五倍ヲ超過セサルコト

三　柱ノ小徑ハ其ノ主要支點間ノ距離十五分ノ一以上ナルコト

四　主筋ノ斷面積ノ和ハ「コンクリート」ノ有效斷面積ニ對シ八十分ノ一以上ナルコト

但シ地方長官構造强度上支障ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條ノ二　第八十六條ノ三及第八十七條ノ規定ハ之ヲ鐵筋「コンクリート」造建物ニ準用ス

第九十二條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ主筋ニ對スル「コンクリート」ノ被覆厚ハ版ニ在リテハ二糎未滿ト、梁及柱ニ在リテハ三糎未滿ト、基礎ニ在リテハ五糎未滿ト爲スヘカラス

第九十三條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル主筋ノ繼

ノ上ニ假構ヲ設クルトキハ其ノ假構ヲ除去スルニ先チ其ノ下階ノ主要假構ヲ除去スヘカラス但シ「コンクリート」施工後二月ヲ經過セルモノ又ハ特ニ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條　高十二尺未滿ノ壁體其ノ他建築上輕微ナルモノニ在リテハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケ第八十八條乃至第九十二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六　獨立煙突

第九十五條　高五十尺ヲ超過スル煙突ハ鐵造又ハ鐵筋「コンクリート」造トシ支線ヲ要セサル構造ト爲スヘシ但シ假設的ノ煙突ニシテ地方長官支障ナシト認メ存續期限ヲ附シ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

鐵道又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ非サル煙突ニシテ高三十尺ヲ超過スルモノニ在リテハ鐵材ヲ以テ適當ナル補强ヲ爲スヘシ

第九十六條　（削除）

第九十七條　煙突ノ構造上必要ナル支線ト地盤トノ接着ハ鐵筋「コンクリート」造其ノ他腐朽ノ虞ナキ堅抗若ハ適當ナル防腐方法ヲ施シタル木杭ニ緊着スヘシ

第九十八條　土管煙突ハ高三十尺ヲ超過スヘカラス但シ緊固ナル鐵製支枠ヲ有スルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ高五十尺迄ト爲スコトヲ得

第九十九條　土管煙突ハ其ノ接合部ニ「モルタル」ヲ用ヒ支枠ニ緊結スヘシ

第百條　百九十五條及第九十八條ノ適用ニ關シテハ煙突ノ高ハ之ニ接着スル地盤面ヨリ之ヲ度ル

第七　强度計算

第百一條　强度計算ニ適用スル各種材料ノ重量ノ最小限左ノ如シ

材料	重量（瓲）
煉瓦	一立方米ニ付　一九〇〇・〇
花崗岩及安山岩	一立方米ニ付　二五〇〇・〇
砂利又ハ碎石ヲ壓元體トセル「コンクリート」及鐵筋「コンクリート」	一立方米ニ付　二三〇〇・〇
スギ、エゾマツ、トドマツ、トウヒ、ベイスギ、ベイツガ	一立方米ニ付　四五〇・〇
ヒバ、ベイヒ、ヒノキ、モミ	一立方米ニ付　五〇〇・〇
アカマツ、クロマツ、ツガ、ベイマツ	一立方米ニ付　五五〇・〇
鋼	百立方糎ニ付　〇・七八五
瓦葺（葺土ヲ除ク）	一平方米ニ付　六〇・〇
葺土、壁土及漆喰	一平方米ニ付　一六〇・〇

第百二條　强度計算ニ於テ建築物ノ各部分ニ生スヘキ應力度ハ各種材料ニ左ノ限度ヲ超過スヘカラス

材料	應壓力度（一平方糎ニ付瓲）	應張力度（一平方糎ニ付瓲）	應剪力度（一平方糎ニ付瓲）	應曲力度（一平方糎ニ付瓲）
スギ、エゾマツ、トドマツ、トウヒ、ベイスギ、ベイツガ	六〇	七〇	七	七〇
ヒバ、ベイヒ、ヒノキ、モミ	七〇	八〇	八	八〇
アカマツ、クロマツ、ツガ、ベイマツ	八〇	九〇	九	九〇
ヒノキ、アカマツ、クロマツ、ベイマツ	八〇	九〇	九	九〇
クリ、ナラ	七〇	九五	一〇	九五

鑄鐵	一一〇	一一〇	八〇
鍛鐵	一一五	一四	九〇
花崗岩	一五		一一〇
硬質安山岩	九		八〇
煉瓦積			一一一
砂利又ハ碎石六三ノ「コンクリート」	三	三	三〇
壓延鋼	一四〇〇	一四〇〇	壓ニ「リベット」ヲ以テ接合スル場合ニ於テハ「リベット」ノ側ノ一四〇〇ヲ二五〇〇ニ、付テハ一七〇〇ヲ一〇〇〇ニ
鑄鐵	八五〇	八五〇	八五〇
鍛鐵	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇

前表ニ於ケル「コンクリート」ノ調合割合ハ容積ヲ以テシ「セメント」ハ千五百キログラムヲ以テ一立方米トス

壓延鋼ニシテ下降伏應力度一平方センチメートルニ付三千五百キログラム以上ノモノ（「リベット」ニ在リテハ應壓環境ノ度一平方センチメートルニ付五千キログラム以上ノモノ）ニ對シテハ地方長官ハ第一項ノ限度ニ依ラサルコトヲ得

品質特ニ劣等ナリト認ムルモノニ對シテハ地方長官ハ第一項ノ限度ヲ低下セシムルコトヲ得

第百二條ノ二　强度計算ニ於テ鐵筋「コンクリート」構造ノ各部分ニ生スベキ「コンクリート」ノ壓縮力度ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

壓縮力度（一平方糎ニ付キ瓩）	壓張力度（一平方糎ニ付キ瓩）	壓剪力度（一平方糎ニ付キ瓩）
一壓縮强度ノ三分ノ一	一壓縮强度ノ三十分ノ一	一壓縮强度ノ三十分ノ一
七・〇	七・〇	七・〇

鐵筋「コンクリート」ニ使用スル「コンクリート」ハ一平方センチメートルニ付九十キログラム以上ノ壓縮强度ヲ有スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

試驗シタルモノニ付テハ第一項ノ壓縮强度ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超ユルコトヲ得ス但シ適當ナル試驗方法ニ依リ「コンクリート」ノ强度ヲ有スルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ地方長官ハ第一項ノ限度ヲ低下スルコトヲ得

$$F=\frac{2k}{20x}$$

F　「コンクリート」ノ壓縮强度

k　商工省告示日本標準規格第二十八號又ハ第二十九號ノ試驗方法ニ依リ試驗セル砂入「セメント」ノ四週間後ノ壓縮强度

x　水「セメント」ノ重量比

鐵筋「コンクリート」ニ使用スル「コンクリート」ハ一平方センチメートルニ付九十キログラム以上ノ壓縮强度ヲ有スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス	一壓縮强度ノ三分ノ一 七・〇
但シ適當ナル試驗方法ニ依リ「コンクリート」ノ强度ヲ有スルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ地方長官ハ第一項ノ限度ヲ低下スルコトヲ得	一壓縮强度ノ三十分ノ一 七・〇

第百二條ノ三　地方長官必要ト認ムルトキハ建築材料ノ提出又ハ强度試驗ノ施行ヲ命スルコトヲ得

第百三條　鐵筋「コンクリート」構造ノ强度計算ニ於テハ鐵筋「コンクリート」ノ强率ヒヲ十五ト爲スヘシ

第百四條　鐵筋「コンクリート」構造ノ强度計算ニ於ケル壓縮力度ハ一平方糎ニ付七瓩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ異形鐵筋ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ形狀ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ在リテハ一〇瓩ト爲スコトヲ得

第百五條　强度計算ニ適用スル各種床積載荷重ノ最小限左ノ如シ

ハ	ロ	イ	床ノ種類	積載荷重（一平方米ニ付瓩）
倶樂部、公會堂、集會場、劇場、映畫館、寄席、演藝場、觀覽場、公衆浴場、待合、料理店、飮食店、舞踏場、百貨店、店舗、病院、診療所、旅館、下宿屋、寄宿舍、住宅ノ類	住戸又ハ住室ノ類			三〇〇
		住宅（別段ノ定アル部分ヲ除ク）		二〇〇
			事務室ノ類	二〇〇

ヲ	ル	ヌ	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ
前各欄ニ記載ナキ室	屋上廣場又ハ重量ノ多キ室	廊下廣間又ハ階段	倉庫又ハ書庫	作業室	自動車車庫又ハ自動車ノ通路	百貨店ノ売場又ハ展覧会ノ陳列室、集会室、観衆席、劇場、映画館、舞踏室、演芸場、食堂、喫茶室、遊技場、停車場ノ待合室又ハ此ノ類ノ用ニ供スル室	舞踏室又ハ此ノ類ノ用ニ供スル室	教室又ハ此ノ類ノ用ニ供スル室
三〇〇	一二五〇〇	四五〇	一二〇〇	但實況ニ依リ平方米ニ付四百五十庇ヲ下ルコトヲ得ス	一五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇

一、特ニ重量ノ物品ヲ積載スル床ノ部分又ハ振動ノ著シキ機械ヲ有スル作業室等ノ床ノ積載荷重ハ各欄ニ拘ラス其ノ實況ニ依リ別ニ之ヲ定ムヘシ

二、自動車車庫、車廻路及作業室等ノ床ノ積載荷重ハ各欄ニ拘ラス其ノ實況ニ依リ別ニ之ヲ定ムヘシ

三、ラ加フルコト又ハ振動ノ著シキ機械ヲ有スル作業室等ノ床ノ積載荷重ハ各欄ニ拘ラス其ノ實況ニ依リ別ニ之ヲ定ムヘシ

第百七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ハ建築物ノ用途、規模及周圍ノ狀況ニ應シ安全ナル構造ト爲スヘシ

第百八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百二十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百三十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百四十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百五十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百六十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百七十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百八十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第百九十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百二十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百三十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百四十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百五十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百六十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百七十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百八十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二百九十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百二十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百三十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百四十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百五十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百六十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百七十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十三條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十四條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十五條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十六條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十七條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十八條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百八十九條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百九十條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百九十一條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百九十二條

壁、柱、基礎及地盤ノ構造ニ關シテハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第三百九十三條

壁、

前項ノ荷重ノ一以内ヲ、大梁ニ對シテハ其ノ荷重ノ小梁ニ對シテハ其ノ荷重ノ十分ノ一以内ヲ、柱又ハ基礎ニ對シテハ其ノ荷重ノ二十分ノ一以内ヲ減ズルコトヲ得

積載荷重ヲ計算スル場合	床ノ構造ニ應ジ積載荷重ヲ減ズルコトヲ得ル場合				
	床ノ構造ニ應ジ積載荷重ヲ減ズルコトヲ得ル場合				
	支持スル床ノ數	積載荷重ヲ減ズル割合			
		大梁ニ對スル場合	小梁ニ對スル場合	柱又ハ基礎ニ對スル場合	
一	一	十分ノ一	十分ノ一	十分ノ一	
二	二	十分ノ一・五	十分ノ一・五	十分ノ一・五	
三	三	十分ノ二	十分ノ二	十分ノ二	
四	四	十分ノ二・五	十分ノ二・五	十分ノ二	
五	五	十分ノ三	十分ノ三	十分ノ二・五	
六	六	十分ノ三・五	十分ノ三・五	十分ノ三	
七以上	七以上	十分ノ四	十分ノ四	十分ノ三・五	

集會場等ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第百六條　抗打基礎ニ於ケル杭ニ對スル荷重ハ基礎ノ使用ヲ得ル場合ニ在リテハ左ノ式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$P=\frac{WH}{5D+0.1}$$

P　杭ノ終局貫入抵抗ノ計算上安全ト認メラルル荷重（單位ハ瓲）

W　槌ノ重量（單位ハ瓲）

H　槌ノ落高（單位ハ米）

D　杭ノ終局貫入抵抗ノ計算上安全ト認メラルル貫入度（單位ハ米）

コンクリート杭ニ於テハ貫入度ノ計算ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ荷重試驗ノ施行ヲ命スルコトヲ得

第百七條　鐵筋コンクリート造ノ杭ニ對スル荷重ハ左ノ式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$P=Afc(1-0.02\frac{1}{d})$$

P　荷重（單位ハ瓲）

A　斷面積（單位ハ平方糎）

fc　第百二條ノ木材ニ對スル壓力度（單位ハ瓲毎平方糎）

l　主要ナル支點間ノ距離（單位ハ糎）

d　斷面ノ最小徑（單位ハ糎）

第百八條　鐵筋コンクリート杭ニ對スル荷重ハ左ノ式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$P=Afc(1-C\frac{1}{r})$$

P　荷重（單位ハ瓲）

A　斷面積（單位ハ平方糎）

fc　第百二條ノ木材ニ對スル壓力度（單位ハ瓲毎平方糎）

l　主要ナル支點間ノ距離（單位ハ糎）

r　斷面ノ最小二次半徑ニ對スル材ノ細長比ヲ得（單位ハ糎）

C　鋼及鐵ヲ含ムリノハ〇・〇〇三ニ、鋼ヲ含マサルリノハ〇・〇〇四、鐵筋コンクリート杭ノ場合ニハ〇・〇〇五トス

第百九條　鐵筋コンクリート杭ニ對スル荷重ハ左ノ式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	ヲ
敷	廊下	百貨店ノ	自轉車	作業室	倉庫又ハ書庫	廊下又ハ階段	屋上廣場又ハ集會室	前各欄ニ記載セサル室
室	室ノ類	賣場、展覽會場、集會場、演藝場、觀覽場、寄席、會議室、教室、病室、休憩室、娯樂室、遊戲室、食堂、喫茶室、宿泊室、病室ノ類	自動車車庫、通路	賣揚ケ一平方米ニ付三百五十瓲ヲ下ルコトヲ得ス但シ一平方米ニ付四百瓲ヲ下ルコトヲ得ス		住宅又ハホテル、寄宿舎、下宿ノ客室、病室、寄宿舎、下宿ノ客室ノ類ニ使用スルモノ	住宅ニ使用スルモノ、劇場、映畫館、集會場、演藝場、遊戲場、公會堂、寄席、病院ノ客室ノ類ニ使用スルモノ	
三五〇	四〇〇	四五〇	一五〇〇〇	一二〇〇〇	三〇〇〇	四五〇〇	三一〇〇〇	三〇〇

ヲ	ワ	カ	ヨ	タ	レ	ソ
前各欄ニ記載セサル室	屋上廣場又ハ集會室	住宅又ハホテル、寄宿舎、下宿ノ客室、病室、寄宿舎、下宿ノ客室ノ類ニ使用スルモノ	住宅又ハホテル、寄宿舎、下宿ノ客室、病室、寄宿舎、下宿ノ客室ノ類ニ使用スルモノ	百貨店ノ賣場、展覽會場、集會場、演藝場、觀覽場、寄席、會議室、教室、病室、休憩室、娯樂室、遊戲室、食堂、喫茶室、宿泊室、病室ノ類	自動車車庫、通路	作業室
三〇〇	二五〇〇〇	三一〇〇〇	四五〇〇	四五〇	一五〇〇〇	三五〇

ニ、特ニ重量ノ物品ヲ取扱フ作業室等ノ床ニ積載スル荷重ハ各項ニ掲ケタル數値ニ其ノ床ノ面積ニ對スル割合ニ應シ大ナル限度ニ於テ增減スルコト

ホ、自動ラ重量ノ運搬作業室等ノ床ニ積載スル荷重ハ各項ニ掲ケタル數値ニ其ノ床ノ面積ニ對スル割合ニ應シ大ナル限度ニ於テ增減スルコト

ヘ、物品ノ集中荷重ヲ受クル部分ニ付テハ別ニ其ノ影響ヲ考慮スルコト

ト、機械設備ヲ有スル作業室等ノ床ノ積載荷重ハ十分ノ二・五以上ノ割增ヲ爲スコト

P　荷重
fc　第百二條ノ二ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
Ac　「コンクリート」ノ有效斷面積
A　主筋ノ斷面積

$P=fc(Ac+15A_s)$

前項有效斷面積ハ其ノ主筋ノ外側線內ノ面積トス

適當ナル卷筋ヲ有スル應壓「コンクリート」材ニ在リテハ第一項ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度ヲ十分ノ二以內增加スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル卷筋ノ中心距離ハ八糎ヲ超過スヘカラス

應壓鐵「コンクリート」材ニシテ其ノ主要ナル支點間ノ距離其ノ最小徑ノ十五倍ヲ超過スルモノニ在リテハ別ニ適當ナル算式ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第百十條　應曲材ニ對スル曲能率ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

M　曲能率
fo　第百二條ノ應曲力度
S　斷面率

$M=foS$

第百十一條　鐵筋「コンクリート」ノ單筋矩形梁又ハ版內ニ中軸ヲ有スル單筋丁梁ニ對スル曲能率ハ左ノ各式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラズ

M　曲能率

$$M=\frac{n_1(3-n_1)}{6}f_c'bd^2$$

$$M=\frac{3-n_1}{3m}ftbd_2$$

n_1　中軸比（梁ノ應壓端ヨリ中軸迄ノ距離ト梁ノ有效丈トノ比
fc　第百二條ノ二ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
ft　第百二條ノ二ノ鐵筋ニ對スル應張力度
m　對筋比
b　梁ノ幅
d　梁ノ有效丈

前項ノ中軸比ハ左式ニ依ル

$$n_1=\frac{15}{m}\left(\sqrt{1+\frac{2m}{15}}-1\right)$$

第百十二條　應壓力ト曲能率トヲ併有スル構枚ノ合成應力度ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ下ルヘカラス

fc　合成應壓力度
M　曲能率
S　應壓側ニ對スル斷面率
P　應壓力
A　斷面積
l　主要ナル支點間ノ距離
r　曲能率ニ依ル斷面ノ中軸ニ對スル仁火率半徑
　但シ木材ニ在リテハ曲能率ニ依ル斷面ノ中軸ニ直角ナル徑

$$fc=\frac{M}{S}+\frac{P}{A}\times\frac{1}{1-C\frac{l}{r}}$$

C　第百七條ノ定數但シ木材ニ在リテハ之ヲ〇・〇二トス

前項ノ合成應壓力度ハ第百二條ノ應壓力度ヲ超過スヘカラス

第百十二條ノ二　鐵筋「コンクリート」ノ梁、版等ノ主筋ヲ橫斷スル面ニ於テ左式ニ依リ算定スル應剪力度ハ「コンクリート」ノ應壓强度ノ十二分ノ一以下ニシテ且一平方センチメートルニ付十八キログラムヲ超過セサルモノナルコトヲ要ス

$$f_s=\frac{S'}{bj}$$

f_s　「コンクリート」ノ應剪力度
S　剪力
b　梁又ハ版ノ幅但シ丁梁ニ在リテハ梁腹ノ幅
j　應壓中心ヨリ應張中心迄ノ距離

第百十二條ノ三　鐵筋「コンクリート」ノ梁、版等ニ生スル應剪力度第百二條ノ二ノ規定ノ應剪力度ヲ超過スルトキハ其ノ部分ニ左ノ規定ニ依リ梁筋ヲ配置スヘシ

一　梁筋ハ應剪力ノ分布ニ從ヒ適當ニ之ヲ配置シ其ノ間隔ハ梁、版等ノ厚ノ三分ノ二ヲ超過セサルコト

二　梁筋ハ應張鐵筋外側ヨリ應壓端ニ近ク達セシメ且適當ニ之ヲ錠著スルコト

主筋ヲ適當ニ曲ケタルモノハ其ノ部分ヲ梁筋ト看做ス

第百十三條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル梁又ハ版ノ張間ハ其ノ支承物間ノ中心距離ヲ以テ之ヲ度ルモノトス但シ支承物間ノ內法距離ニ梁ノ丈又ハ版ノ厚ヲ加ヘタルモノ以テ之ニ代フルコトヲ得

梁又ハ版ノ支端ニ持送アル場合ニ於ケル張間ハ持送ノ厚カ梁又ハ版ノ下端ヨリ度リ梁ノ丈又ハ版ノ厚ノ〇・五倍ニ達スル部分ヨリ之ヲ起算ス

但シ地方長官ハ其ノ持送ノ形狀、傾斜ノ狀態等ニ依リ張間術算位置ヲ變更スルコトヲ得

第百十四條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ梁ト版トヲ適當ニ連結シタル場合ニ在リテハ之ヲ丁梁ト看做スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル丁梁ハ其ノ張間ノ四分ノ一以內、版ノ厚ノ十二倍以內ノ幅ヲ有スルモノトシテ之ヲ算定スヘシ

第百十五條　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ縱橫ニ鐵筋ヲ有スル長方形版四邊ヲ通シテ支承物ヲ有スル場合ニ於テハ式ニ依リ指定シタルモノヲ下ラサル範圍內ニ於テ其ノ荷重ヲ兩張間ニ分賦スルコトヲ得

$$w_0=\frac{l_1^4}{l_1^4+b_1^4}w$$

$$w_1=\frac{l_2^4}{l_2^4+b_2^4}w$$

w　等布荷重
1　一方ノ張間
b　1ニ直角ナル張間

w' 1ヲ張間トスルモノニ分賦スル等布荷重
w6 bヲ張間トスルモノニ分賦スル等布荷重

第百十六條　（削除）

第百十七條　（削除）

第四章　防火地區

第百十八條　防火地區ハ甲種防火地區及乙種防火地區ノ二種トス

第百十九條　甲種防火地區內ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造ト爲スヘシ

第百二十條　甲種防火地區內ニ在ル建物ノ軒、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ

第百二十一條　甲種防火地區內ニ在ル建物ノ窓又ハ出入口ニシテ式ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ甲種防火戸ヲ設クヘシ但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積三十平方尺以內柱ノ窓若ハ出入口又ハ屋根、床柱及階段耐火構造ナル建物ノ窓若ハ出入口ニシテ地方長官鳳圖ノ狀況ニ鑑リ防火上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ六間未滿ノ距離ニ在ルトキ但シ建築線道管境界線ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス

二　隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離六間未滿ナルトキ

三　隣地建物ヨリノ水平距離六間未滿ノ位置ニ在ル建物ノ軒、庇、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ準耐火構造ト爲スヘシ

第百二十二條　前二條ノ準耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル構造ヲ謂フ

一　鐵骨造ニシテ外部ヲ生子板張ト爲シタルモノ

二　鐵骨造又ハ木造ニシテ外部ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル裝飾ヲ爲シタルモノ

イ　外面ニ石煉瓦又ハ人造石ノ類ヲ用ヒ其ノ厚三寸以上ノモノ

ロ　瓦貼ノ上ニ「セメント、モルタル」塗トシ厚合計一寸二分以上ノモノ

ハ　厚一寸二分以上ノ「セメント、モルタル」塗又ハ「コンクリート」塗

ニ　「セメント、モルタル」塗ノ上ニ化粧煉瓦塗トシ厚合計一寸二分以上ノモノ

ホ　木骨土藏造ニシテ塗土、漆喰等ノ厚合計三寸以上ノモノ

三　其ノ他地方長官之ニ準スト認メタルモノ

第百二十三條　甲種防火地區內ニ在ル建物ノ軒、庇、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ

第百二十四條　甲種防火地區內ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造ト爲スヘシ

第百二十五條　甲種防火地區內ニ在ル建物ニシテ式ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ床、柱及階段耐火ヲ構造ト爲スヘシ

一　建築面積二百坪以上ニシテ階數二以上ノモノ

二　建築面積百坪以上ニシテ階數三以上ノモノ

三　階數四以上ノモノ

第百二十六條　甲種防火地區內ニ在ル建物ニシテ道路ニ面セサルモノハ其ノ高十八尺ヲ、軒高十二尺ヲ、建築面積十二坪ヲ超過セサル場合ニ限リ乙種防火地區內ニ在ル建物ニ關スル規定ニ依ルコトヲ得但シ地方長官建物ノ用途ニ依リ火災律防上危險ノ虞アリト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百二十七條　甲種防火地區內ニ在ル壁ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ

第百二十八條　乙種防火地區內ニ在ル建物ノ軒、庇、軒蛇腹、屋窓、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ準耐火構造ト爲スヘシ

第百二十九條　乙種防火地區內ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スヘシ

第百三十條　乙種防火地區內ニ在ル建物ノ窓又ハ出入口ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ乙種防火戸ヲ設クヘシ但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積四十平方尺以內ノ窓若ハ出入口又ハ其ノ屋根、床、柱及階段耐火構造ナル建物ノ窓若ハ出入口ニシテ地方長官鳳圖ノ狀況ニ鑑リ防火上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ三間未滿ノ距離ニ在ルトキ但シ建築線道管境界線ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス

二　隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離三間未滿ナルトキ

三　隣境界線又ハ隣接建物ヨリノ水平距離三間未滿ノ位置ニ在ルトキ但シ枠、組子、棧及鏡板鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス

公園、廣場、河、海等ノ空地ニ面スル窓又ハ出入口ニ付テハ前項ノ適用ニ於テ其ノ空地ヲ道路ト看做ス

第百三十一條　乙種防火地區內ニ在ル建物ノ屋根ヲ金屬板ヲ以テ被覆スルトキハ其ノ野地ヲ厚一寸以上ノ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ

第百三十二條　（削除）

第百三十三條　建物防火地區ノ境界線外ニ亘ル場合ニ於テ其ノ全部ニ對シ防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ防火地區外ニ在ルトキハ其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百三十四條　建物甲種防火地區及乙種防火地區ニ亘ル場合

ニ在リテハ其ノ全部ニ對シ甲種防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ甲種防火地區外ニ在ルトキハ其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百三十四條 前二條ノ防火壁ニ付テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第百三十五條 地方長官ハ防火地區內ニ在ル建築物ニ關シ本令ノ規定ノ外火災豫防上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第百三十五條ノ二 地方長官ハ防火地區內ニ在ル建築物ニシテ一時ノ使用ニ供スルモノニ付第百十九條乃至第百三十五條ノ規定ニ拘ラス必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五章 美觀地區

第百三十六條 地方長官ハ美觀地區內ニ在ル建築物ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ除却、改修其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第百三十七條 地方長官ハ美觀地區內ニ建築スル建築物ノ意匠ニ關スル設計ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スルトキハ其ノ設計ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第百三十八條 地方長官美觀上必要アリト認ムルトキハ美觀地區內ニ一定ノ區域ヲ指定シ其ノ區域內ノ建築物ノ高、軒高又ハ外壁ノ材料及主色ヲ指定スルコトヲ得

第百三十九條 地方長官前三條ノ措置又ハ指定ニシテ重要ナリト認ムル事項ニ關シテハ美觀審查委員會ノ意見ヲ徵スヘシ

美觀審查委員會ニ關スル規定ハ地方長官之ヲ定ム

第百四十條 美觀地區內ニ在ル建築物ノ外部汚損セルトキハ速ニ之ヲ修理スヘシ

第百四十一條 美觀地區內ニ在ル建築物ノ排水管、排氣管、煖房煙管、瓦斯及煙突ノ類ハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ道路廣場又ハ公園ニ面スル壁面ニ露出セシムルコトヲ得ス

第百四十二條 美觀地區內ニ在ル建築敷地ニシテ未タ建築物ナキモノ又ハ建築工事著手事ノモノハ板塀ノ類ヲ以テ體裁ヨク之ヲ圍繞スヘシ但シ適當ナル整理ヲ爲シ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六章 工事執行

第百四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ノ新築、增築、改築又ハ移轉ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ建築物ノ用途ヲ變更シテ第一號又ハ第五號ニ充テムトスルトキ亦同シ

一 市街地建築物法第十四條ノ建築物

二 防火地區及美觀地區內ノ建築物

三 鐵筋「コンクリート」造、鐵骨造、鐵造、石造、煉瓦造木骨造其ノ他木造ニ非サル建築物

四 階段三以上ノ建築物

五 前各號ニ揭クルモノノ外地方長官ノ指定スル建築物

高四メートルヲ超ユル擁壁ノ築造ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第百四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ地方長官ニ屆出ツヘシ

一 前條ニ該當セサル建築物ノ新築

二 前條ニ該當セサル建築物ノ增築、改築又ハ移轉

三 前條第一項第一號乃至第四號ノ建築物ニシテ其ノ床面積百平方メートルヲ超ユルモノノ大修繕又ハ大變更

四 高二メートルヲ超ユル擁壁ノ築造

第百四十四條ノ二 地方長官ハ輕微ナル事項ニ付前二條ノ規定ニ拘ラス命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條 地方長官第四十三條ノ認可申請ニ付支障ナシト認ムルトキハ建築認可證ヲ交付スヘシ

地方長官ハ前項ノ建築認可證ノ交付ニ際シ建築物使用認可證ヲ受クルニ非サレハ使用シ得サル建築物ヲ指定スルコトヲ得

第百四十六條 第百四十三條及第百四十四條ノ建築工事竣功シタルトキ及地方長官ノ特ニ指定シタル工程ニ達シタルトキハ地方長官ニ屆出ツヘシ

第百四十七條 地方長官ハ第百四十五條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建築物ニ付竣功ノ屆出ヲ受ケタル場合ニ於テ支障ナシト認メタルトキハ遲滯ナク建築物使用認可證ヲ交付スヘシ

地方長官ハ申請者ノ請求ニ依リ前項ノ建築物ノ竣功セル部分ニ對シ建築物使用認可證ヲ交付スルコトヲ得

第百四十八條 地方長官ハ當該官吏又ハ吏員ヲ派シ建築物及建築工事ヲ臨檢セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ臨檢者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ第一項ノ場合ニ於テ建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者檢查ニ必要ナル準備ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項準備ノ費用ハ建築主又ハ建築物所有者ノ負擔トス

第百四十九條 地方長官ハ建築工事ノ認可申請、屆出又ハ其ノ變更ノ手續其ノ他建築工事ノ取締ニ關シ本則ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十九條ノ二 第七條乃至第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十七條第二項、第二十八條乃至第百十五條第百三十六條乃至第百四十二條及第百四十四條第二號乃至第四號ノ規定ハ內務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用セス地方長官特別ノ事由アリト認メ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルキハ地方長官ニ屆出ツヘシ

トキハ前項ノ指定區域ニ付命令ヲ以テ建築物ノ種別又ハ地區ヲ指定シ前項ニ揭クル條項ノ規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨ケス

附　則

第百五十條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

第百五十一條　本則ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市街地建築物法施行細則

警視廳令第四十七號（昭和三年十一月二十九日）

改正　昭和六年第五八號、七年第八號、一〇年第二二號、一四年第三號、第五號、一五年第四號

市街地建築物法施行細則左ノ通定ム

市街地建築物法施行細則

第一條　本令ニ於テ法ト稱スルハ市街地建築物法、施行令ト稱スルハ市街地建築物法施行令、施行規則ト稱スルハ市街地建築物法施行規則ヲ謂フ

第二條　法、施行令、施行規則又ハ本令ニ依ル申請書又ハ届書ハ所轄警察署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ

前項ノ所轄警察署ト稱スルハ建築線、建築物又ハ建築工事用機械所在地所轄警察署ヲ謂フ

第三條　法、施行令、施行規則又ハ本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人準禁治產者ナルトキハ其ノ保佐人、妻ナルトキハ其ノ夫ノ連署ヲ要ス

前項ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキハ五日以內ニ届出ツヘシ

第四條　法、施行令、施行規則又ハ本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記載スヘシ申請書又ハ届書ニ記載スヘキ氏名法人ナルトキ亦同シ

第五條　施行令第一條第十號ノ規定ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ土地ノ狀況、作業方法又ハ建築物ノ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ其ノ建築ヲ許可スルコトアルヘシ

一　工場ニシテ左ノ揭クル事業ヲ營ムモノ又ハ作業ヲ爲スモノ

イ　鋼板ノ槌打加工

ロ　「コルク」、「エボナイト」又ハ「ペークライト」類ノ粉碎若ハ乾燥研磨ニシテ當時原動機ヲ使用スルモノ

ハ　木材ノ挽割若ハ鉋削、裁縫、機織、絲絲、組紐、編物、製絲又ハ鑵ノ目立ニシテ當時使用スル原動機馬力數ノ合計一ヲ超過スルモノ

ニ　印刷、製材又ハ石材ノ挽割ニシテ當時使用スル原動機ノ合計二ヲ超過スルモノ

二　舞踏場

第六條乃至第八條　（削除）

第九條　幅員一・八メートル以上四メートル未滿ノ通路ニ在リテハ其ノ中心線ヨリ兩側各二メートルノ距離ニ在ル線ヲ以テ建築線トス但シ施行令第三十條第一項第一號、第二號ノ道路及別ニ建築線ノ指定シタル道路ハ此限ニ在ラス

第十條　建築線ノ指定若ハ變更ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ指定セラレタル建築線ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

一　申請者ノ住所及氏名

二　關係土地ノ地名番號

三　關係土地所有者、管理者及使用權者ノ住所及氏名

四　申請ノ理由

五　申請ニ係ル建築線ノ長及建築線間ノ距離

六　申請ニ係ル建築線ノ位置ヲ標示スヘキ方法

前項ノ申請書ニハ關係土地所有者又ハ管理者、土地使用權者ノ承諾書（承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ理由書）竝左ノ事項ヲ明示シタル土地平面圖（縮尺百分ノ一、二百分ノ一、三百分ノ一又ハ六百分ノ一）ヲ添附スヘシ

一　方位

二　關係敷地ノ境界及地名番號

三　建築線ノ位置、長及建築線間ノ距離

四　申請ニ係ル建築線ニ接續スヘキ道路及其ノ幅員

五　關係敷地ニ於ケル建築物ノ位置

六　其ノ他關係道路、用水路又ハ河川等ノ位置

前項ノ圖面中ニ既存建築アルトキハ其ノ部分ト申請ニ係ル部分トヲ著色其ノ他ノ方法ニ係リ區別スヘシ

第一項ノ申請書ヲ提出シタル後第一項第一號乃至第三號ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ同第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係圖書ヲ具シ届出ツヘシ

第十一條　前條ノ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ申請書ノ副本ニ別記第一號樣式ニ依ル建築線調査濟證印ヲ押捺シテ申請者ニ交付ス

第十二條　申請ニ依リ指定セラレタル建築物ノ位置ハ申請者ニ於テ適當ナル方法ニ依リ之ヲ標示スヘシ但シ側溝其ノ他ニ依リ其ノ位置明カナルモノ又ハ土地ノ狀況ニ依リ標示シ難キモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ設置シタル標識ハ濫ニ之ヲ移動セシムヘカラス

第十三條　（削除）

第十四條　法第七條但書ノ規定ニ依リ指定シタル建築線ハ之ヲ告示ス指定シタル建築線ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十五條　建築線ノ敷地ニシテ其ノ地盤面前面ヨリ高キコト六十センチメートルヲ超ユルトキハ其ノ高ヨリ六十センチメートルヲ減シタルモノノ二分ノ一ニ相當スル高ノ位置ヲ以テ施行令第七條ノ前面道路ノ路面ト看做ス

第十六條　建築物ノ敷地カ高低ノ差六十センチメートルヲ超ユル二以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ一ノ道路ノ境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一又ハ二十五メートルヲ超ユル區域ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ施行令第七條ノ規定ノ適用ニ關シ制限ノ緩ナル道路ヲ以テ前面道路ト看做ス

第十七條　建築物ノ敷地ニシテ道路ノ終端ニ位スル場合ニ在リテハ施行令第七條乃至第九條ノ規定ノ適用ニ關シ其道路幅員ノ一倍四分ノ一ニ相當スル幅員ヲ有スル道路ニ接スルモノト看做ス

第十七條ノ二　施行令第十條各號ニ該當スル敷地ニ於ケル建築物各部分ノ高ニ付テハ土地ノ狀況其ノ他ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ第十五條及第十七條ノ規定ニ拘ラス其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

第十八條　建築物ノ敷地ニシテ左ノ要件ヲ具備スルモノハ施行令第十四條但書ノ規定ニ依ル角地トス

一　幅員各五、四メートル以上ノ道路ニ依リ角地ヲ爲スコト

二　敷地ノ周地ノ周邊ノ三分ノ一以上前號ノ道路ニ接スルコト

前項ノ道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類在ルトキハ其ノ幅限ヲ三メートル迄減スルコトヲ得

第十九條　建築物ノ敷地ニシテ其ノ周邊ノ三分ノ二以上幅員三、六メートル以上ノ道路ニ接スルモノハ施行令第十三條但書ノ規定ニ依ル其ノ他ノ他域トス

前項ノ建築物ノ敷地ニ接シ又ハ道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類在ルトキハ前項ノ適用ニ付テハ之ヲ道路ト看做ス

第二十條　（削除）

第二十一條　汲取便所ニ在リテハ窓ノ金網張又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル防蠅設備ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況又ハ構造設備ニ依リ衛生上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　井戸ハ閉鎖井戸ト爲シ其ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ衛生上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　導水管又ハ其ノ外管ハ內徑三十センチメートル以下ト爲シ不滲透質ノ材料ヲ以テ構成シ地盤面下三メートル以上ノ深ニ達セシムルコト

二　導水管又ハ其ノ外管ノ接手ハ水ノ滲透セサル構造ト爲スコト

三　導水管又ハ其ノ外管ノ周圍ハ地盤面下三メートル以上土壤ヲ以テ填充スルコト

第二十三條　（削除）

第二十四條　汽罐、營業用風呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル煙突ノ高ハ地盤面上二十三メートル以上、其ノ口徑ハ三十六センチメートル以上ト爲スヘシ但シ燃料ノ種類、量又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命シ又ハ其ノ低減ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十五條　強度計算ニ於ケル地震ノ水平震度ハ地盤面上高十五メートルヲ超過スル煙突、物見塔、廣告塔、無線電信用電柱ノ類ニ在リテハ〇・一五以上ト爲スヘシ

第二十六條　（削除）

第二十七條　強度計算ニ適用スル風壓力ハ建築物ノ垂直平面一平方メートルニ付高六メートル以下ノ部分ニ在リテハ七十五キログラム以上、高六メートルヲ超ユル部分ニ在リテハ百キログラム以上ト爲スヘシ但シ高十五メートルヲ超過スル煙突、物見塔、廣告塔、無線電信用電柱ノ類ニ在リテハ垂直平面一平方メートルニ付百五十キログラム以上ト爲スヘシ

前項ノ風壓力ハ建築物ノ形狀又ハ周圍ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命シ又ハ其ノ輕減ヲ許可スルコトアルヘシ

第一項ノ高ハ建築物ノ接著スル地盤面ヨリ之ヲ度ル

第二十八條　（削除）

第二十九條　（削除）

第三十條　防火地區內ニ建築スル建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ施行規則第百十九條乃至第百三十五條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

一　建築工事用ノ足代、棧橋、下小屋、材料置場又ハ監督事務所ノ類

二　建築工事期間中ノ使用ヲ目的トスル假營業所又ハ假事務所ノ類

三　一季節間ノ使用ヲ目的トスル建築物

四　其ノ他一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ已ムヲ得スト認ムルモノ

第三十條ノ二　施行規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ配置圖（方位、敷地境界、建築物ノ位置、崖又ハ擁壁ノ位置、排水路及道路ヲ明示シタル縮尺百分ノ一、二百分ノ一、三百分ノ一又ハ六百分ノ一ノモノ）及設計書ヲ添附シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但シ第三十二條ノ申請ニ所要ノ事項及圖面ヲ併セ具シタルトキハ本條ノ申請ヲ省略スルコトヲ得

一　申請者ノ住所及氏名

二　敷地所有者ノ住所及氏名

三　崖又ハ擁壁所有者ノ住所及氏名

四　工事管理者、設計者又ハ工事請負人アルトキハ其ノ住所及氏名
五　敷地ノ地名番號
六　申請ノ要旨
七　建築物ノ用途
八　崖又ハ擁壁ノ高、形狀及構造ノ概要
九　起工期日及竣工期日
前項ノ外必要ト認ムルトキハ圖書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第一項第一號乃至第七號及第九號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第三十條ノ三　前條ノ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ申請書ノ副本ニ別記第二號樣式ニ依ル證印ヲ押捺シタル認可證ヲ申請者ニ交付ス
前項ノ認可證ノ交付ヲ受ケタル工事竣工シタルトキハ屆出ツヘシ

第三十一條　施行規則第百四十三條第一項第五號ノ規定ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ
一　建築面積六百六十平方メートル以上ノモノ
二　他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノ
三　法、施行令、施行規則又ハ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ要スル事項ヲ含ムモノ

四　施行令第二十八條ノ建築物
五　土地面積三十アール以上火災ニ罹リタル地區ニ於テ罹災後三月以内ニ建築工事ニ著手セムトスルモノ
六　都市計畫法第十條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル風致地區内ニ建築スルモノ但シ第三十八條第一項各號ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　施行規則第百四十三條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ設計書及圖面ヲ添附シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ但シ規模大ナル建築物特殊ノ用途ニ供スル建築物等ニシテ設計書又ハ第三十四條第一項第三號乃至第十號ノ圖面ヲ同時ニ添附シ難キ事情アリト認ムルトキハ之ヲ區分シ提出セシムルコトアルヘシ
一　建築主ノ住所及氏名
二　敷地所有者ノ住所及氏名
三　建築工事管理者、設計者又ハ建築工事請負人アルトキハ其ノ住所及氏名
四　敷地ノ地名番號
五　申請ノ要旨
六　敷地内建築物ノ主要用途
七　敷地面積及敷地内建築面積ノ合計
八　（削除）
九　敷地ト道路トノ高低

十　申請ニ係ル建築物ノ概要（各棟ニ付其ノ構造種別、高軒高、階數、各階面積等）
十一　起工期日及竣功期日
十二　法、施行令、施行規則又ハ本令ニ依リ特ニ許可、認可又ハ承認ヲ受クルヲ要スル事項アルトキハ其ノ事項
前項ノ外必要ト認ムルトキハ圖書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第一項ノ申請書ヲ提出シタル後建築工事管理者又ハ建築工事請負人ヲ定メタルトキハ五日以内ニ屆出ツヘシ

第三十三條　前條第一項ノ規定ニ依ル設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス
一　圖面ニ示シ難キ構造設備、材料ノ種類寸法其ノ他仕樣ノ概要
二　鐵骨造建築物、鐵筋「コンクリート」造建築物其ノ他特殊ノ構造ノモノニ在リテハ其ノ構造强度計算
三　煖房、換氣、避雷、給水、排水、其ノ他ノ設備アルモノハ其ノ構造仕樣ノ概要

第三十四條　第三十二條第一項ノ規定ニ依ル圖面左ノ如シ但シ木造又ハ木骨造建築物ニシテ建築面積二百三十平方メートル以下ノモノニ在リテハ第三號乃至第八號ノ圖面ヲ省略スルコトヲ得
一　配置圖（方位、敷地境界線、建築物、井戸、四隣道路、排水路等ヲ明示スヘシ）縮尺五十分ノ一、百分ノ一、二百分ノ一又ハ六百分ノ一
二　各階平面圖（方位、各室ノ用途及大サ、各居室ノ床面積及採光面積等ヲ明示スヘシ）縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一
三　斷面圖（建築物ノ高、軒高、階高、床高、基礎、關係道路、建築線等ヲ明示スヘシ）縮尺二十分ノ一、五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一
四　立面圖　縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一
五　基礎平面圖、縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一
六　各階床組平面圖　縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一
七　小屋組平面圖　縮尺五十分ノ一、百分ノ一又ハ二百分ノ一
八　構造上緊要ナル部分ノ詳細圖　縮尺十分ノ一又ハ二十分ノ一
九　根切深三メートル以上ヲ有スルモノハ其ノ山留工事圖　縮尺二十分ノ一五十分ノ一又ハ百分ノ一
十　前條第三號ノ設備アルモノハ其ノ圖面
十一　昭和十四年二月内務省令第五號防空建築規則ノ適用アルモノハ其ノ部分ノ立面圖及構造圖

（縮尺二百分ノ一、百分ノ一、五十分ノ一又ハ二十分ノ一）

前項第一號乃至第三號ノ圖面ニ既存建築物アルトキハ其ノ部分ト申請ニ係ル部分トヲ著色其ノ他ノ方法ニ依リ區別スヘシ

第一項第三號ノ斷面圖縮尺二十分ノ一又ハ五十分ノ一ニシテ構造上緊要ナル部分、主要材料ノ種類、大サ等ヲ明示シタルモノナルトキハ第八號ノ詳細圖ヲ省略スルコトヲ得

第三十五條　第三十二條第一項ノ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築認可證トシテ申請書ノ副本ニ別記第二號樣式ニ依ル建築認可證印ヲ押捺シテ建築主ニ交付ス

第三十六條　施行規則第百四十四條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サムトスル者ハ第三十二條第一項各號ノ事項ヲ具シ設計書及圖面（大修繕ニ在リテハ圖面ヲ省略）ヲ添附シタル屆書正副二通ヲ提出スヘシ但シ木造平家建ニシテ建築面積百平方メートル以下ノモノニ在リテハ設計書ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ屆出ハ起工五日以前ニ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ起工期日ヲ延期セシムルコトアルヘシ

第一項ノ屆出ニ付テハ第三十二條第二項、同第三項、第三十三條及第三十四條ヲ準用ス

第三十七條　前條ノ屆出ニシテ支障ナシト認ムルトキハ屆書ノ副本ニ別記第二號樣式ニ依ル建築主ニ交付ス

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ在リテハ施行規則第百四十三條第一項ノ規定ニ依ル認可申請及同第百四十四條ノ規定ニ依ル屆出ハ之ヲ省略スルコトヲ得但シ昭和十四年二月內務省令第五號防空建築規則ノ適用アルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　施行規則第百四十三條第二項第三號（同條第一項第一號、第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノヲ除ク）ニ該當スル建築物ニシテ其ノ床面積二十平方メートル以上且高五十メートルヲ超エサルモノ

二　施行規則第百四十四條第一號及第二號ニ該當スル場合ニシテ其ノ部分ノ床面積二十平方メートル以下且高五メートルニ超エサルモノ

三　甲種防火地區及美觀地區外ニ設クル門、障壁ノ類ニシテ高四メートルヲ超エサルモノ

四　工事用ノ足代、棧橋及甲種防火地區外ニ設クル下小屋ノ類ニシテ道路ヲ占用セサルモノ

五　一時ノ使用ニ供スル日除、雨除ノ類ニシテ構造簡易ナルモノ（甲種防火地區內ニ設クルモノ及高十三メートル以上ノ場所ニ設クルモノヲ除ク）

前項ノ高ハ建築物ノ接著スル地盤面ヨリ之ヲ度ル

第三十九條　施行令第三條ノ二又ハ施行規則第三條ノ八ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ第三十二條第一項各號ノ事項ノ外地域又ハ地區ノ指定若ハ變更ノ際ニ於ケル建築物ノ用途、敷地面積、建築面積及床面積ヲ記載シ設計書及圖面ヲ添附シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ

第四十條　第五條但書、施行令第一條但書、同第二條但書、同第三條但書、同第二十九條ノ二又ハ施行規則第三條ノ二第九號乃至第十一號ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ第三十二條第一項各號ノ事項ヲ具シ設計書及圖面ヲ添附シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ

第四十一條　法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ建築工事中ノ建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ヲ建築セムトスル者ハ其ノ設定、指定若ハ變更アリタル日ヨリ三十日以內ニ第二十二條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係圖書ヲ具シ申請シ認可又ハ許可ヲ受クヘシ但シ變更ノ程度輕微ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ建築物ニシテ使用認可證交付前第三十二條第一項第五號乃至第十號、第十二號、第三十三條又ハ第三十四條第一號各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係圖書ヲ具シ申請シ認可又ハ許可ヲ受クヘシ但シ變更ノ程度輕微ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　前三條ノ設計書ニ付テハ第三十三條、圖面ニ付テハ第三十四條規定ヲ適用ス

第四十三條　第三十九條乃至第四十一條ノ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築許可證トシテ申請書ノ副本ニ別記第四號樣式ニ依ル建築許可證印ヲ押捺シテ建築主ニ交付ス

第四十四條　建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ノ建築工事竣功シタルトキハ屆出ツヘシ

前項ノ建築物ニ付テハ施行規則第百四十七條ノ規定ヲ準用ス

第四十五條　第三十二條第一項又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ申請ヲ爲シタル建築物ニシテ使用認可證交付前第三十二條第一項第五號乃至第十號、第十二號、第三十三條又ハ第三十四條第一號各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係圖書ヲ具シ申請シ認可又ハ許可ヲ受クヘシ但シ變更ノ程度輕微ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ建築物ニシテ使用認可證交付前第三十二條第一項第一號乃至第四號又ハ第十一號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ五日以內ニ屆出ツヘシ

第四十六條　第三十六條ノ屆出ヲ爲シタル建築物ニシテ其ノ工事竣功前第三十二條第一項第五號乃至第十號、第十二號第三十三條又ハ第三十四條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトリテハ申請書ニ其ノ進捗ノ程度ヲ附記スヘシ

スルトキハ十日以前ニ届出ツヘシ但シ變更ノ程度輕微ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ建築物ニシテ工事竣功前第三十二條第一項第一號乃至第四號又ハ第十一號ノ事項ニ變更シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

第四十七條 建築ノ申請又ハ届出ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該行政廳ノ許可ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ但シ特ニ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 道路法第一條ノ道路敷地内ニ建築セムトスルモノ

二 都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ境域内ニ建築セムトスルモノ

三 社寺ヲ建築セムトスルモノ

四 社寺以外ノ者ニシテ社寺境内地ヲ使用シテ建築セムトスルモノ

五 公園、河川其ノ他公共ノ用ニ供スル官公有ノ土地又ハ水面ヲ使用シテ建築セムトスルモノ

第四十七條ノ二 施行規則第百四十五條第二項ノ規定ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一 甲種防火地區及美觀地區内ノモノ

二 木造ニ非サルモノ

三 木造ニシテ建築面積六百六十平方メートル以上ノモノ

四 特殊建築物規則又ハ特殊建築物耐火構造規則ノ適用ヲ受クルモノ

五 煖房、換氣、給水、排水其ノ他ノ機械設備又ハ避雷設備ヲ有スルモノ

六 其ノ他特ニ重要ヲ認メ建築認可ノ際指定シタルモノ

第四十八條 施行規則第百四十七條ノ規定ニ依リ交付スル建築物使用認可證ハ別記第五號樣式ニ依ル

第四十九條 （削除）

第五十條 建築工事用トシテ櫓ノ高十二メートル以上ノ杭打棧、能力三トン以上又ハ主柱若ハ傾柱ノ長十二メートル以上ノ起重機ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ三日以前ニ届出ツヘシ

一 設置者ノ住所氏名

二 建築主ノ住所氏名

三 機械取扱主任者ノ住所、氏名及經歷

四 設置地ノ地名番號

五 建築ノ許可又ハ認可年月日及番號（施行規則第百四十四條ノ建築物ニ在リテハ届出年月日）

六 機械ノ種類、大サ、能力及箇數

七 機械ノ使用目的及使用法

八 機械ノ据付工事竣功期日

九 機械ノ使用期間

前項第三號ノ機械取扱主任者ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五十一條 前條第一項第三號第六六號及第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ届出ツヘシ

前條第一項第一號、第八號及第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ届出ヲ爲シタル工事用機械ノ使用ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第五十二條 第五十條第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル工事用機械ニ在リテハ機械取扱主任者現場ニ立會スルニ非サレハ其ノ据付、使用、移動又ハ解體ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 建築工事場ニ於テ工事用機械ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 工事用機械ハ其ノ使用目的以外ニ又ハ能力ノ範圍ヲ超エテ使用セサルコト

二 捲揚機ニハ有效ナル制動裝置竝操作上必要ナル信號裝置若ハ之ニ代ルヘキ施設ヲ爲スコト

三 工事用機械ニシテ自立不安定ナルモノハ適當ナル支柱又ハ支線ヲ設クルコト

四 工事用機械ハ所轄警察署ノ承認ヲ得ルニ非サレハ日出前又ハ日沒後ニ使用セサルコト

第五十四條 （削除）

第五十五條 建築主、建築工事請負人又ハ建築工事管理者ハ建築工事ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 足代、棧橋其ノ他ノ工事用工作物ハ保安上危險ノ虞ナキ構造設備ト爲スコト

二 材料ノ運搬、構材ノ鉄釘其ノ他ノ作業ニシテ危害ヲ生スルノ虞アルモノハ之ヲ防止スルニ足ルヘキ施設ヲ爲スコト

三 火氣ヲ使用スル場合ニ在リテハ火災豫防上竝煤煙防止上適當ナル施設ヲ爲スコト

四 工事ニ依リ電氣、瓦斯又ハ水道等ノ工作物ニ障害ヲ及シ又ハ之ヨリ危害ヲ受クルノ虞アルトキハ當該管理者ニ通知シ適當ナル措置ヲ求ムルコト

五 工事ノ爲死傷其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ部分ノ作業ヲ中止シ所轄警察署ニ届出ツルコト

前項第五號ノ場合ニ在リテハ所轄警察署ノ承認ヲ得ルニ非サレハ其ノ作業ヲ開始スルコトヲ得ス

第五十五條ノ二 建築工事場ニ於ケル壓搾空氣ヲ用フル鉄釘打作業又ハ汽鎚ヲ用フル杭打作業等ニシテ甚シキ騒擾、震動ヲ發シ附近ノ靜謐ヲ害スル虞アルモノハ其ノ作業ニ對シ必要ナル措置ヲ命シ又ハ作業時間ヲ制限スルコトアルヘシ

第五十六條 建築工事中ハ工事場ニ建築ノ許可又ハ認可ノ證印アル副本ヲ備ヘ當該吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第五十七條 建築ノ許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ建築ノ届出ヲ爲

其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五十一條 前條第一項第三號第六六號及第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ届出ツヘシ

前條第一項第一號、第八號及第九號ノ事項ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ届出ヲ爲シタル工事用機械ノ使用ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第五十二條 第五十條第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル工事用機械ニ在リテハ機械取扱主任者現場ニ立會スルニ非サレハ其ノ据付、使用、移動又ハ解體ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 建築工事場ニ於テ工事用機械ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 工事用機械ハ其ノ使用目的以外ニ又ハ能力ノ範圍ヲ超エテ使用セサルコト

二 捲揚機ニハ有效ナル制動裝置竝操作上必要ナル信號裝置若ハ之ニ代ルヘキ施設ヲ爲スコト

三 工事用機械ニシテ自立不安定ナルモノハ適當ナル支柱又ハ支線ヲ設クルコト

四 工事用機械ハ所轄警察署ノ承認ヲ得ルニ非サレハ日出前又ハ日沒後ニ使用セサルコト

第五十四條 （削除）

第五十五條 建築主、建築工事請負人又ハ建築工事管理者ハ建築工事ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 足代、棧橋其ノ他ノ工事用工作物ハ保安上危險ノ虞ナキ構造設備ト爲スコト

二 材料ノ運搬、構材ノ鉄釘其ノ他ノ作業ニシテ危害ヲ生スルノ虞アルモノハ之ヲ防止スルニ足ルヘキ施設ヲ爲スコト

三 火氣ヲ使用スル場合ニ在リテハ火災豫防上竝煤煙防止上適當ナル施設ヲ爲スコト

四 工事ニ依リ電氣、瓦斯又ハ水道等ノ工作物ニ障害ヲ及シ又ハ之ヨリ危害ヲ受クルノ虞アルトキハ當該管理者ニ通知シ適當ナル措置ヲ求ムルコト

五 工事ノ爲死傷其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ部分ノ作業ヲ中止シ所轄警察署ニ届出ツルコト

前項第五號ノ場合ニ在リテハ所轄警察署ノ承認ヲ得ルニ非サレハ其ノ作業ヲ開始スルコトヲ得ス

第五十五條ノ二 建築工事場ニ於ケル壓搾空氣ヲ用フル鉄釘打作業又ハ汽鎚ヲ用フル杭打作業等ニシテ甚シキ騒擾、震動ヲ發シ附近ノ靜謐ヲ害スル虞アルモノハ其ノ作業ニ對シ必要ナル措置ヲ命シ又ハ作業時間ヲ制限スルコトアルヘシ

第五十六條 建築工事中ハ工事場ニ建築ノ許可又ハ認可ノ證印アル副本ヲ備ヘ當該吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第五十七條 建築ノ許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ建築ノ届出ヲ爲

シタル建築物ノ建築ヲ廢罷シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

第五十八條　建築工事左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衛生上有害ト認ムルトキ

三　法、施行令、施行規則及本令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ工事ヲ爲シタルトキ

第五十九條　建築ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　虚僞ノ申請ヲ爲シタルトキ

二　起工期日ヲ經過スルコト五月ニシテ工事ニ著手セサルトキ

三　竣功期日ヲ經過スルコト九月ニシテ竣功セサルトキ

第六十條　施行規則第百四十四條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ届出ノ效力ヲ失ハシムルコトアルヘシ

一　虚僞ノ届出ヲ爲シタルトキ

二　起工期日ヲ經過スルコト三月ニシテ工事ニ著手セサルトキ

三　竣功期日ヲ經過スルコト六月ニシテ竣功セサルトキ

第六十一條　（削除）

第六十二條　建築ノ許可若ハ認可ヲ受ケ又ハ建築ノ届出ヲ爲シタル建築物ノ建築ヲ廢罷シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ニハ建築申請書ノ副本ニ押捺シタル建築許可證又ハ建築認可證ノ證印ヲ添附スヘシ

第六十三條　施行規則第百四十八條ノ規定ニ依ル證票ハ別記第七號樣式ニ依ル

第六十四條　他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ受クルヲ要スル建築物ニシテ法、施行令、施行規則又ハ本令ノ規定ニ依ル建築ノ許可又ハ認可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ法令ニ依ル願書ニ本令ノ規定ニ依ル事項ヲ併セ具スヘシ但シ重複スルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ願出ニ對シ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ併セテ法、施行令施行規則又ハ本令ノ規定ニ依ル建築ノ許可若ハ認可ヲ爲シタルモノトス

第六十五條　前條ノ建築物ニ對シ警視總監他ノ法令ニ依ル使用ノ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ併セテ施行規則又ハ本令ノ規定ニ依ル使用ノ認可ヲ爲シタルモノトス

第六十六條　第二十一條乃至第二十七條、第三十三條、第三十四條第一項第四號乃至第十號ノ規定ハ施行規則第百四十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用セス

附　則

第六十七條　本令ハ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十八條　大正九年十二月警視廳令第三十三號市街地建築物法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第六十九條　昭和三年四月警視廳令第十四號市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域ニ於ケル市街地建築物法令施行ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

（樣式省略）

市街地建築物法適用區域ニ於ケル假設建築物等ノ構造、設備ニ關スル件

警視廳令第四十二號（大正十二年九月二十七日）

市街地建築物法適用區域ニ於ケル假設建築物等ノ構造、設備ニ關スル件左ノ通定ム

大正十二年九月勅令第四百十四號第一項ノ假設建築物及同第二項ノ建築物ノ屋上ハ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ

前項ノ建築物附屬ノ便所ノ糞尿壺及其ノ上口周圍ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造シ井戸トノ距離ハ三間以上ヲ有セシムヘシ

前各項ノ外保安上危險又ハ衛生上有害ト認ムルトキハ必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市街地建築物法適用區域ニ於ケル假設建築物ノ敷地ニ關スル件

警視廳令第五十三號（大正十二年十月二十五日）

市街地建築物法適用地域ニ於ケル假設建築物ノ敷地ニ關スル件左ノ通定ム

大正十二年九月勅令第四百十四號第一項ノ假設建築物ノ敷地ニシテ貸座敷營業指定地域內ニ在ルモノノ建築物ノ外壁ノ中心（柱建ノモノハ柱ノ中心）ハ左ノ線ヲ超エ之ヲ配置スルコトヲ得ス

一　幅員二間以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テハ道路境界線ヨリ一尺五寸後退シタル線

二　幅員二間未滿ノ道路ニ接スル場合ニ於テハ道路ノ中心線ヨリ七尺五寸後退シタル線

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

東京府及神奈川縣ノ市街地建築物法適用區域內ニ於ケル假設建築物等ノ規定ニ依リ建築シタル建築物ノ除却期限認定ニ關スル件

警視廳令第三十五號（昭和二年八月二日）

改正　昭和七年七月廳令第七號

大正十二年勅令第四百十四號ノ規定ニ依リ建築シタル建築物ニ付昭和二年勅令第三十三號ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十二年勅令第四百十四號ニ依リ建築シタル建築物ニ付其ノ所有者又ハ管理者昭和二年勅令第三十三號第二條ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケムトスルトキハ別記樣式ニ依ル願書正副二通ヲ建築物所在地所轄警察署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ

必要ト認ムルトキハ配置圖及各階平面圖ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第二條　前條ノ願出アリタル建築物ニシテ昭和二年內務省令第三十一號第二條ニ定ムル構造設備ヲ有スト認ムルモノニ對シテハ認定證ヲ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

認定願樣式

假設建築物構造設備認定願

一　敷地ノ地名番號

二　用　途（住宅、商店、工場等）

三　構造種別（木造、鐵骨造等）

四　階　數

五　各階床面積及其ノ合計

右昭和二年勅令第三十三號第二條ニ依ル御認定相受度此段及願出候也

昭和　年　月　日

住　所

氏　名

警視總監　殿

市街地建築物法令中取扱ニ關スル件

警視廳告示第二百六號（昭和七年六月三十日）

改正　昭和一〇年二月告示第二九號一四年二月第三四號

市街地建築物法令中取扱ニ關シ左ノ通定ム

（一）　市街地建築物法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第一條乃至第三條ノ二ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一　施行令第一條乃至第三條ノ二ノ「原動機」ニハ工場ノ作業ニ直接關係ナキ給水、排水、換氣、昇降機ノ運轉等ニ專用スル原動機ハ之ヲ包含セサルモノトス

二　住居地域ニ建築セムトスル工場ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造設備、事業ノ種類等ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ施行令第一條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

イ　震動又ハ騷音ノ發生輕微ナルコト

ロ　瓦斯、粉塵又ハ廢液ノ發生ニ因ル公害ノ虞ナキコト

ハ　煤煙ノ排出僅少ナルコト

ニ　火災、爆發等ノ危害發生ノ虞ナキコト

ホ　其ノ他公害發生ノ虞ナキコト

三　商業地域ニ建築セムトスル工場ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造設備、事業ノ種類等ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ施行令第二條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

イ　著シク震動又ハ騷音ヲ發生セサルコト

ロ　瓦斯、粉塵又ハ廢液ノ發生ニ因ル公害僅少ナルコト

ハ　多量ノ煤煙ヲ排出セサルコト

ニ　火災、爆發等ノ虞ナキコト

ホ　其ノ他公害發生ノ虞ナキコト

四　既存ノ工場ニシテ除害施設ニ必要ナル原動機馬力數ノ增加ヲ爲サムトスルニ當リ常時使用原動機ノ合計馬力數カ當該地域ノ制限ヲ超過スルトキハ施行令第一條但書、同第二條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

五　大正十二年勅令第四百十四號ニ依リ建築シタル建築物ニシテ地域ノ制限ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得サル種類ニ屬スルモノノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲ス場合ハ施行令第三條ノ二ノ規定ノ適用アルモノトス

（二）　市街地建築物法第八條但書ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一　建築物ノ敷地ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ保安上支障ナシト認ムルモノニ在リテハ市街地建築物法第八條但書ノ規定ニ依リ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得ルモノトス

イ　昭和十年一月三十一日以前ニ於テ指定シタル建築線

ニ接スルモノ

ロ 罹災地區、住宅經營地區等一團ノ土地ニ亘リ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ近ク道路竣成ノ見込アルモノ

ハ 市街地建築物法施行細則第九條ノ規定ニ依ル指定建築線ニ接スルモノ

ニ 幅員一・八メートル以上ノ通路ヲ含ミテ指定シタル建築線ニ接スルモノ

ホ 河川、水路、溝渠等ノ敷地ヲ隔テテ道路敷地ニ接スルモノ

ヘ 其ノ他土地ノ狀況ニ依リ特ニ已ムヲ得スト認ムルモノ

(三) 施行令第十四條ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一 施行令第十四條ノ建築面積算定ニ當リテハ同一敷地内ニ存在スル大正十二年勅令第四百十四號ニ依リ建築シタル建築物ノ建築面積ハ之ヲ合算スルモノトス

(四) 長屋ノ建築敷地ニ關スル取扱左ノ如シ

一 長屋ハ其ノ各戸ノ主要出入口ヲ建築線ニ面セシムルコト但シ左ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造設備其ノ他ニ依リ特ニ保安上、衞生上支障ナシト認ムルモノ此ノ限ニ在ラス

イ 桁行二十メートル以下ナルコト

ロ 主要出入口ハ通路ニ面スルコト

ハ 前號ノ通路ハ桁行十メートル以上ノモノニ在リテハ一・八メートル以上、桁行十メートル未滿ノモノニ在リテハ一・四メートル以上ノ幅員ヲ有スルコト

(五) 施行規則第九條ノ二ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一 崖下端ヨリノ水平距離カ崖上ニ在リテハ崖高ノ二倍ヲ崖下ニ在リテハ崖高ノ二倍又ハ二十メートルヲ超ユル位置ニ於テ建築物ヲ建築シ又ハ建築敷地ヲ造成セントスルモノハ施行規則第九條ノ二第一項ノ認可ヲ要セサルモノトス

二 崖高トハ崖下端ヲ過クル二分ノ一勾配ノ斜線ヲ超ユル部分ニ付崖下端ヨリ其ノ最高部迄ノ高ヲ謂フ

三 施行規則第九條ノ二第二項ノ規定ニ依リ斜面ノ勾配又ハ擁壁ノ構造ニ付措置ヲ爲サシムル場合ハ左記ニ依ルモノトス

イ 斜面ノ勾配ハ三十度以内トナスコト但シ堅牢ナル地盤ヲ切取リテ斜面トナスモノ又ハ特殊ノ施工方法等ニ依リ保安上支障ナシト認ムルモノハ斟酌スルコトアルヘシ

ロ 擁壁ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルコト但シ保安上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

1 耐久的構造トナスコト

2 石積擁壁ニ在リテハ裏積コンクリート等ヲ用ヒテ一體式構造トナスコト

3 土ノ摩擦角ハ三十度以下トナスコト但シ土質堅牢ニシテ支障ナシト認ムルモノハ四十五度マテトナスコトヲ得

4 基礎底面ト地盤トノ間ノ摩擦係數ハ〇・三以下トナスコト但シ土質良好ニシテ支障ナシト認ムルモノハ〇・五マテトナスコトヲ得

5 擁壁ノ敷地面ニ適當ナル排水設備ヲナスコト

6 適當ナル水拔穴ヲ設クルコト

(六) 施行規則第十四條但書ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一 井戸ト汲取便所又ハ汚物溜トノ水平距離ハ井戸ノ常水面又ハ水袋ト糞尿壺又ハ汚物溜トノ距離三メートル以上ヲ有シ且左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ一・八メートル迄ト爲スコトヲ得

イ 市街地建築物法施行細則第二十二條ニ規定スル構造ヲ有スル閉鎖井戸ナルトキ

ロ 糞尿壺ハ其ノ低部及周壁ヲ厚十五センチメートル以上ノ石、煉瓦(石又ハ煉瓦ヲ使用スル場合ハ「セメントモルタル」積)又ハ「コンクリート」等ノ耐水材料ヲ以テ築造シ其ノ内部ヘ厚十五ミリメートル以上不滲透質材料ヲ塗布シ若ハ其ノ内部ニ不滲透質ノ下張ヲ設ケタル他ノ部分ト遮斷シ又ハ其ノ周壁ト同性質ノ材料ヲ以テ築造シタル蓋壁ヲ有シ便器トノ連絡ハ不滲透質材料ヲ以テ作リタル管樋ヲ用ヰタルモノ

ハ 汚物溜ハ其ノ低部及周壁ヲ厚十五センチメートル以上ノ石、煉瓦(石又ハ煉瓦ヲ使用シタル場合ハ「セメントモルタル」積)又ハ「コンクリート」等ノ耐水材料ヲ以テ築造シ其ノ内部ヘ厚十五ミリメートル以上不滲透質材料ヲ塗布シ且耐水材料ヲ以テ作リタル覆蓋ヲ設ケタルモノ

(七) 施行規則第四十二條ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一 避雷針、地線及地中鋲ノ部分ヨリ成ル避雷裝置ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノハ施行規則第四十二條ノ「適當ナル避雷設備」トシテ認ムルコトアルヘシ

イ 避雷針ハ直徑十二ミリメートル以上ノ銅稈ヲ以テ製作シ其ノ尖端ハ屋上ニ突出セシメ之ヲ通過スル垂直線ト避雷針ノ尖端ヨリ其ノ建築物ノ屋根ノ最遠點ヲ結フ想像線トノ間ノ角度六十度ヲ超過セサルコト

ロ 地線ハ長三十メートル未滿ノモノニ在リテハBS十二番銅線十三本撚長四十五メートル未滿ノモノニ在リテハBS十二番銅線十九本撚長四十五メートル以上ノモノニ在リテハBS十番銅線十九本撚ヲ使用シ其ノ電氣低抗ハ〇・〇二「オーム」以下ナルコト

ハ　避雷針、地線及地中鋲六電燈線其ノ他ノ架空金屬線又ハ內徑七十五ミリメートル以下ノ瓦斯管、水道管其ノ他ノ金屬管ヨリ一・八メートル以上離隔スルコト

ニ　地中鋲ハ厚一・五ミリメートル以上面積〇・八平方メートル以上ノ銅鋲ヲ用キ地下一・八メートル以上ノ位置ニ垂直ニ埋設シ周圍ニ木炭ヲ填充スルコト

ホ　地中鋲ノ接地電氣抵抗ハ測定値ニ避雷針ノ數ヲ乘シタルモノカ十「オーム」以下ナルコト

二　同一建築物ニシテ數箇ノ避雷針ヲ必要トスル場合ハ架空線ヲ以テ避雷針ノ一部ニ代フルコトヲ得

（八）　市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則（以下單ニ耐火構造規則ト稱ス）ニ關スル取扱左ノ如シ

一　待合、料理屋又ハ飮食店ハ耐火構造規則第一條第一項第三號及同第二條第一項第三號ノ「之ニ類スル建物」ニ包含セサルモノトス

二　居住用貸間ヲ目的トスル建物ハ耐火構造規則第一條第一項第三號及第二條第一項第三號ノ「之ニ類スル建物」ニ包含スルモノトス

附　則

昭和五年九月警視廳告示第二百六十六號ハ之ヲ廢止ス

震火災被害建築物ノ修繕工事施行ニ關スル件

警視廳令第八號（大正十三年一月二十四日）

震火災被害建築物ノ修繕工事施行ニ關スル件左ノ通定ム

市街地建築物法適用區域內ニ於テ大正十二年九月又ハ大正十三年一月ノ震災、火災ニ因リ毀損シタル建築物（木造ヲ除ク）ノ壁體、柱、床、小屋、基礎等構造上主要ナル部分ヲ修繕セムトスルトキハ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項認可申請ノ手續ニ付テハ市街地建築物法施行細則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

東京都市計畫美觀地區ニ於ケル建築物ノ高

警視廳告示第九十九號（昭和九年四月十二日）

東京都市計畫美觀地區內ニ於ケル建築物ノ高左ノ通定ム

東京都市計畫美觀地區內ニ於テ建築物ノ高ノ最高限度ヲ指定スル區域左ノ如シ其ノ區域ヲ表示シタル圖面ハ警視廳ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

一　高三十一メートルヲ限度トスル區域

二　高二十八メートルヲ限度トスル區域

三　高二十六メートルヲ限度トスル區域

四　高二十五メートルヲ限度トスル區域

五　高二十メートルヲ限度トスル區域

六　高十五メートルヲ限度トスル區域

裝飾塔、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ニ付テハ美觀上支障ナシト認ムルモノニ限リ前項各號ノ高ノ五分ノ一マテハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セサルコトヲ得但シ其ノ算入セサル部出ノ最大面積ノ合計ハ建築面積ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

昇降機塔ニ付テハ美觀上支障ナシト認ムルモノニ限リ前項ノ五分ノ一ヲ九メートル迄增加スルコトヲ得煙突、無線電信用電柱ノ類及社寺建築物ニシテ美觀上支障ナシト認メ許可シタルモノハ第一項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

防空建築規則

內務省令第五號（昭和十四年二月十七日）

防空建築規則左ノ通定ム

防空建築規則

第一條　市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依ル建築物ノ構造設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ハ內務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用ス

第三條　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ內務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ

二　床又ハ屋根ノ耐彈構造トハ鐵筋「コンクリート」造（鐵骨鐵筋「コンクリート」造ヲ含ム以下之ニ同シ）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　版ノ厚ハ四十センチメートル以上ニシテ各部分ニ於ケル鐵ト「コンクリート」トノ容積比ハ〇・〇四以上且複筋及繫筋ヲ配置シ主筋ノ間隔ハ十五センチメートル以下ト爲シ上下ノ鐵筋ハ千鳥ニ配シ適當ニ熔接シタルモノ

ロ　版ノ厚特ニ大ナルモノ等ニシテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）前號ト同等以上ノ耐彈效力アリト認ムルモノ

三　防護扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計三ミリメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ロ　木造ニシテ厚六センチメートル以上且防毒上有效ナ

ル構造ヲ有スルモノ

ハ　其ノ他地方長官前各號ニ準スト認ムルモノ

第四條　木造（鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同シ）建物ニシテ隣地境界線又ハ幅員四メートル未滿ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離三メートル未滿ノ位置ニ在ル部分ニ付テハ左ノ構造ト爲スヘシ

一　外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部ハ準耐火構造ト爲シ又ハ左ニ揭クルモノヲ以テ構成若ハ被覆スルコト

	水平距離二米未滿ノトキ	水平距離二米以上ノトキ
イ	鐵網「モルタル」ニシテ厚二糎以上ノモノ	鐵網「モルタル」
ロ	塗土、漆喰等ニシテ厚二糎以上ノモノ	塗土、漆喰等
ハ	耐火木材ニシテ厚一糎以上ノモノ（水平距離〇・五米未滿ノトキヲ除ク）	耐火木材
ニ	石綿盤又ハ金屬板ニシテ木部ト適當ニ隔離セルモノ水平距離〇・五米未滿ノトキヲ除ク	石綿盤又ハ金屬板
ホ	其ノ他地方長官前各號ニ準スト認ムルモノ同上	同上

二　窓又ハ出入口ニハ防火戸又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル戸ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號ニ規定スル構造ト爲スコト

イ　耐火木材、金屬板、石綿盤又ハ網入ガラスノ類ヲ以テ構成シタルモノ

ロ　其ノ他地方長官前號ニ準スト認ムルモノ

三　金屬板ヲ以テ被覆シタル屋根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ構成スルコト

地盤面ヨリノ高四メートルヲ超ユル木造建物ノ部分ニシテ隣地境界線又ハ幅員六メートル未滿ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離五メートル未滿ノ位置ニ在ルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

同一敷地內ニ於テ隣接スル木造建物ニ在リテハ互ニ相面スル外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地境界線ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス但シ建築面積ノ合計六百平方メートル以下ノ建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ地方長官前條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一　建物ノ屋階及地階ヲ除キタル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度十分ノ五以下ノ空地地域內ニ在ル建物

二　床面積四平方メートル以下ノ平家建ノ建築

三　公園、廣場、河、海ノ類ニ面スル建物ノ部分

四　擁壁防火壁又ハ防火上書效ナル牆塀ノ類ニ面スル建物

ノ部分

五　防火上有效ナル袖壁ノ類ヲ設ケタル場合ニ於ケル其ノ後方ノ建物ノ部分

六　適當ニ「ドレンチヤー」ヲ設備スル建物ノ部分

七　前條第一項第一號ニ規定スル構造ヲ有スルモノニ依リ絕緣セラルル建物ノ突出部

八　柱、桁其ノ他大材ヲ使用スル建物ノ部分

九　其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムル建物又ハ建物ノ部分

第六條　木造ノ長屋ニ在リテハ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土塗壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戸ヲ區劃スヘシ

木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積百五十平方メートルヲ超ユルモノハ百五十平方メートル以內毎ニ準防火壁ヲ設クヘシ

第七條　準防火壁ノ構造ハ式ノ規定ニ依ルヘシ但シ準防火壁ノ壁面ヨリ一・五メートル以上ニ亙リ建物ノ外周部又ハ野地ヲ第四條第一項ノ構造ト爲シタトキハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一　厚三センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニテ倒壞ノ虞ナキモノト爲スコト

二　兩端ハ之ニ近接スル木部ヨリ三十センチメートル（地盤面上二・五メートル以內ノ部分ハ十五センチメール）以上突出セシムルコト

三　上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ四十五センチメートル以上屋上ニ突出セシムルコト

第八條　木造建物ノ開口ニシテ隣地境界線ニ面シ且其ノ水平距離一メートル未滿ノモノニ付テハ地方長官防火上ノ必要ニ依リ其ノ大サヲ制限スルコトヲ得

第九條　鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數六以上ノモノ又ハ階數五且其ノ床面積三千平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲スヘシ但シ最上階ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲シ難キ場合ニ於テハ其ノ部分ニ付テハ床ヲ耐彈構造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ設クヘシ

第十條　鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數三以上且其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室又ハ準防護室ヲ設クヘシ

第十一條　外壁又ハ屋根木造若ハ鐵造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數二以上且其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ依リ防護ノ施設ヲ爲スヘシ

一　居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ面積ヲ有シ且周壁及屋根又ハ上階ノ床鐵筋「コンクリート」造若ハ之ト同等以

上ノ耐彈效力ヲ有スル室ヲ設クルコト

二　前號ニ相當スル防護ノ施設ヲ爲シ得ヘキ空地ヲ設クルコト

前項ノ室又ハ空地ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ建物ノ敷地外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第十二條　壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物ニ付テハ前三條ノ規定ハ其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ適用ス

第十三條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付準防護室其ノ他降護ノ施設又ハ降護ノ施設ヲ爲シ得ベキ空地ニ關シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一　公共團體ノ公用ニ供スルモノ

二　學校

三　病院

四　停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發着場

五　卸賣市場

六　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場

七　劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場

八　前各號ニ揭グルモノノ外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條　防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官ノ許可ヲ受ケ建物ニ付テハ前三條ノ規定ハ其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ適用ス

第十三條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付準防護室其ノ他降護ノ施設又ハ降護ノ施設ヲ爲シ得ベキ空地ニ關シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一　公共團體ノ公用ニ供スルモノ

二　學校

三　病院

四　停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發着場

五　卸賣市場

六　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場

七　劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場

八　前各號ニ揭グルモノノ外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條　防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得

二　收容室ノ床面積ハ百平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲ストコ但シ防護室ノ上部ニ二以上ノ階アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件ヲ輕減スルコトヲ得

四　周壁ハ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト但シ建物ノ外壁ニ接シ且第一階以下ノ階ニ防護室ヲ設クル場合ニハ其ノ部分ノ周壁ハ特ニ堅固ナル構造ト爲スヘシ

五　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設クルコト

六　外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且第二階以上ノ階ニ在ルモノニ付テハ防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲シ其ノ他ノ階ニ在ルモノニ付テハ耐震設備ヲ爲シ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

七　外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

八　出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

九　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十五條　準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　收容室ノ床面積ハ五十平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ之ト同等以上ノ耐彈效力アルモノト爲スコト

三　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコト

四　外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

五　外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

六　出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

七　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十六條　地方長官ハ建物ノ用除其ノ他ノ狀況又ハ特別ナル事由ニ因リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ第九條乃至第十一條ノ耐彈構造、防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ空地ニ關スル制限ヲ輕減スルコトヲ得

第十七條　地方長官ハ第九條乃至第十一條ノ防護室、準防護室其ノ他防願ノ施設又ハ空地ノ配置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條　地方長官ハ武裝ノ爲建築物ノ形態、色彩又ハ武裝準備裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條　石油「タンク」ニシテ其ノ容積三千キロリツトルヲ超ユルモノハ之ヲ地下ニ設クヘシ但シ地方長官土地ノ狀況又ハ適當ナル防護施設ノ設置ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラス存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ設可スルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

アパート建築規則

警視廳令第二十一號（昭和八年六月二十九日）

アパート建築規則左ノ通定ム

アパート建築規則

第一條　本令ハアパートニシテ貸室數十以上ヲ有スルモノニ之ヲ適用ス

第二條　アパートハ興行場、舞踏場、集會場、市場、工場、自動車車庫、料理店、飮食店等ノ建物內ニ之ヲ設クルコト

ヲ得ス但シ建物ノ主要構造部耐火構造ニシテ他ノ法令ニ別段ノ定ナキモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三條　第一條ノ建物ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ木構造ノモノニ在リテハ第一號乃至第四號及第八號ノ規定ハ之ヲ適用セス

一　床面積五百平方メートル以内毎ニ適當ナル防火區劃ヲ爲スコト但シ特ニ支障ナシト認ムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ノ區劃内ニハ第一階ニ在リテハ直接道路又ハ相當幅員ヲ有スル通路ニ面スル出入口二箇所以上ヲ、二階以上ニ在リテハ屋内又ハ屋外避難上有效ナル階段二箇所以上ヲ設クルコト前號ノ區劃ヲ設ケサルモノニ付亦同シ但シ一區劃内ノ床面積特ニ小ナルモノ又ハ避難上有效ト認ムル水平通路ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

三　常用階段、昇降機等ノ開口ニハ防火戸又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル設備ヲ爲スコト

四　屋外避難階段ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルコト

イ　階段ハ耐火構造ト爲シ出入口ノ外階段ニ面シ開口セサルコト

ロ　出入口ノ扉ハ防火戸ト爲スコト

ハ　階段ハ其ノ有效幅員ヲ六十センチメートル以上ト爲シ屋上ヨリ道路又ハ相當幅員ヲ有スル通路ニ直通セシムルコト但シ階段ノ下部ハ之ヲ拮上裝置ト爲スコトヲ得

五　地階ニハ貸室ヲ設ケサルコト

六　貸室ハ其ノ床面積ヲ七平方メートル以上ト爲スコト但シ世帶式アパート又ハ特別ノ事由アルモノニ付テハ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

七　主要廊下ノ有效幅員ハ片側廊下ニ在リテハ一・二メートル以上、中廊下ニ在リテハ一・五メートル以上ト爲スコト但シ其ノ階ノ床面積百五十平方メートル以下ノモノニ在リテハ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

八　床面積ノ合計三千平方メートル以上ノ建物ニ在リテハ必要ト認ムルトキハ床面積五百平方メートル以内毎ニ一箇所以上ノ消火栓ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四條　アパートニシテ木構造ノモノノ構造設備ハ前條第五號乃至第七號ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

一　階數二以下トシ二階建ニ在リテハ屋階ヲ設ケサルコト

木造建物建築統制規則

商工省令第六十七號（昭和十四年十一月八日）
昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ木造建物建築統制規則左ノ通定ム

第一條　木造建物（以下建物ト稱ス）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ新築セントスル者ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ）ノ許可ヲ受クヘシ

一　農業（養蠶業ヲ含ム）、林業、畜産業又ハ漁業ヲ營ム者ノ業務及居住ノ用ニ併セ供スル建築ニシテ總床面積百六十平方米（四八・四坪）ヲ超ユルモノ

二　前號ニ掲クル用ニ供セサル建物ニシテ總床面積百平方米（三〇・二五坪）ヲ超ユルモノ

前項ノ規定ハ商工大臣ノ指定スル建物ニ付テハ之ヲ適用セス但シ建築ノ總床面積百平方米ヲ超ユル場合ニ在リテハ其ノ建築主ハ工事著手前第三條第一項各號ニ掲クル事項ヲ記載シタル届書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第二條　前條第一項各號ノ一ニ該當スル建物ヲ增築（改築又ハ構造ノ變更ニ依リ床面積ヲ增加スル場合ヲ含ム以下同シ）セントスル者又ハ增築ニ依リ前條第一項各號ノ一ニ該當スル建物ト爲サントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前條第一項各號ノ一ニ該當スル建物ニ付同條第一項各號ノ一ニ規定スル總床面積ヲ超ユル改築ヲ爲サントスル者亦同シ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ商工大臣ノ指定スル建物ニ付テハ之ヲ適用セス但シ總床面積百平方米ヲ超ユル建物ヲ增築セントスル場合、增築ニ依リ總床面積百平方米ヲ超ユル建物ト爲サントスル場合又ハ總床面積百平方米ヲ超ユル改築ヲ爲サントスル場合ニ在リテハ其ノ建築主ハ工事著手前第四條第一項各號ニ掲クル事項ヲ記載シタル届書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第三條　第一條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一　建物ノ位置
二　建物ノ用途
三　新築セントスル事由
四　建物ノ棟數、各棟ノ用途及階數竝ニ各棟別各階ノ床面積及總床面積

前項ノ許可申請書ノ提出アリタル場合ニ於テ地方長官必要アリト認ムルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ提出セシムルコトヲ得

一　設計及工事計畫ノ概要（配置圖、平面圖及物資ノ使用場所ヲ明示シタル圖面ヲ添附スヘシ）

二　工事ニ要スル物質ノ種類、寸法及數量
三　電氣、瓦斯又ハ水ノ供給ヲ受クル設備ヲ要スル場合ニ在リテハ之ヲ供給スル者ノ氏名名稱及住所
四　工事費
五　工事着手及竣工ノ豫定時期
六　請負人アルトキハ其ノ氏名名稱及住所
七　其ノ他必要ナル事項

第四條　第二條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一　建物ノ位置
二　建物ノ用途（增築又ハ改築後建物ノ用途ヲ變更セントスル場合ニ在リテハ其ノ用途）
三　增築又ハ改築セントスル事由
四　現存建物ノ棟數及各棟別總床面積
五　增築又ハ改築セントスル部分ノ各棟別各階ノ床面積及總床面積竝ニ各棟別用途

前項ノ許可申請書ノ提出アリタル場合ニ於テ地方長官必要アリト認ムルトキハ前條第二項各號ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條　第一條第一項ノ許可ヲ受ケ建物ヲ新築セントスル者第三條第一項第一號、第二號又ハ第四號ニ揭クル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ第三條第二項ノ書面ヲ提出シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　第二條第一項ノ許可ヲ受ケ建物ヲ增築又ハ改築セントスル者第四條第一項第二號又ハ第五號ニ揭クル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ第四條第二項ノ書面ヲ提出シタル場合ニ於テハ之ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第七條　第一條第二項又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ届出テタル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第八條　地方長官第一條第一項、第二條第一項、第五條又ハ第六條ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ建物ノ新築、增築又ハ改築ニ使用シ得ル物資ノ種類、寸法、數量又ハ使途ヲ指定スルコトヲ得

第九條　第一條第一項若ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者又ハ第一條第二項若ハ第二條第二項ノ届書ヲ提出シタル者ハ工事竣工シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ工事ヲ廢罷シタルトキ亦同シ

第十條　本則ニ依リ許可ヲ受ケ建物ヲ新築、增築又ハ改築シタル者（當該建物ノ承繼人ヲ含ム）ハ其ノ工事竣工後一年以内當該建物ヲ許可申請書ニ記載シタル用途以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此

ノ限ニ在ラス

第十一條　本則ニ於テハ附屬建物ハ之ヲ主タル建物ノ一部ト見做ス

本則ニ於テ總床面積トハ長屋ニ在リテハ各戸ニ付算定シタルモノヲ謂フ

附　則

本則ハ昭和十四年十一月十三日ヨリ之ヲ施行ス

本則ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘキ新築、增築又ハ改築ニシテ本則公布前ニ工事ニ着手シ本則施行ノ際現ニ工事中ノモノニ付テハ本則ノ規定ヲ適用セス但シ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ當該工事中ノ建物ニ付第三條第一項又ハ第四條第一項ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ

商工省告示第三百十七號（昭和十四年十一月八日）

木造建物建築統制規則第一條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ要セサル建物ノ種類左ノ通指定シ昭和十四年十一月十三日ヨリ之ヲ施行ス

一　一時ノ用ニ供スル建物
二　左ニ揭クル事業ノ用ニ供スル作業場、事務所、勞務者用住宅（共同宿舍ヲ含ム）及其ノ附屬建物
イ　採鑛業竝ニ金屬製錬業及製鐵業
ロ　輕合金ノ製造業
ハ　工作機械器具又ハ同部分品若ハ同附屬品ノ製造業
ニ　兵器又ハ同部分品若ハ同附屬品ノ製造業
ホ　石油精製業及人造石油又ハ代用液體燃料ノ製造業
ヘ　石油輸入業
三　法令ノ規定ニ依リ設立セラレタル組合其ノ他ノ團體ノ共同施設ノ用ニ供スル建物
四　建築ニ付國又ハ道府縣ノ補助金又ハ奬勵金ノ交付ヲ受クル建物

鐵鋼工作物築造許可規則

商工省令第二十四號（昭和十二年十月十一日）

昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依リ鐵鋼工作物築造許可規則左ノ通定ム

鐵鋼工作物築造許可規則

第一條　鐵筋「コンクリート」造、鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造、鐵骨造又ハ鐵造ノ工作物（建築物ヲ含ム以下同シ）ヲ築造セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ商工大臣ノ指定スル工作物又ハ構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量五十噸以下ノ工作物ノ築造ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一　工作物ノ位置

二　工作物ノ用途
三　建造ヲ必要トスル事由
四　構造ノ種別
五　設計及工事計畫ノ概要
六　建築物ナルトキハ其ノ高サ、階數及各階ノ面積
七　構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ種類及數量
八　工事着手及竣工ノ豫定時期
九　請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

第三條　前條第一號、第二號、第四號、第六號及第七號ニ揭クル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　地方長官ハ第一條ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事竣工シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第六條　第一條但書ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定スル工作物ヲ築造シタル者(當該工作物ノ承繼人ヲ含ム)其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ同條ノ許可ヲ要スル工作物ノ用途ニ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ同條ノ許可ヲ受ケ工作物ヲ築造シタル者(當該工作物ノ承繼人ヲ含ム)其ノ用途ヲ其ノ竣工後一年以內ニ同條ノ許可ヲ要スル他ノ工作物ノ用途ニ變更セントスルトキ亦同シ

第七條　構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量五十瓲以下ノ工作物ヲ築造セントスル者ハ工事ノ着手前第二條各號ニ揭クル事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

附　則

本則ハ昭和十二年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ工事中ノ工作物ニシテ既ニ基礎工事ヲ終了シタルモノニハ本則ヲ適用セス但シ本則施行ノ日ヨリ二週間以內ニ當該工作物ニ付第二條各號ニ揭クル事項ヲ地方長官ニ屆出ツルコトヲ要ス

本則施行ノ際現ニ工事中ノ第一條ノ許可ヲ受クヘキ工作物ニシテ前項ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本則施行後二週間以內ニ第二條ノ許可申請書ニ本則施行ノ際ニ於ケル工事進捗ノ程度ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

鐵鋼工作物築造許可規則施行細則

警視廳令第二十一號(昭和十二年十一月二日)

鐵鋼工作物築造許可規則施行細則左ノ通定ム

鐵鋼工作物築造許可規則施行細則

第一條　鐵鋼工作物築造許可規則(以下單ニ規則ト稱ス)ニ依ル申請書又ハ屆書ハ工作物築造地所轄警察署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ

第二條　本令ニ依リ申請又ハ屆出ヲ爲ス者未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ其ノ保佐人、妻ナルトキハ其ノ夫ノ連署ヲ要ス

本令ニ依リ申請又ハ屆出ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記載スヘシ

第三條　規則第二條、第三條及第六條ノ申請書ハ別記第一號樣式ニ依リ左ノ各號ノ圖面ヲ添附シ正副二通ヲ提出スヘシ

一　配置圖
二　平面圖
三　斷面圖
四　立面圖
五　主要構造部ノ詳細圖(縮尺二十分ノ一)

前項ノ外必要ト認ムル圖書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　當該工作物ノ築造ニ關シ臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者(金融機關又ハ證券引受業者カ許可ヲ受ケタル場合及臨時資金調整法第三條ニ依リ貸付等ヲ爲シタル場合ヲ含ム)ハ之ヲ證スルニ足ル書類ヲ前條ノ申請書ニ添附スヘシ

第五條　規則第七條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サントスル者ハ第三條ノ規定ニ準シ屆書正副二通ヲ提出スヘシ屆出事項中規則第二條第一號、第四號、第六號及第七號ニ該當スル事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第六條　前項ノ屆出ハ起工十日以前ニ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ起工期日ノ延期ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　規則第一條但書ニ依リ商工大臣ノ指定スル工作物ヲ築造セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ具工作物平面圖(各室又ハ各部分ノ用途ヲ明示セルモノ)ヲ添附シタル屆書正副二通ヲ警視總監ニ提出スヘシ

一　築造地地名番號
二　工作物ノ用途、構造種別及使用鐵鋼ノ數量
三　工事着手及竣工豫定期日

第七條　前二條ノ屆出ニシテ支障ナシト認ムルトキハ屆書ノ副本ニ別記第二號樣式ニ依ル調査濟證印ヲ押捺シテ屆出人ニ交付ス

第八條　構造用トシテ使用スル鐵鋼ノ數量三十瓲未滿ノ工作物ニ在リテハ第五條又ハ第六條ノ屆出ヲ省略スルコトヲ得

第九條　規則附則第二項ノ規定ニ依ル屆書及同第三項ノ規定ニ依ル申請書ハ第三條ノ規定ニ準シ且別記第三號樣式ニ依ル工程書ヲ添附シ正副二通ヲ提出スヘシ

第十條　第三條、第五條、第六條及第九條ニ依リ申請又ハ屆出ヲ爲シタル工作物ノ工事竣功シタルトキハ直ニ屆出ツヘシ

第十一條　必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工作物又ハ工作物築造工事ニ付臨檢セシムルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ工作物築造者、工事請負人、工事管理者又ハ工作物所有者若ハ占有者檢査ニ必要ナル準備ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（様式略）

鋼使用制限規則

昭和十二年十一月六日（商工省令第二十八號）
昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依リ鋼使用制限規則左ノ通定ム

鋼使用制限規則

第一條　建築物ノ屋根、庇、樋、化粧張、煙突又ハ排氣筒トシテ鋼ヲ使用セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ一建築物ニ付百瓲ヲ超エサル鋼ヲ庇及之ニ附屬スル樋ニ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一　鋼ノ使用數量（前條ニ揭クル用途別ニ記載スヘシ）
二　鋼ヲ使用セントスル事由
三　建築物ノ位置
四　建築物ノ用途
五　建築物ヲ建築スル場合ニ在リテハ工事着手及竣工ノ豫定時期
六　請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

第三條　一建築物ニ付百瓲ヲ超エサル鋼ヲ庇及之ニ附屬スル樋ニ使用セントスル者ハ當該工事着手前前條各號ニ揭クル事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

附　則

本則ハ昭和十二年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ許可ヲ受クヘキ者ニシテ本則施行ノ際現ニ當該工事ヲ施行中ノモノニハ本則ヲ適用セス但シ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ當該工事ニ付第二條各號ニ揭クル事項ヲ地方長官ニ屆出ツルコトヲ要ス

鋼使用制限規則施行細則

昭和十二年十一月十日）
昭和十二年十一月商工省令第二十八號鋼使用制限規則ニ依ル手續等ニ關スル件左ノ通定ム

警視廳令第二十二號（昭和十二年十一月十日）

鋼使用制限規則ニ依ル手續等ニ關スル件

第一條　鋼使用制限規則（以下單ニ規則ト稱ス）ニ依ル申請、屆書ハ建築地所轄警察署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ

第二條　前條ノ申請、屆書ハ別記第一號樣式ニ依リ正副二通ヲ提出スヘシ

第三條　工事竣工シタルトキハ直ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第四條　規則第一條但書ニ規定スル鋼ノ使用量七十瓲未滿ノモノニ在リテハ同第三條又ハ同附則第二項ノ屆出ヲ省略スルコトヲ得

第五條　規則第二條ニ依ル許可申請又ハ同第三條若ハ同附則第二項ニ依ル屆ニシテ支障ナシト認ムルトキハ許可申請ニ在リテハ別記第二號樣式ノ使用許可證印ヲ、屆ニ在リテハ同第三號樣式ノ調査濟證印ヲ副本ニ押捺シ建築主ニ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式略）

鐵鋼工作物築造許可規則第一條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ要セサル工作物ノ種類ニ關スル件

昭和十二年十月十一日（商工省告示第百十號）

鐵鋼工作物築造許可規則第一條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ要セサル工作物ノ種類ニ關スル件

鐵鋼工作物築造許可規則（以下單ニ規則ト稱ス）第一條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ要セサル工作物ノ種類左ノ通指定ス

左ニ揭クル事業ノ用ニ供スル製鍊場、選鑛場、工場、鐵塔、桟道、岸壁、桟橋、起重機、タンク、倉庫、給水設備、排水設備其ノ他之ニ準スル工作物

一　採鑛業竝ニ金屬製鍊業及製鐵業（普通鋼材製造業ニシテ製鋼又ハ壓延ノ設備ノミ以テ營ムモノヲ除ク）
二　明礬石、蠟土頁岩、粘土（ボーキサイトヲ含ム）、マグネサイト、ドロマイ、耐火粘土、珪石、螢石又ハ酸性白土ノ採取業
三　輕合金又ハ可鍛鐵鑄物ノ製造業
四　蹄釘、鎖又ハドラム罐ノ製造業
五　自動車用瓦斯發生裝置、ガソリン機關、重油機關、電信電話機械器具（家庭用ラヂオ用具ヲ除ク）、採鑛機械器具、選鑛機械器具、製鍊機械器具、化學工業用機械器具、氣體壓縮機、球軸受又ハ防毒具ノ製造業及工作機械器具（製材及木工機械ヲ除ク）、機關車、貨車、自動車、鋼船若ハ航空機又ハ同部分品若ハ同附屬品ノ製造業
六　兵器又ハ同部分品若ハ同附屬品ノ製造業
七　硫酸、硝酸、壓縮アンモニア瓦斯、石炭酸、メタノール、グリセリン、硝酸アンモン、人造クリオリット、アセトン、染料中間物其ノ他ノコールタール分溜物誘

導體、火薬、爆薬、導火索、人造石油（頁岩油ヲ含ム）、コークス（セミコークスヲ含ム）、コールタール分溜物、代用液體燃料、硫酸アンモニア、研磨材料、電氣用カーボン又ハ活性炭ノ製造業及石油精製業

八　光學ガラス、强化ガラス、安全ガラス、絶燈用着色ガラス又ハ耐火煉瓦ノ製造業

九　電氣供給事業（本告示ニ掲グル事業ニ必要ナル電力ヲ供給スルモノニ限ル）

十　石油輸入業

十一　海運業（沿岸航路ノモノヲ除ク）及航空業

機械設備制限規則

商工省令第五十七號（昭和十四年九月二十五日）

昭和十二年法律第九十二號第二條及第三條ノ規定ニ依リ機械設備制限規則左ノ通定ム

第一條　本則ニ於テ機械設備トハ金屬工作機械ニシテ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　切削研磨用ノモノ

二　鍛造用ノモノ

第二條　機械設備ノ新設又ハ增設（讓受又ハ借受ニ依ル場合ヲ含ム以下同シ）ヲ爲サントスル者ハ其ノ設備カ別表ニ掲

クル物品又ハ其ノ部分品ノ製造（加工ヲ含ム以下同シ）ニ使用セラルルモノナル場合ニ在リテハ商工大臣、其ノ他ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社又ハ臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル會社カ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

二　自動車製造事業法、製鐵事業法、工作機械製造事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ニ依リ許可ヲ受ケ營ム事業ノミニ使用スル機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

三　瓦斯事業法、電氣事業法、石油業法、人造石油製造事業法、產金法若ハ輕金屬製造事業法ニ依リ許可若ハ免許ヲ受ケ營ム事業又ハ鑛業法若ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ用フル設備ノ修繕ノミニ使用スル爲機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

四　行政官廳ノ命令ニ依リ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

五　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケ第一回拂込株金ニ依リ機械設備ノ新設ヲ爲サントスルトキ

六　臨時資金調整法第四條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ資本增加、第二回以後ノ株金ノ拂込又ハ社債ノ募集ニ付認可又ハ許可ヲ受ケ調達シタル資金ニ依リ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

七　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

八　製鐵設備制限規則第一條ノ許可ヲ受ケタル者カ製鐵設備ト共ニ機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスルトキ

第三條　前條ノ許可ヲ受ケンドスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ前條ノ規定ニ依ル區別ニ從ヒ商工大臣又ハ地方長官ニ提出スヘシ

一　機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスル工場ノ名稱及位置

二　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ノ種類別臺數及價額竝ニ其ノ取得豫定先

三　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スヘキ物品ノ種類別數量及價額

四　新設又ハ增設ヲ必要トスル事由

五　工事ノ著手及完成ノ豫定時期又ハ讓受ケントスル機械設備ノ使用開始ノ豫定時期（借受ノ場合ニ在リテハ借受ノ豫定期間及借受ケントスル機械設備ノ使用開始ノ豫定時期）

前項ノ許可申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スヘキ物品ノ主タル豫定納入先（納入先別ニ種類別數量及價額ヲ記載スヘシ）ヲ記載シタル書類

二　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スヘキ物品ノ主要原材料ノ種類別數量及價額竝ニ其ノ取得方法ヲ記載シタル書類

三　新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スヘキ物品ヲ現在製造スル者ニ在リテハ其ノ事業ノ概要（機械設備ノ種類別臺數、最近一年間ニ製造シタル當該物品ノ種類別數量及價額竝ニ工場ノ坪數及職工數）ヲ記載シタル書類

新設又ハ增設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スヘキ物品カ兵器若ハ其ノ部分品又ハ其ノ他軍用ニ供スル物品ニシテ軍事上ノ機密保護ノ爲特ニ必要アルモノニ在リテハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ當該設備ノ新設又ハ增設ヲ必要トスル旨ノ軍ノ證明書ヲ添附スヘシ

第四條　機械設備ノ新設又ハ增設ヲ爲サントスル者第二條第五號乃至第七號ニ掲クル認可又ハ許可ヲ受ケタル場合ニ在リテハ遲滯ナク左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書類ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一　機械設備ノ新設又ハ増設ヲ爲サントスル工場ノ名稱及位置

二　新設又ハ増設ヲ爲サントスル機械設備ノ種類別臺數

三　新設又ハ増設ヲ爲サントスル機械設備ニ依リ製造スヘキ物品

前項ノ書類ニハ第二條第五號乃至第七號ニ揭クル認可又ハ許可ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　第二條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ工事ヲ完成シ又ハ讓受ケ若ハ借受ケタル機械設備ノ使用ヲ開始シタルトキ遲滯ナク之ヲ第二條ノ規定ニ依ル區別ニ從ヒ商工大臣又ハ地方長官ニ屆出ツヘシ

第六條　第二條ノ許可ヲ受ケ機械設備ノ新設又ハ増設ヲ爲シタル者當該設備ニ依リ製造スヘキ物品ノ種類ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ現ニ製造スル物品又ハ變更後製造スヘキ物品カ別表ニ揭クル物品又ハ其ノ部分品ナル場合ニ在リテハ商工大臣、其ノ他ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　切削研磨用ノ金屬工作機械ノ製造以外ノ用途ニ使用スル機械設備ヲ切削研磨用ノ金屬工作機械又ハ其ノ部分品ノ製造ニ轉用セントスル者ハ商工大臣ノ許ヲ受クヘシ但シ前條ノ許可ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　第三條ノ規定ハ前條ノ許可ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス但シ同條第一項第五號ニ揭クル事項ハ之ヲ轉用ノ豫定時期及豫定期間トス

第九條　本則ニ依リ商工大臣ニ提出スヘキ書類ハ當該機械設備ノ新設、増設又ハ轉用ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官（鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ヲ營ム者カ其ノ事業設備トシテ機械設備ノ新設若ハ増設ヲ爲シ又ハ其ノ事業設備タル機械設備ヲ轉用セントスル場合ニ在リテハ鑛山監督局長）ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ昭和十四年九月三十日ヨリ之ヲ施行ス

別　表

蒸汽罐
蒸汽タービン
内燃機關
水車
電氣機械（家庭用ノモノヲ除ク）
無線電信電話機械（家庭用モノヲ除ク）
採鑛、選鑛又ハ精錬機械
金屬工作機械
工具
起重機
コンベヤ

捲上機
索道
荷物用エレベータ
氣體壓縮機
送風機
ポンプ
水壓機
計器又ハ測定器具
試驗、檢定又ハ理化學用機械器具
醫療用機械器具
光學機械器具
鐵道車輛
自動車（自動車用ガス發生裝置ヲ含ム）
牽引車
蓄電池車
鋼船
航空機
齒車
球軸受又ハコロ軸受
兵器
石油精製用機械
製鐵用機械

非鐵金屬材料製造用機械ノ
化學工業用機械

〔參照〕
昭和十二年九月十日公布法律第九十二號ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件ナリ

別紙附表

一　切削研磨用金屬工作機械

	細分類	備考
旋盤	普通旋盤	
	タレット旋盤	
	自動旋盤	
	竪正面旋盤	
	卓上旋盤	
	工具二番取旋盤	
	クランク軸旋盤	
	車輪旋盤	
	其ノ他ノ旋盤	
ボール盤	ラヂアルボール盤	
	竪形ボール盤	
	手加減ボール盤	
	多軸ボール盤	
	卓上ボール盤	
	ネヂ切旋盤、離レ旋盤、多數バイト旋盤、車軸旋盤、ロール旋盤、倣旋盤、突切旋盤、其ノ他ノ旋盤	

中グリ盤	移動ボール盤 其ノ他ノボール盤	横ボール盤、深孔ボール盤等 正面中グリ盤ヲ含ム
	横中グリ盤 ジク中グリ盤 精密中グリ盤 其ノ他ノ中グリ盤	(フアインボーリングマシン) シヤフト、ボーリングマシン、砲身中グリ盤、心殘中グリ盤、其ノ他ノ中グリ盤
フライス盤	横フライス盤 竪フライス盤 萬能フライス盤 平削フライス盤 其ノ他ノフライス盤	(プラノミラー) 卓上フライス盤、ネヂ切フライス盤、倣フライス盤、其ノ他ノフライス盤
研磨盤	横研磨盤 内能研磨盤 萬面研磨盤 平面研磨盤 工具研磨盤	(プレン、グラインダー) 横形、竪形萬能工具研磨盤、バイト研磨盤、錐研磨盤、其ノ他ノ工具研磨盤
	歯車研磨盤 ネヂ研磨盤 心無研磨盤 ラップ盤 砥上盤 其ノ他ノ研磨盤	(ホーニング、マシン) 軸用研磨盤(クランク軸、カム軸、スプライン、シヤフト等)ロール研磨盤 其ノ他ノ研磨盤
歯切盤	ホブ盤 歯車形削盤 傘車歯切盤 其ノ他ノ歯切盤	
平削盤	門形平削盤 片持平削盤 其ノ他ノ平削盤	竪形平削盤、縁削盤、其ノ他ノ平削盤
形削盤	竪削盤 其ノ他ノ形削盤	竪形削盤、其ノ他ノ形削盤
竪削盤	竪削盤	
金切鋸盤	金切弓鋸盤 金切圓鋸盤 金切帶鋸盤	
ブローチ盤	横ブローチ盤 竪ブローチ盤 其ノ他ノブローチ盤	
其ノ他	歯車面取盤 心立盤 リーマ盤 ネヂ立盤 鑪盤 キー溝盤 型彫盤 其ノ他	(キーシーター) (タイシンキングマシン) 彫刻機ヲ含ム

二 其ノ他ノ金属工作機械

	細分類	備考
プレス	クランク、プレス	

剪斷機	ネヂプレス	
打貫機	摩擦プレス	
壓延機	水壓プレス	
	火造プレス	
	其ノ他	
	直刃剪斷機	
	圓刃剪斷機	
	分塊壓延機	
	鋼板壓延機	
	條鋼壓延機	
	其ノ他ノ壓延機	
ロール	曲ロール	
	歪取ロール	
	蒸氣槌	
	空氣槌	
	落槌	
	バネ槌	
槌機	其ノ他ノ槌機	
		棒鋼壓延機型鋼壓延機 線材壓延機ヲ含ム

退職積立金及退職手當法

法律第四十二號(昭和十一年六月二日)

第一章 總則

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニシテ常時五十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノニ之ヲ適用ス

一 工場法ノ適用ヲ受クル工場

二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業

主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限リ本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

第二條 本法ノ適用ヲ受クル事業カ規模ノ縮少其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テ事業主其ノ旨ヲ行政官廳ニ屆出ツル迄ハ前條ノ規定ニ拘ラス仍本法ヲ適用ス

第三條 第一條第一項各號ノ事業ニシテ本法ノ適用ヲ受ケサルモノノ事業主退職積立金、退職手當積立金又ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ間スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ事業ニ第十一條、第十六條及第十七條中積立ノ率ニ關スル規定竝ニ第三十條第三項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ヲ廢止又ハ變更セントスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ勞働者カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ其ノ勞働者ト從前ノ事業主トノ間ニ本法ニ依リテ生シタル法律關係ハ承繼人ニ移轉ス

前項ノ場合ニ於テ積立金ノ承繼ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セラルル勞働者ノ中左ニ掲クル者ニハ本法ヲ適用セス但シ第一號若ハ第二號ニ

該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ適用ス

一　六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　日日雇入レラルル者

三　季節的事業ニ使用セラルル者

前項第三號ノ季節的事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條　賃金及標準賃金ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　行政官廳ハ事業主ニ對シ本法ニ依ル積立金ノ積立若ハ運用、退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給其ノ他本法ノ施行ニ關スル事項ニ付必要ナル檢査ヲ爲シ又ハ事業主ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條　本法ニ依リ事業主ノ積立ツヘキ退職手當積立金及準備積立金ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相當スル額以下トス

第九條　本法ノ適用ヲ受クル事業カ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テ退職積立金支拂又ハ退職手當支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ仍本法ヲ適用ス

第十條　本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二章　退職積立金

第十一條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各勞働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツヘシ

災害其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラス積立ヲ爲サス又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十二條　勞働者退職（解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同シ）其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ非サレハ前條ノ退職積立金ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條　事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル上勞働者ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ勞働者ノ退職積立金ヲ運用スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムル額ノ國債ヲ供託スヘキコトヲ命スルコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ前項ノ國債ノ增額ヲ命スルコトヲ得

勞働者ハ事業主ノ運用シタル退職積立金ニ關シ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ退職積立金ヲ運用シタル場合ニ於テ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ事業主ハ運用シタル金額ニ前條第一項ノ利子ヲ附シタルモノヲ退職積立金トシテ其ノ勞働者ニ支拂フヘシ

第十五條　退職積立金ノ支拂ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第三章　職退手當

第十六條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ運滯ナク積立ツヘシ

災害其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラス積立ヲ爲サス又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十七條　事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以內ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル金額ヲ退職手當積立金トシテ運滯ナク積立ツヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條　前二條ノ退職手當積立金ハ計算期毎ニ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ勞働者別ニ計算ヲ明ニスヘシ但シ前條ノ退職手當積立金ニ限リ事業主豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勤務年限、勤務狀態其ノ他ニ依リ異ル率ヲ以テ勞働者別ニ計算スルコトヲ得

第十九條　事業主ハ退職手當積立金ヨリ生シタル利子（第二種所得稅又ハ資本利子稅ヲ課セラレタルトキハ之ヲ差引キタル金額）及第二十一條第一項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ運滯ナク積立ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ヲ明ニスヘシ

第二十條　退職手當積立金ノ積立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ財產ト分別シテ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

一　郵便貯金

二　銀行ヘノ預金

三　金錢信託

四　登錄國債

第二十一條　事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ退職手當積立金ヲ運用スルコトヲ得

第十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用

ス

第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

第二十三條 退職手當積立金ノ拂戻又ハ償還ヲ受タルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ本法ニ依ル退職手當ヲ受クヘキ者第二十四條第一項第一號ノ金額又ハ第二十六條第一項ノ特別手當ノ金額ニ付差押フルコトヲ妨ケス

第二十四條 勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ事業主ハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

一 第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ勞働者ノ計算ニ屬スル金額

二 第十六條第一項ノ規定ニ依ル積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額

前項第一號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給シ退職手當積立金ヲ以テ之ヲ支給スルコト能ハサルトキハ事業主ノ他ノ財產ヨリ之ヲ支給スヘシ

第一項第二條ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得ス

勞働者死亡シタル場合ニ於テハ退職手當ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給スヘシ

第二十五條 前條第一項但書ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セサル金額ヲ生シタルトキハ事主ハ第二十六條第一項ノ特別手當ニ充ツル爲ノ積立金(特別手當積立金)トシテ之ヲ保留スヘシ

第二十六條 事業主事業ノ都合ニ依リ勞働者ヲ解雇シタルトキハ退職手當トシテ第二十四條第一項ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ達スル迄ノ金額(特別手當)ヲ加算シテ支給スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ加算スルコトヲ要セス

一 勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二 勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クヘキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金カ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラサルトキハ其ノ支給ヲ受クヘキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額ト爲スヘシ

第二十四條第二項ノ規定ハ特別手當ノ支給ニ之ヲ準用ス

第二十七條 事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ特別手當積立金ノ限度ヲ定メタルトキハ其ノ限度ヲ超ユル金額ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ金額ニ之ヲ充當スヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十八條 事業主ハ第十九條第二項ノ計算期ニ於テ退職手當積立金ノ缺損ヲ塡補シ餘剩ヲ積立ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ餘剩ヲ積ツル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ勞働者別ニ計算ヲ明ニスヘシ

第二十九條 本法ニ依ル退職手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第三十條 事業主退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ノ廢止又ハ變更ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

事業主ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ少クトモ勤續一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當(事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分、勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給スヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ第一項ノ準備積立金ニ、第二十四條第四項、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ退職手當ニ之ヲ準用ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ準備積立金ノ增額ヲ命スルコトヲ得

第四章 退職金審査會

第三十一條 退職積立會ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ニ付民事訴訟ヲ提起スルニハ退職金審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十二條 退職金審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 罰則

第三十三條 事業主第二十一條第一項(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケスシテ退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

事業主法人ナル場合ニ於テ前項ノ許可ヲ受ケサルニ拘ラス其ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキ其ノ者ニ付亦前項ニ同シ

第三十四條　事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條第二項、第十一條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條（第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第二十四條第一項第四項（第三十條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條（第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第四十一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第十三條第二項、第三項（第二十一條第二項、第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十七條又ハ第三十條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキ

三　第三條第一項、第三十條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル準備積立金ノ積立ヲ爲ササルトキ

四　第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スヘキ退職手當トシテ勤續一年ニ付標準賃金十二日分以内ニ相當スル金額（事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分以内、勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分以内ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ）ヲ支給セサルトキ

第三十五條　第七條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サス若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キヲ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事業主ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第三十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十二年一月一日ヨリ施行）

第三十九條　第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ最初ノ積立金ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條　勞働者第十六條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ積立ノ最初ノ期間中ニ退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テハ第二十四條第一項第二號ノ金額ハ本法適用後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額トス

第四十一條　事業主及勞働者ノ出捐ニ係ル組合カ本法施行ノ際現ニ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十一條ニ規定スル退職積立金竝ニ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ組合カ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ依リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ支給スヘキ金額ヲ支給セサルトキノ事業主ハ組合ノ支給セサル金額ニ相當スル金額ヲ勞働者ニ支給スヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十二條　事業主本退施行ノ際現ニ使用スル勞働者ノ本法施行前ノ勤務ニ對スル退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ

準備積立金ニ、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ退職手當ニ之ヲ準用ス

第四十三條　本法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依ル退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ支給スヘキ退職手當ハ其ノ差額ヲ支給スルヲ以テ足ル

第四十四條　國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同シ

第四十五條　郵便貯金法第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

五　退職積立金及退職手當法ニ依ル積立金ノ預入金

退職積立金及退職手當法施行令

勅令第四百十四號（昭和十一年十一月二十八日）

第一章　總　則

第一條　退職積立金及退職手當法ノ賃金ノ範圍ハ當時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ揭クルモノヲ除ク

一　三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當

二　通勤手當

三　住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ

四　其ノ他內務大臣ノ指定スルモノ

第三條　退職積立金及退職手當法ノ標準賃金ハ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ算定シタル金額トス

前項ノ規定ニ依ル金額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シテ事業主適當ナル金額ヲ定ムヘシ

第四條　退職積立金及退職手當法第八條ノ賃金ハ左ノ各號ノ金額ノ合算額トス

一　退職積立金及退職手當法第八條ノ期間ノ末日ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金

二　退職積立金及退職手當法第八條ノ期間中ニ退職（解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同シ）其ノ他ノ事由ニ因リ同法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル勞働者ノ賃金ニシテ退職手當積立金及準備積立金ノ積立ノ基準ト爲シタル金額

第五條　道府縣又ハ道府縣ト勞働者トノ出捐ニ係ル組合カ退職手當積立金及退職手當法ニ準スル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テハ道府縣ハ同法第十一條ニ規定スル退職手當積立金若ハ同法第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サ又ハ同法第十一條若ハ第十六條及第十七條ニ規定スル率ト異ナル率ノ積立ヲ爲スコトヲ得

第六條　事業主ハ退職積立金、退職手當積立金及準備積立金並ニ退職手當ニ關シ計算ヲ爲ス場合ニ於テ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

第七條　本令中行政官廳トアルハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

第二章　退職積立金

第八條　退職積立金トシテ積立ツヘキ金額ノ計算ハ數ヶ事業主ノ定メタル一月以內ノ一定ノ期間中ノ賃金ニ依リ之ヲ爲スモノトス

事業主ハ退職積立金トシテ積立ツヘキ金額ヲ前項ノ期間每ニ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スヘシ但シ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコト能ハサルトキハ其ノ次ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコトヲ得

市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ又ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノト勞働者トノ出捐ニ係ル組合カ退職積立金及退職手當法ニ準スル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同シ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條　退職積立金ノ積立ハ前條第二節ノ規定ニ依ル控除ノ都度遲滯ナク之ヲ爲スヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ一定ノ時期ニ取纏メ積立ヲ爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前節ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條　退職積立金ノ積立ハ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ勞働者ノ他ノ財產ト分別シテ郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託、登逢國債其ノ他確實ナル方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ積立ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ支拂ニ付事業主ノ證明ヲ必要トスル方法ニ依リ之ヲ爲シ通帳又ハ證書ハ事業主之ヲ保管スヘシ

登逢國債ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ登逢ノ變更又ハ除却等其ノ登錄國債ニ關スル請求ハ事業主之ヲ爲シ其ノ登錄國債ノ元利金ノ支拂又ハ登錄除却ノ場合ニ於ケル證券ノ引渡ハ日本銀行之ヲ事業主ニ爲スヘシ

第十一條　退職積立金ノ積立ハ郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲スコトヲ以テ、登錄國債ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ甲種國債登錄簿ニ退職積立金タル旨

ノ記載ヲ爲スコトヲ以テ之ヲ爲ス

郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ郵便官署、銀行又ハ信託會社其ノ受入又ハ引受ヲ爲シタルトキハ事業主ノ請求ニ依リ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲シ尙貯金原簿又ハ之ニ準スヘキ帳簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スヘシ

登錄國債ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ日本銀行ハ事業主ノ請求ニ依リ甲種國債登錄簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スヘシ

第十二條 勞働者退職其ノ他ノ事由ニ依リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テハ事業主ハ勞働者カ退職積立金ノ支拂ヲ受クルニ必要ナル事業主ノ爲スヘキ手續ヲ遲滯ナク完了スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ事業主ハ退職積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スヘシ

第十三條 事業主ハ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ依リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ勞働者ノ貸金ヨリ控除シタル金額ニシテ積立ヲ爲ササルモノアルトキハ之ヲ支拂フヘシ

第三章 退職手當

第十四條 事業主ハ退職積立金及退職手當法第十六條ノ規定ニ依ル退職手當積立金ノ積立ニ關スル計算ノ期間ヲ定メ豫メ行政官廳ニ屆出ツヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ計算ノ期間ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十五條 退職積立金及退職手當法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ退職手當積立金ノ計算ハ其ノ計算ノ期間中ニ於ケル退職積立金ノ計算ノ期間毎ニ勞働者別ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 退職手當金及退職手當法第十七條ノ規定ニ依ル退職手當積立金ノ積立ニ關スル計算ノ期間ハ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度個人タル事業主ニ在リテハ曆年トス

第十七條 退職積立金及退職手當法第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ退職手當積立金ノ額ハ左ノ各號ヲ標準トスルモノトス

一 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル割合カ年百分ノ五ヲ超エ年百分ノ七・五以內ナルトキハ貸金ノ百分ノ一、年百分ノ七・五ヲ超エ年百分ノ十以內ナルトキハ貸金ノ百分ノ二、年百分ノ十ヲ超ユルトキハ貸金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ利益配當金額カ拂込株金額又ハ出資金額ノ年百分ノ五ノ割合ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得

二 個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金

額カ一萬圓ヲ超エ二萬圓以內ナルトキハ貸金ノ百分ノ一、二萬圓ヲ超エ三萬圓以內ナルトキハ貸金ノ百分ノ二、三萬ヲ超ユルトキハ貸金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ純益金額ノ百分ノ六十カ六千圓ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得

前項ノ事業年度ハ當該事業年度又ハ直前ノ事業年度、曆年ハ當該曆年又ハ直前ノ曆年トシ事業主ノ選擇スル所ニ依ル但シ選擇シタル事業年度又ハ曆年ハ勞働者ノ不利益ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス

行政官廳事業主ノ爲シタル利益配當金額、純益金額又ハ積立ノ金額ノ算定不當ナリト認ムルトキハ積立ノ金額ヲ更正シテ認可スルコトヲ得

詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ認可ヲ受ケタル者ニ對シテハ行政官廳ハ其ノ認可シタル金額ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十八條 第十一條ノ規定ハ退職手當積立金及準備積立金ニ之ヲ準用ス

第十九條 郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託又ハ登錄國債ノ方法ニ依リ積立ヲ爲シタル退職手當積立金又ハ準備積立金カ退職手當積立金又ハ準備積立金タラサルニ至リタルトキハ事業主ハ退職手當積立金又ハ準備積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スヘシ

第二十條 法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金

ハ左ニ揭クル者ノ中一人ニ退職手當ヲ支給スヘシ但シ勞働者ノ遺言又ハ事業主ニ對シテ爲シタル讓告ニ依リ左ニ揭クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一　勞働者ノ家督相續人又ハ戶主

二　勞働者ノ兄弟姉妹ニシテ勞働者ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

三　勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第四章　退職金審査會

第二十四條　退職金審査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ヲ審査ス

第二十五條　退職金審査會ノ管轄區域ハ道府縣ノ區域トシ其ノ名稱及位置ハ內務大臣之ヲ定ム

第二十六條　退職金審査會ハ會長一人及委員九人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十七條　會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係各官廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ內務大臣之ヲ命ス

學識經驗アル者ノ中ヨリ命セラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第二十八條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第二十九條　退職金審査會ニ幹事及書記ヲ置ク關係各廳ノ官吏中ヨリ地方長官之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條　審査ハ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及ヒ退職手當法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル際其ノ使用セラレタル事業ノ所在地ヲ管轄スル退職審査會ニ於テ之ヲ爲ス

前項ノ事業ノ所在地數府縣ニ亙ル場合ニ於テハ之ヲ管轄スル退職金審査會ハ內務大臣之ヲ指定ス

第三十一條　審査ノ請求ハ請求ノ趣旨ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ハ文書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　審査ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ使ル

第三十四條　審査ハ之ヲ公開セス

第三十五條　工場監督官職務監督官其ノ他ノ關係官吏ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十六條　審査請求人又ハ關係人ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ事件ニ關スル說明ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　退職金審査會審査ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ會長ハ之ヲ所轄退職金審査會ニ移送スヘシ

第三十八條　審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　退職金審査會ハ前條ノ決定書ノ謄本ヲ作成シ遲滯ナク之ヲ審査請求人ニ交付スヘシ

審査請求人ニ對シ決定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ退職金審査會ハ其ノ決定書ノ謄本ヲ揭示板ニ揭示スヘシ

第四十條　審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

附　則

本令ハ退職積立金及退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

退職積立金及退職積立法適用後初テ第八條第二項ノ規定ニ依リ賃金ヨリ控除スヘキ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

退職積立金及退職手當法適用後初テ同法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ退職手當積立金ノ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

退職積立金及退職手當法施行規則

內務省令第四十六號（昭和十一年十一月三十日）

第一條　退職積立金及退職手當法（以下法ト稱ス）第一條ノ規定ニ依リ法ノ適用ヲ受クルニ至リタル事業ノ事業主ハ左ニ揭クル事項ヲ十日以內ニ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ニ屆出ツヘシ第一號又ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ニ付亦同シ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所（法人タル事業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名以下之ニ同シ）

三　常時使用勞働者數

四　法ノ適用ヲ受クルニ至リタル年月日

第二條　事業主其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三條　法第二條ノ屆出ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數
四　法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル事由
五　退職積立金及退職手當積立金ノ現在高竝ニ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ有スルモノニ在リテハ準備積立金ノ現在高及支給スヘキ退職手當ノ金額

第四條　法第三條第一項ノ許可ノ申請ハ退職積立金、退職手當積立金又ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數
法第三條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ
一　規程ヲ廢止又ハ變更セントスル理由
二　規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程及前條第五號ノ事項規程ヲ變更セントスル場合ハ其ノ規程

第五條　營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ勞働者ノ全部カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ積立金ノ全部ニ付勞働者ノ一部カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ左ノ各號ノ積立金ニ付從前ノ事業主及承繼人ハ名義ノ變更其ノ他必要ナル手續ヲ爲スヘシ

一　引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ニ屬スル退職積立金
二　退職手當積立金中勞働者別ニ計算ヲ明ニシタルモノニ付テハ引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ノ計算ニ屬スル金額
三　退職手當積立金中特別手當積立金トシテ保留シタルモノニ付テハ各勞働者ノ標準賃金ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ニ付得タル金額
四　準備積立金ニ付テハ各勞働者ノ標準賃金ニ勤續年數ヲ乘シタル額ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ニ付得タル金額

前項ノ場合ニ於テ勞働者ノ一部カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ法第十九條第二項又ハ法第二十八條ノ規定ニ依ル計算又ハ積立ノ期日到來シタルモノト看做シ之ヲ爲スヘシ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合亦同シ

第六條　承繼人ハ從前ノ事業主トノ連署ヲ以テ左ニ揭クル事項ヲ事業ノ承繼アリタル日ヨリ十日以內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主（事業ノ承繼人及從前ノ事業主）ノ氏名及住所
三　事業ノ承繼ノ事由及全部承繼又ハ一部承繼ノ別
四　引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者數
五　承繼シタル積立金

第七條　退職積立金及退職手當法施行令（以下令ト稱ス）第二條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　使用勞働者現在數
四　標準報酬日額ノ平均額
五　勞働者一人當リ一日ノ勞務ニ對スル賃金ノ平均額
六　報酬日額四圓ヲ超ユル勞働者數

第八條　事業主ハ毎年二月十五日迄ニ前年ニ於ケル退職手當積立金及準備積立金ノ積立竝ニ退職積立金ノ支拂及退職手當又ハ之ニ代ルヘキモノノ支給ノ狀況ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九條　法ノ適用ヲ受クル事業カ事業ノ廢止其ノ他ノ理由ニ因リ法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ハ事業主ハ遲滯ナク退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給ヲ完了シタル上其ノ顚末ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十條　令第五條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主（事業ノ承繼人及從前ノ事業主）ノ氏名及住所
三　事業ノ承繼ノ事由及全部承繼又ハ一部承繼ノ別
四　引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者數
五　組合ノ組織（組合規約又ハ之ニ準スヘキモノヲ添付スルコト）
六　退職積立金ニ代ルヘキ事項
七　退職手當ノ支給ニ代ルヘキ事項

令第五條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事ヲ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　事業主ハ退職積立金臺帳ヲ調製シ勞働者別ニ左ニ揭クル事項及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　退職積立金トシテ控除シタル金額
二　退職積立金トシテ積立テタル金額
三　退職積立金ヨリ生シタル利子
四　積立方法別金額
五　退職積立金ヲ運用シタル金額及退職積立金ヘ積戻シタル金額

第十二條　法第十一條第二項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項

ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　災害其ノ他已ムヲ得サル事由ノ具體的事項及積立ノ程度

第十三條　法第十三條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　運用セントスル金額及期間

四　支拂又ハ積戻ノ確保ニ關スル方法

五　利率

第十四條　法第十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ供託ヲ命セラレタル事業主ハ事業ノ所在地ニ於テ供託ヲ爲スヘシ

前項ノ事業主供託ヲ爲シタルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書ノ寫ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

地方長官法第十三條第四項ノ禮利ノ實行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書又ハ退職積立金ニ關スル帳簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十五條　事業主ハ退職手當積立金遞帳ヲ調製シ左ニ揭クル事項及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　勞働者毎ニ法第十六條、法第十七條及第十九條ノ積立金（法第二十八條ノ積立金ヲ含ム）別ニ積立テタル金額及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十七條　事業主ハ特別手當積立金明細簿ヲ調製シ特別手當積立金トシテ保留シタル金額、特別手當トシテ支給シタル金額及退職手當積立金ニ充當シタル金額竝ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十八條　第十二條ノ規定ハ法第十六條第二項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　法第十七條ノ認可ノ申請ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後遲滯ナク前條第一項各號ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十條　前條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　期間末ニ於ケル勞働者數及其ノ期間中ノ賃金ノ額

四　積立テントスル退職手當積立金ノ金額及前號ノ賃金ノ額ニ對スル割合

五　法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル拂込株金額又ハ出資金額利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル年割合、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額

前條第二項ノ認可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項竝ニ退職手當積立金ノ額ヲ定ムル標準ヲ記載スヘシ

第二十一條　事業主第十九條第二項ノ規定ニ依リ法第十七條ノ認可ヲ受ケタル場合ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後遲滯ナク前條第一項各號ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

テハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後一月以內ニ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ認可ノ申請ハ當該事業年度又ハ曆年終了前ニ準メ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條　前條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　期間末ニ於ケル勞働者數及其ノ期間中ノ賃金ノ額

四　積立テントスル退職手當積立金ノ金額及前號ノ賃金ノ額ニ對スル割合

五　法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル拂込株金額又ハ出資金額利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル年割合、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額

前條第二項ノ認可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項竝ニ退職手當積立金ノ額ヲ定ムル標準ヲ記載スヘシ

第二十一條　事業主第十九條第二項ノ規定ニ依リ法第十七條ノ認可ヲ受ケタル場合ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後遲滯ナク前條第一項各號ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十二條　法第十七條但書ノ許可ノ申請ハ第二十條第一項第一號乃至第三號及第五號ノ事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　法第十八條但書ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　勞働者別計算ノ概要

第二十四條　事業主ハ豫メ法第十九條第二項ノ一定ノ計算期ヲ定メ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ計算期ハ每年一回以上タルコトヲ要ス

法第十九條第一項ノ退職手當積立金ニシテ勞働者別ニ計算ヲ明ニセサル金額ハ當該計算期ニ於ケル勞働者ノ直前ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ノ明ナル退職手當積立金ノ額及直前ノ計算期ニ於ケル特別手當積立金ノ額ニ之ヲ按分シテ計算ヲ明ニスヘシ

第二十五條　第十三條ノ規定ハ法第二十一條第一項ノ許可ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　第十四條ノ規定ハ法第二十一條第二項、法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ之ヲ準用ス

第二十七條　勞働者左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇

セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ履傭セラレタルコト

二　營業ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ事業ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第二十八條　勞働者勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

一　事業ノ風紀ヲ甚シク紊シタルコト

二　業行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勞務不熱心又ハ勞務ニ耐カサルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

勞働者勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スヘシ

第二十九條　勞働者勤續三年未滿ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給セサルコトヲ得

勞働者勤續三年以上ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スルコトヲ得但シ二分ノ一ヲ超エテ減額スルコトヲ得ス

勞働者退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

一　負債、疾病又ハ老衰ノ爲業務ニ堪ヘサルトキ

二　就業規則又ハ之ニ準スヘキモノニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女子勞働者カ結婚スルトキ

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第三十條　勞働者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ依リ又ハ第二十七條各號若ハ第二十八條第一項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十六條第一項ノ特別手當ハ之ヲ加算スルコトヲ要セス

第三十一條　法第二十七條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　當時使用勞働者數

四　特別手當積立金ノ限度ト爲サントスル金額

五　健康保險法ニ依リ使用勞働者ニ付定メタル標準報酬日額ノ合計額

法第二十七條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ當時使用勞働者數ニ著シキ增加アリタルトキハ前項第三號及第五號ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十二條　第二十四條第三項ノ規定ハ法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ餘剩ヲ積立ツル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　法第三十條第一項ノ許可ノ申請ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　常時使用勞働者數

四　退職手當ニ關スル規程

五　組合ノ組織（組合規約又ハ之ニ準スヘキモノヲ添附スルコト）

六　退職積立金ニ代ルヘキ事項

七　退職手當ノ支給ニ代ルヘキ事項

第三十四條　第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ法第三十條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　第十三條ノ規定ハ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　第二十四條第一項及第二項ノ規定ハ法第三十條第四項ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　法第四十一條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　常時使用勞働者數

四　退職手當ニ關スル規程

五　組合ノ組織（組合規約又ハ之ニ準スヘキモノヲ添附スルコト）

六　退職積立金ニ代ルヘキ事項

七　退職手當ノ支給ニ代ルヘキ事項

法第四十一條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ヲ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十八條　法第四十二條ノ許可ノ申請ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數
四　法施行前ヨリ引續キ使用スル勞働者數

第三十九條　事業主ハ準備積立金臺帳ヲ調製シ左ニ揭クル事項及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　準備積立金トシテ積立テタル金額
二　準備積立金ヨリ生シタル利子及餘剩ヲ積立テタル金額
三　準備積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額
四　積立方法別金額
五　準備積立金ヲ運用シタル金額及準備積立金ヘ積戻シタル金額

第四十條　事業主ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ勞働者ニ周知セシムヘシ

第四十一條　第十一條第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ帳簿ハ之ヲ合併スルコトヲ妨ケス

第四十二條　退職積立金及退職手當ニ關スル帳簿其ノ他重要ナル書類ハ事業每ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ帳簿又ハ書類ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事業主ノ義務ヲ完了シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第四十三條　事業主ハ法又ハ法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スヘキ事項ニ付總メ代理人ヲ選任シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四十四條　本令中地方長官トアルハ鐵業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鐵山監督局長トス

第四十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條、第二條、第六條、第八條、第十四條第二項（第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第二十一條、第二十四條第一項（第三十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）第三十一條第二項又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ若ハ其ノ屆出ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者
二　第五條ノ規定ニ依ル手續ヲ怠リタル者
三　第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ規定ニ依ル帳簿ノ調製若ハ記載ヲ怠リ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者
四　第十四條第三項（第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者
五　第四十條又ハ第四十二條ノ規定ニ違反シタル者

附則

本令ハ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

退職積立金及退職手當法ノ供託國債ニ對スル權利ノ實行ニ關スル件

勅令第四百五十號（昭和十一年十二月二十二日）

第一條　事業主支拂ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ支拂ヲ停止シタルトキハ退職積立金及退職手當法第十三條第二項及第三項ノ供託國債ニ付同條第四項ノ權利ヲ有スル勞働者ハ當該事業ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ權利ノ實行ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ニ對スル裁判ハ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第二條　申立ニ對スル裁判ハ事業主ニ之ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ裁判ニ對シテハ申立人又ハ事業主ハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ卽時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第三條　申立ヲ理由アリトスル裁判ハ退職積立金及退職手當法第十三條第二項及第三項ノ供託國債ニ付同條第四項ノ權利ヲ有スル勞働者全員ノ爲ニ其ノ效力ヲ有ス

申立人前項ノ裁判ノ告知ヲ受ケタル後ハ申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　前條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ公告ヲ以テ前條第一項ノ勞働者ニ對シ三十日以上ノ一定ノ期間內ニ債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ハ裁判所ノ爲スヘキ登錄事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所第一項ノ催告ヲ爲シタルトキハ地方長官又ハ鐵山監督局長ニ對シ國債ノ供託書及退職積立金ニ關スル帳簿其ノ他必要ナル書類ノ送付ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五條　第三條第一項ノ裁判確定シタルトキハ裁判所ハ執達吏ヲシテ國債ヲ換價セシムルコトヲ要ス

第六條　裁判所ハ第四條第一項ノ期間滿了後遲滯ナク配當表ヲ作ルコトヲ要ス

裁判所配當表ニ關スル陳述及配當實施ノ期日ヲ指定シタルトキハ第三條第一項ノ勞働者及事業主ニ對シ各別ニ其ノ旨ヲ通知シ且之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第七條　配當期日ニ出頭セサル勞働者ノ債權、期日ニ於テ異議ノ完結セサル債權及退職積立金及退職手當法第十二條ノ規定ニ依リ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ得サル勞働者ノ債權ニ對スル配當額ハ債權者ノ爲ニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第八條　國債換價及配當ノ手續ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

第九條　前八條ノ規定ハ退職積立金及退職手當法第十三條第四項ノ規定ヲ準用スル同法第二十一條第二項、第三十條第四項及第四十二條ノ權利ヲ實行スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ退職積立金退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

退職積立金及退職手當法施行細則

警視廳令第一號（昭和十二年一月十八日）

退職積立金及退職手當法施行細則左ノ通定ム

退職積立金及退職手當法施行細則

第一條　退職積立金及退職手當法（以下法ト稱ス）、退職積立金及退職手當法施行令（以下令ト稱ス）、退職積立金及退職手當法施行規則（以下規則ト稱ス）、又ハ本令ニ依リ警視總監ニ提出スヘキ申請書（正副二通）又ハ屆書ハ事業所在地管轄警察署長ヲ經由スヘシ

第二條　事業主ハ法第十一條ノ規定ニ依ル退職積立金、法第十六條、第十七條ノ規定ニ依ル退職手當及之カ支給ニ關スル規程ヲ定メタルトキハ其ノ規程ノ外左ノ事項ヲ具シ警視總監ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所（法人タル事業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名）

三　常時使用勞働者數

第三條　事業主ハ退職手當積立金ノ積立方法（銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ラントスルトキハ其ノ銀行名又ハ信託會社名）ヲ豫メ警視總監ニ屆出ツヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第四條　事業主ハ退職積立金ノ運用ニ關スル勞働者ノ同意ヲ得タルトキハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ保存スヘシ

第五條　規則第八條ノ規定ニ依ル退職積立金、退職手當積立金及準備積立金ノ積立竝退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給狀況報告ハ別記樣式ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條　規則第九條ノ規定ニ依ル退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給ヲ完了シタル顚末報告書ニハ左ニ揭クル事項ヲ具シ別記樣式ニ依リ其ノ年月以降ノ狀況ヲ記載スヘシ

一　法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル年月日及其ノ事由

二　退職積立金支拂ノ勞働者別金額

三　退職手當支給ノ勞働者別金額

四　支拂及支給完了ノ年月日

第七條　規則第四十三條ノ規定ニ依ル代理人ノ選任屆ニハ其

ノ履歷書ヲ添附スヘシ

第八條　法、令、規則又ハ本令ニ依ル申請又ハ屆出ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式省略）

退職積立金及退職手當法ニ關スル規程準則

準則第一

退職積立金及退職手當規程

第一章　總　則

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル退職積立金ノ積立、退職手當金ノ積立及退職手當ノ支給ハ本規程ニ依リ之ヲ爲ス

第二條　本規程ハ當會社（工場）（鑛山）ニ使用セラルル職工（鑛夫）ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第二章　退職積立金

第三條　當會社ハ職工ノ每月ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ每月〇日ニ支拂ハルヘキ賃金ヨリ控除シ職工（鑛夫）ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ每年三月、六月、九月及十二月ニ取纏メ郵便局（〇〇銀行）ニ預入ル

通帳（證書）ハ當會社ニ於テ之ヲ保管ス

第四條　一月ノ勞働日數〇日以下ナルトキハ其ノ月ノ退職積立金ノ控除ヲ爲サス

災害其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ許可ヲ受ケ退職積立金ノ控除ヲ爲サス又ハ減額シテ控除スルコトアルヘシ

第五條　職工退職（解雇ヲ含ム）又ハ死亡シタルトキハ還滯ナク通帳ヲ返還ス

第三章　退職手當

第六條　當會社ハ每事業年度末（六月末日及十二月末日）ニ於ケル職工其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以內ニ於テ認可ヲ得タル金額及其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ郵便局（〇〇銀行）ニ預入ル

第七條　退職手當積立金ハ六月末日及十二月末日ニ於テ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ職工別ニ計算ヲ明ニス

第八條　職工退職又ハ死亡シタルトキハ左ノ各號ノ金額ヲ退

職手當トシテ支給ス

一　第七條ノ規定ニ依リ其ノ職工ノ計算ニ屬スル金額

二　第六條ノ積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額

第九條　勤續三年未滿ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

勤續三年以上(十年未滿)ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第十條　職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ト看做サス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二　當會社ノ定ムル就業規則(雇傭勞役規則)ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク(尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ)

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第十一條　職工勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第八條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルトキ

第十二條　勤續三年以上十年未滿ニシテ前各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第八條ノ退職手當ハ之ヲ三分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第十三條　第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セサル金額ヲ生シタルトキハ特別手當積立金トシテ之ヲ保留ス

第十四條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ退職手當トシテ第八條ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ違スル迄ノ金額(特別手當)ヲ加算シテ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第十一條第一項各號及第十二號各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ之ヲ加算セサルコトアルヘシ

一　勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二　勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クヘキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金カ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラサルトキハ其ノ支給ヲ受クヘキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額トス

第十五條　勤續期間ノ計算ハ職工傭入ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ本規程施行前ヨリ引續キ使用セラルル者ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ起算ス

第十六條　職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金及退職手當法施行令ノ定ムル順位ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

附　則

本規程ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

準則第二

退職手當及準備積立金規定(其ノ一)

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル當會社(工場)(鑛山)ノ退職手當ハ本規定ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　本規定ハ當會社ニ使用セラルル職工(鑛夫)ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第三條　本規定ニ於テ標準賃金トハ退職時ニ於テ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ヲ謂フ

前項ノ標準報酬日額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ酌酌シ適當ナル額ヲ當會社ニ於テ定ム

第四條　職工退職又ハ死亡シタルトキハ勤續一年ニ付標準賃金○○日分ニ相當スル退職手當ヲ支給ス

前項ノ退職手當ハ在職中功勞アリタル職工ニハ之ヲ增額スルコトアルヘシ

第五條　勤續三年未滿ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルト

キハ前條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

勤續三年以上十年未滿(六年未滿)ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第六條 職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ニ依ル退職ト看做サス

一 負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二 當會社ノ定ムル就業規則(履備勞役規則)ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四 女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク(尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ)

五 其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第七條 職工勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルベシ

一 工場ノ風紀ヲ甚シク素シタルコト

二 素行著シク不良ナルコト

三 戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四 戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勤務ニ不熱心又ハ勤務ニ堪カサルコト

五 其ノ他前各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

職工勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第八條 職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ヲ支給セサルコトアルヘシ

一 重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ履備セラレタルモノナルコト

二 營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三 故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破シタルコト

四 正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五 其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第九條 職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ左ノ特別手當ヲ加算シテ之ヲ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第七號第二項各號及第八條各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ解雇セラレタルトキハ之ヲ加算セサルコトアルヘシ

一 勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二 勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

第十條 勤續期間ノ計算ハ職工僱入ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ本規程施行前ヨリ引續キ使用セラルル者ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ起算ス

勤續期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十一條 職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金及退職手當法施行令ノ定ムル所ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十二條 當會社ハ退職手當支給ニ充ツル爲準備積立金トシテ每事業年度末(六月末日及十二月末日)ニ於ケル職工ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ〇ニ相當スル金額ヲ郵便局(〇〇銀行)ニ預入ル

前項ノ準備積立金ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ運用スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規定施行前ノ職工ノ勤務ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ退職手當ヲ支給ス

準則第三

退職手當及準備積立金規定(其ノ二)

第一條 退職積立金及退職手當法ニ依ル當會社(工場)(鑛山)ノ退職手當ハ本規定ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 本規程ハ當會社ニ使用セラルル職工(鑛夫)ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第三條 本規程ニ於テ標準賃金トハ退職時ニ於テ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ヲ謂フ

前項ノ標準報酬日額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ酌酌シ適當ナル額ヲ當會社ニ於テ定ム

第四條 職工退職又ハ死亡シタルトキハ別表第一號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス但シ第五條又ハ第七條乃至第九條ニ規定スル場合ハソノ規定ニ依ル

第五條 職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ別表第二號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス

第六條 職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ニ依ル退職ト看做サス

一 負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二 當會社ノ定ムル就業規則(履備勞役規則)ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク（尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ）

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第七條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ別表第三號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス

一　工場ノ風紀ヲ甚シク素シタルコト

二　素行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勤務ニ不熱心又ハ勤務ニ說カサルコト

五　其ノ他各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

第八條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ退職手當ヲ支給セス

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第九條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ別表第四號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第七條各號及前條各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　職工在職中功勞アリタル場合又ハ同情スヘキ事由アリト認メタル場合ハ前六條ノ規定ニ拘ラス退職手當ヲ增額シ又ハ特ニ支給スルコトアルヘシ

第十一條　勤續期間ノ計算ハ職工傭入ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ本規程施行前ヨリ引續キ使用セラルル者ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ起算ス

勤續期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十二條　職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金及退職手當法施行令ノ定ムル所ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十三條　當會社ハ退職手當支給ニ充ツル爲準備積立金トシテ每事業年度末（六月末日及十二月末日）ニ於ケル職工ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ〇ニ相當スル金額ヲ郵便局（〇〇銀行）ニ預入ル

前項ノ準備積立金ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ運用スルコトアルヘシ

附　則

本規程ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
一年未滿	一日ニ付二・二五ノ割合	
滿一年	一五	一・二五
同二年	三〇	
同三年	四五	
同四年	六〇	
同五年	七五	
同六年	九〇	
同七年	一〇五	
同八年	一二三	
同九年	一四一	
同十年	一五九	一・五〇
同十一年	一七七	
同十二年	一九五	
同十三年	二一三	
同十四年	二三一	
滿十五年	二五五	二・〇〇
同十六年	二七九	
同十七年	三〇三	
同十八年	三二七	
同十九年	三五二	
同二十年	三七五	
同二十一年	三九九	
同二十二年	四二三	
同二十三年	四四七	
同二十四年	四七一	
同二十五年	四九五	
同二十六年	五一九	
同二十七年	五四三	
同二十八年	五六七	
同二十九年	五九一	

本規程施行前ノ職工ノ勤務ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ退職手當ヲ支給ス

第二號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
一年未滿	—	—
滿一年	—	—
同二年	—	—
同 年	—	—
同 年	—	—

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
同　三　年	一一三・五	〇・六一五
同　四　年	一三〇	
同　五　年	一三七・五	
同　六　年	一四五	
同　七　年	一五一・五	
同　八　年	一六三	一・五〇
同　九　年	一七一	
同　十　年	一七九	
同十一年	一八七	
同十二年	一九五	
同十三年	二一三	
同十四年	二三一	
滿十五年	二五五	
同十六年	二七九	
同十七年	三〇三	
同十八年	三三七	
同十九年	三五一	
同二十年	三七五	
同二十一年	三九九	
同二十二年	四二三	
同二十三年	四四七	二・〇〇
同二十四年	四七一	
同二十五年	四九五	
同二十六年	五一九	
同二十七年	五四三	
同二十八年	五六七	
同二十九年	五九一	

第三號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
一年未滿	—	—
滿一年	—	
同二年	—	
同三年	三一・五	一・一五
同四年	三〇	
同五年	三七・五	
同六年	四五	〇・六二五
同七年	五二・五	
同八年	六〇	
同九年	六七・五	
同十年	七五〇	
同十一年	八二五	
同十二年	九〇	一・二五
同十三年	九七・五	
同十四年	一〇五	
同十五年	一一二・五	
滿十六年	一二四三	一・五〇
同十七年	一三五八	
同十八年	一四七三	
同十九年	一五八八	
同二十年	一七〇三	
同二十一年	一八一七	
滿十二年	一九三一	二・〇〇
同十三年	二〇四五	
同十四年	二一六〇	
同十五年	二二七五	
同十六年	二四〇二	
同十七年	二五二七	
同十八年	二六四二	
同十九年	二七五六	

第四號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數（特別ノ事情ニ依リ支給日數ヲ增減スル場合ニ於テハ其ノ增減シタル日數）
一年未滿	一・二五月ノ二相當	
滿一年	三五	
同二年	五〇	
同三年	八〇	
同四年	九五	
同五年	一一〇	
同六年	一二五	
同七年	一四〇	
同八年	一五八	
同九年	一七六	
滿十年	一九四	
同十一年	二一二	一・五〇
同十二年	二三〇	
同十三年	二四八	
同十四年	二六六	
同十五年	二九〇	
同十六年	三一四	
同十七年	三三八	
同十八年	三六二	
同十九年	三八六	
同二十年	四一〇	
同二十一年	四三四	
同二十二年	四五八	二・〇〇
同二十三年	四八二	
同二十四年	五〇六	
同二十五年	五三〇	
同二十六年	五五四	
同二十七年	五七八	
同二十八年	六〇二	
同二十九年	六二六	

（依前法第三十條ノ退職手當及退職手當積立金規程ヲ定メラルルノ後十二箇月ヲ經過スル迄ハ其ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ合衆國政府ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム）

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル當會社(工場)(鑛山)ノ退職手當ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　本規程ハ當會社ニ使用セラルル職工(鑛夫)ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第三條　本規程ニ於テ標準賃金トハ退職時ニ於テ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ヲ謂フ

前項ノ標準報酬日額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シ適當ナル額ヲ當會社ニ於テ定ム

第四條　職工退職又ハ死亡シタルトキハ勤續一年ニ付標準賃金〇〇日分ニ相當スル退職手當ヲ支給ス

前項ノ退職手當ハ在職中功勞アリタル職工ニハ之ヲ增額スルコトアルヘシ

第五條　勤續三年未滿ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

勤續三年以上十年未滿(七年未滿)ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第六條　職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ニ依ル退職ト看做サス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二　當會社ノ定ムル就業規則(服務勞役規則)ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク(尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ)

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第七條　職工勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　工場ノ風紀ヲ甚シク素シタルコト

二　素行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勤務ニ不熱心又ハ勤務ニ耐カサルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

職工勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第八條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ履傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第九條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ左ノ特別手當ヲ加算シテ之ヲ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第七條第一項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ之ヲ加算セサルコトアルヘシ

一　勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二　勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

第十條　勤續期間ノ計算ハ職工傭入ノ日ヨリ之ヲ起算ス

勤續期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十一條　職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金及退職手當法施行令ノ定ムル所ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十二條　當會社ハ退職手當支給ニ充ツル爲準備積立金トシテ每事業年度末(六月末日及十二月末日)ニ於ケル職工ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ〇(法第三十條ノ準備積立金百分ノ〇、法第四十二條ノ準備積立金百分ノ〇)ニ相當スル金額ヲ郵便局(〇〇銀行)ニ預入ル

前項ノ準備積立金ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ運用スルコトアルヘシ

退職積立金及退職手當法願屆書類及備付簿册ノ一覽表

適用最初ニ必要トスルモノノ例

- 退職積立金及退職手當法
  - 適用屆(規一)
  - 標準報酬日額計算許可申請(令二ノ二)
  - 代理人選任屆規(四三)
- 備付帳簿
  - 退職手當積立金制度
    - 法第十六條
    - 法第十七條
    - 準備積立金制度
      - 法第三十條
      - 法第四十二條
  - 退職積立金
    - 退職手當積立金規程作成屆(細二)
      - 積立方法屆(細三)
      - 法第十六條ノ計算期間屆(令一四)
      - 利子計算期屆(規二四ノ一)
    - 退職積立金
      - 積立方法許可申請(令一〇ノ一)
      - 取纏積立許可申請(令九)
      - 積立免除許可申請(法二一ノ二)
    - 準備積立金
      - 法第三十條第一項許可申請(規三三ノ一)
      - 法第四十二條許可申請(規三八)
  - 退職手當積立金制度
    - 1 退職積立金臺帳 第二號樣式甲 規一一
    - 2 退職手當積立金臺帳 第三號樣式甲乙 規一五
    - 3 退職手當積立金勞働者別明細簿 第四號樣式 規一六
    - 特別手當積立金明細簿 第五號樣式 規一七
    - 1及3ヲ併合セル參考樣式
  - 準備積立金制度
    - 1 退職積立金臺帳 第二號樣式 規一一
    - 2 準備積立金臺帳 第六號樣式 規三九
- 補助簿
  - 退職積立金臺帳補助簿
  - 退職手當積立金臺帳補助簿
  - 準備積立金臺帳補助簿

文部省關係

青年學校令

勅令第四十一號(昭和十年四月一日)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ青年學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム(總理、文部大臣副署)

青年學校令

第一條 青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛錬シ德性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二條 北海道府縣、市町村、市町村學校組合、町村學校組合及町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル町村又ハ町村學校組合ニ準スヘキ公共團體ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得

市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ青年學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

第三條 商工會議所、農會其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設置シタル青年學校ハ私立トス

第四條 私人ハ青年學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 青年學校ノ設置廢止ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

青年學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 青年學校ニ普通科及本科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ普通科又ハ本科ノミヲ置クコトヲ得

青年學校ニハ研究科ヲ置クコトヲ得

第七條 普通科ノ教授及訓練期間ハ二年トス

本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年、女子ニ在リテハ三年トス但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテハ二年ト爲スコトヲ得

研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス

第八條 普通科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス

本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ普通科修了者、高等小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス

研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス

第九條 普通科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科竝ニ體操科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科、家事及裁縫科竝ニ體操科トス

本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普

通學科、職業科竝ニ教練科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科、家事及裁縫科竝ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科ノ教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ムヘシ但シ修身及公民科ハ之ヲ缺クコトヲ得ス

教授及訓練科目ノ程度ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　青年學校ニハ特別ノ事項ヲ修得セシムル爲專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　青年學校ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第十二條　青年學校ノ教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條　青年學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條　青年學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス但シ道府縣立ノ學校ニ在リテ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　本令ニ依ラサル學校ハ青年學校ト稱スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校ノ本科ノ教授及訓練期間ハ土地ノ情況ニ依リ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ當分ノ內之ヲ三年ト爲スコトヲ得

青年學校ノ專任教員ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ當分ノ內之ヲ置カサルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ存スル公立ノ實業補習學校及青年訓練所ハ之ヲ本令ニ依リ設置シタル青年學校ト看做ス

前項ノ青年學校ニシテ本令ニ依リ難キモノハ本令施行後六月ヲ限リ仍從前ノ實業補習學校及青年訓練所ノ例ニ依リ教育ヲ爲スコトヲ得

青年學校規程

文部省令第四號（昭和十年四月一日）

青年學校規程左ノ通定ム

青年學校規程

第一條　青年學校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スヘシ

一　名稱
二　位置
三　學則
四　生徒概數
五　開校年月
六　經費及維持ノ方法

前項第一號、第二號及第五號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二項第二號ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、校舍其ノ他ノ建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條　青年學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ申請スヘシ

第三條　青年學校ノ設置者ヲ變更セントスルトキハ第一條第一項第一號乃至第四號及第六號ノ事項竝ニ變更ノ事由ヲ具シ道府縣立ノ學校ニ關スル場合ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ關スル場合ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　青年學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第五條　位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更竝ニ校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　青年學校ハ學校、試驗場、講習所等ニ併設スルコトヲ得

第七條　青年學校ニハ土地ノ情況ニ依リ分教場ヲ設クルコトヲ得

第八條　普通科ノ各年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一號表女子ニ在リテハ第二號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第一號表

教授及訓練科目 ＼ 年	第一年	第二年
修身及公民科	二〇	二〇
普通學科	九〇	九〇
職業科	六〇	六〇
體操科	四〇	四〇
合計	二一〇	二一〇

第二號表

教授及訓練科目 ＼ 年	第一年	第二年
修身及公民科	二〇	二〇

普通學科	八〇
職業科	
家事及裁縫科	八〇
體操科	三〇
合計	二一〇

本科ノ各年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第三號表、女子ニ在リテハ第四號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ但シ男子ニ於テ教授及訓練期間ヲ四年ト爲シタル場合ニ在リテハ第三號表ノ第一年乃至第四年、女子ニ於テ教授及訓練期間ヲ二年ト爲シタル場合ニ在リテハ第四號表ノ第一年及第二年ノ時數以上トス

第三號表

教授及訓練科目＼年	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年
修身及公民科	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
普通學科	五〇	五〇			
職業科	七〇	七〇	九〇	九〇	九〇
教練科	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇

研究科ノ各年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第九條 青年學校ノ專修科ノ教授及訓練期間、入學資格、專修項目其ノ他必要ナル事項ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

專修科ニ於テハ專修項目ノ外修身及公民科ヲ課スヘシ

第十條 青年學校ノ教授及訓練ハ土地ノ情況ニ應シ適當ナル時刻及季節ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十一條 青年學校ノ入學期ハ每年四月トス但シ特別ノ事情アル者ハ中途之ヲ入學セシムルコトヲ得

第十二條 特別ノ事情アル者ハ其ノ年齡及素養ニ應シ之ヲ普通科第二年又ハ本科若ハ研究科ノ第二年以上ニ入學セシムルコトヲ得

第十三條 他ノ青年學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スルモノアルトキハ之ヲ相當科ノ相當年ニ入學セシムルコトヲ得

第十四條 學校長ハ生徒ニシテ特別ノ事由ニ依リ一時他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ヲ受クルコトヲ志望スルモノアルトキハ其ノ期間其ノ生徒ノ教授及訓練ヲ他ノ青年學校ニ委託スルコトヲ得

第十五條 學校長ハ普通科ノ課程ヲ修了シタル者ニハ修了證、本科ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證ヲ授與スヘシ

第十六條 公立青年學校ニハ生徒ノ教育ヲ擔任セシムル爲指導員ヲ置クコトヲ得

指導員ハ地方長官之ヲ囑託ス

指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十七條 青年學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 科竝ニ教授及訓練期間ニ關スル事項

二 教授及訓練科目竝ニ教授及訓練時數ニ關スル事項

三 教授及訓練ノ時刻竝ニ季節ニ關スル事項

四 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

五 入學、退學等ニ關スル事項

六 其ノ他必要ナル事項

前項第一號及第二號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三號乃至第六號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ開申スヘシ

第十八條 青年學校ニハ學籍簿及出席簿ヲ備フヘシ

第十九條 青年學校ニ於テハ平素生徒ヲシテ其ノ修學情況ヲ明ニスヘキ手帳ヲ所持セシムヘシ

第二十條 青年學校ニ於テハ臨時講習ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

實業補習學校規程項青年訓練所規程ハ之ヲ廢止ス

青年學校令附則第二及ノ青年學校ノ本科ノ各年ニ於ケル教授及訓練時數ハ四百二十時以上トシ各教授及訓練科目ニ付夫々第八條第三號表ノ第一年ノ時數ヲ下ラサルモノトス

青年學校教員資格規程

文部省令第五號（昭和十年四月一日）

青年學校教員資格規程左ノ通定ム

青年學校教員資格規程

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ青年學校ノ教員タルコ

第四號表

教授及訓練科目＼年	第一年	第二年	第三年	合計
修身及公民科	二〇	二〇	二〇	二一〇
普通學科	五〇	五〇	五〇	二一〇
職業科	一一〇	一一〇	一一〇	二一〇
家事及裁縫科				
體操科	三〇	三〇	三〇	一八〇
合計	二一〇	二一〇	二一〇	一八〇

トヲ得

一　青年學校教員養成所ヲ卒業シタル者

二　實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者

三　小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

四　文部大臣ノ指定シタル者

第二條　職業、家事又ハ裁縫ニ關スル特別ノ知識技能ヲ有スル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ青年學校ノ教員タルコトヲ得

第三條　前條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其ノ擔任セントスル教授及訓練科目ヲ記載シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ申請スヘシ

第四條　公立青年學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立青年學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ設置者ニ於テ第一條及第二條ノ資格ヲ有セサル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得

前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立青年學校ニ在リテハ教諭及助教諭ト稱スルコトヲ得ス

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニアラサレハ公立青年學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得ス

一　青年學校教員養成所ヲ卒業シタル者

二　實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者

三　小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ六年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ

青年學校以外ノ公立學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラス公立青年學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得

第六條　青年學校ニ於テ第四條ニ依リ採用スル教員數ノ制限ニ關シテハ地方長官ノ定ムル所ニ依ルヘシ

附　則

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　青年學校教員養成所令附則第三項ノ青年學校教員養成所ニシテ修業年限二年未滿ノモノヲ卒業シタル者ハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ三年以上助教諭ノ職ニ在リタル場合ニ限ル

第九條　本令中助教諭ノ在職年數ノ計算ニ付テハ從前ノ公立實業補習學校ハ之ヲ公立青年學校ト看做ス

第十條　從前ノ公立實業補習學校ハ第五號第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校ト看做ス

第十一條　本令施行前ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條第三號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル者ハ之ヲ第一條第四號ノ規定ニ依リ指定シタルモノト看做ス

第十二條　本令施行前ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ實業補習學校

ノ教員タルコトヲ認可シタル者ハ之ヲ第二條ノ規定ニ依リ認可シタルモノト看做ス

第十三條　從前ノ實業補習學校教員養成所又ハ大正九年文部省令第三十四號附則第五項ノ規定ニ依リ實業補習學校教員養成所ト看做サレタルモノヲ卒業シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校教員養成所ヲ卒業シタルモノト看做ス但シ修業年限未滿ノモノニ在リテハ第五條第五十一項ノ適用ニ付テハ三年以上助教諭ノ職ニ在リタル場合ニ限ル

第十四條　本令施行前ニ於テ大正九年文部省令第三十四號附則第三項ノ規定ニ依リ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有シタル者ハ之ヲ本令ニ依リ青年學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スルモノト看做ス

東京府關係

青年學校施行細則

東京府令第三十二號（昭和十年六月一日）

第一章　總　則

第一條　青年學校設置認可ノ申請書ニハ青年學校規程（以下規程ト稱ス）第一條第一項ノ外左記事項ヲ具備スヘシ

一　級ノ編成豫定表

二　職員數、職員ノ俸給及手當豫算額

三　收支豫算書

四　設置者カ市町村學校組合、町村學校組合ナルトキハ組合規約、商工會議所、農會其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ナルトキハ定款、會則又ハ之ニ準スヘキモノ、個人ナルトキハ履歷書、私法人ナルトキハ定款又ハ寄附行爲

規程第一條第三項ノ規定ニ依ル圖面ニハ體操場及實習場ノ區域面積、各教室ノ配置竝ニ照明設備ノ情況ヲ併セ記載スヘシ但シ規程第六條ノ規定ニ依リ學校其ノ他ニ併設ノ場合ニ於テハ青年學校ニ專用若ハ併用スル設備ニ就キ明示スヘシ

第二條　青年學校ノ名稱ニハ「青年學校」ノ文字ヲ附シ公立ニ在リテハ其ノ設置者名ヲ私立ニ在リテハ「私立」ノ文字ヲ冠スヘシ

第三條　青年學校廢止ノ認可ヲ受ケタルトキハ學籍簿及出席簿ハ公立ニ在リテハ學校所在ノ市町村長之ヲ保管シ私立ニ在リテハ設置者之ヲ知事ニ引繼クヘシ

第四條　規程第五條ノ規定ニ依ル校地ノ變更、校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ノ認可申請書ニ添付スヘキ圖面ハ第一條第二項ニ準スヘシ

專用ノ校舍其ノ他ノ建物ヲ建設セントスルトキハ前項圖面ノ外仕樣書其ノ他建築ニ必要ナル圖面、工事費ノ收支豫算

書ヲ添付スヘシ

第五條　規程第七條ノ規定ニ依リ分教場ヲ設ケタルトキハ管理者又ハ設置者ニ於テ設置ノ事由期日、位置、設備、收容生徒數其ノ他必要ナル事項ヲ具シ知事ニ開申スヘシ

分教場ヲ廢止シタルトキハ管理者又ハ設置者ニ於テ廢止ノ事由、期日、生徒ノ處分方法其ノ他必要ナル事項ヲ具シ知事ニ開申スヘシ

第六條　青年學校令（以下令ト稱ス）第十四條但書ノ規定ニ依リ授業料徵收ノ認可ヲ受ケントスルトキハ設置者ニ於テ其ノ事由及授業料額ヲ具シ且收支豫算書ヲ添ヘ申請スヘシ其ノ額ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二章　科及課程

第七條　一ノ學校ノ本科又ハ研究科ニ教授及訓練期間ヲ異ニスルニ以上ノ科ヲ置クコトヲ得

第八條　普通科、本科及研究科ヲ教授及訓練時數、時刻又ハ職業科ノ種別ヲ異ニスルニ以上ノ部ニ分ツコトヲ得

第九條　普通科、本科又ハ研究科ノ生徒ヲシテ同時ニ專修科ノ課程ヲ衆修セシムルコトヲ得

第十條　專修科ノ教授及訓練期間ハ三月以上トナス

第十一條　令附則第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ設置者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一　短縮ノ事由竝ニ其ノ期間

二、各年ノ教授及訓練科目別時數

三　教授及訓練ノ季節竝ニ時刻

四　級ノ編制竝ニ職員ノ組織

第三章　教授及訓練

第十二條　普通科及本科ノ教授及訓練科目ニ於テハ令第一條ノ旨趣ニ遵ヒ生徒ノ性別、年齡竝ニ土地ノ情況ニ鑑ミ左ノ要旨ニ依リ適切ナル教授及訓練ヲ爲スヘシ

一　修身及公民科ニ在リテハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ國民道德ノ要領及公民心得ヲ授ケテ日常生活ヲ完ウスルニ足ルヘキ知德ヲ涵養シ實踐躬行ニ導クモノトス

二　普通學科ニ在リテハ國語、國史、地理、數學、理科、實業等ノ事項ニ就キ之ヲ綜合的ニ授ケ日常生活ニ須要ノ知識技能ヲ增進スルト共ニ德性ノ涵養ニ資スルモノトス

三　職業科ニ在リテハ農業、工業、商業、水產等ニ必要ナル知識技能ヲ修得セシメ兼ネテ勤勞ヲ重ンスル習慣ヲ養ヒ職業ニ於ケル能率ノ增進ヲ圖ルモノトス

四　家事及裁縫科ニ在リテハ家庭生活ノ實際ニ適切ナル家事及裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ工夫力ヲ練リ節約利用ノ習慣ヲ養フモノトス

五　教練科ハ各個教練、部隊教練、陣中勤務、軍事講話及體操ヲ授ケ心身ヲ鍛錬シ堅忍剛毅ノ精神ト規律ヲ重ン

シ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フモノトス

六　體操科ハ體操、教練、競技及遊戲等ヲ授ケ以テ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ之ヲ强健ニシ動作ヲ輕捷ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ規律ヲ重ンシ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フモノトス

第十三條　研究科ノ教授及訓練ハ前條ノ要旨ニ依リ更ニ精深ノ程度ニ授クヘシ

第十四條　專修科ノ專修項目ハ珠算、簿記、速記、タイプライチング、英語、製圖、家具、塗工、園藝、養蠶、農產加工、手藝、洗染、刺繍等ニツキ適宜之ヲ定ムヘシ

第十五條　學校長ハ教授及訓練細目ヲ定ムヘシ

第十六條　教科書ヲ採用セントスルトキハ學校長ニ於テ其ノ圖書名、編纂者、發行所、定價及使用ノ科、年ヲ具シ豫メ知事ニ開申スヘシ

第四章　教授及訓練ノ委託

第十七條　規程第十四條ノ規定ニ依ル委託ノ場合ニ於テハ學校長ハ當該生徒ノ氏名、在學科、年、出席時數、委託期間其ノ他必要ナル事項ヲ具シタル書類ヲ委託セントスル學校長ニ送付スルト共ニ其ノ生徒ノ青年學校手帳ニ出席時數其ノ他必要ナル事項ヲ記入證明スヘシ

前項ノ委託ヲ受ケタル學校長ハ特別ノ事情アル場合ノ外其ノ委託ニ應スヘシ

第十八條　受託學校長ハ受託期間滿了シタルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ教授又訓練ヲ止メタルトキハ其ノ生徒ノ出席時數其ノ他必要ナル事項ヲ委託學校長ニ通知スルト共ニ青年學校手帳ニ記入證明スヘシ

第十九條　委託學校長ハ前條ノ通知ニ依リ當該生徒ノ學籍簿ヲ整理スヘシ

第五章　入學、轉學、退學、修了及卒業

第二十條　第一年ニ入學セシムヘキ者ノ年齡ハ普通科ニ在リテハ十二年以上、本科ニ在リテハ十四年以上トス

第二十一條　住所移轉等ノ事由ニ依リ他ノ青年學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ當該生徒ノ履修シタル課程、出席時數其ノ他必要ナル事項ヲ學籍簿ニ記載シ轉學先學校長ニ其ノ寫ヲ送付スルト共ニ青年學校手帳ニ記入證明スヘシ

轉學先學校長ハ特別ノ事由アル場合ノ外前項生徒ノ入學ヲ許可スヘシ

第二十二條　休學又ハ退學ヲ願出テタル生徒アルトキハ學校長ハ正當ナル事由アリト認メタル場合ニ限リ之ヲ許可スヘシ

前項ニ依リ休學又ハ退學ヲ許可シタルトキハ前條第一項所定ノ事項ヲ學籍簿ニ記載シ且青年學校手帳ニ記入證明スヘシ

第二十七條　課程ノ修了及卒業ノ認定ハ出席時數其ノ他平素ノ學修情況等ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十四條　規定第十五條ノ規定ニ依リ授與スヘキ修了證ハ別記第一號樣式ニ卒業證ハ別記第二號樣式ニ依ルヘシ

研究科又ハ專修科ノ課程ヲ修了シタル者ニハ前項樣式ニ準スル修了證ヲ授與スルコトヲ得

第六章　職員

第二十五條　令附則第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ設置者ニ於テ專任教員ヲ置カサル事由、其ノ期間竝ニ職員組織ヲ具シ收支豫算書ヲ添ヘ申請スヘシ

第二十六條　青年學校教員資格規程（以下資格規定ト稱ス）第四條ノ規定ニ依ル教員數ハ當該學校教員數ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ管理者又ハ設置者ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十七條　私立青年學校ニ於テ學校長ヲ採用セントスルトキハ設置者ヨリ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　氏名
二　履歷
三　給料又ハ手當額

第二十八條　私立青年學校ニ於テ教員ヲ採用シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ設置者ヨリ遲滯ナク知事ニ開申スヘシ

一　氏名

二　履歷
三　擔任ノ教授及訓練科目竝ニ時數
四　給料又ハ手當額
五　採用年月日

第二十九條　私立青年學校ニ於テ資格規程第四條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ前條各號ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

第三十條　私立青年學校ニ於テ學校長又ハ教員ヲ解嘱シタルトキハ其ノ年月日ヲ具シ設置者ヨリ遲滯ナク知事ニ開申スヘシ

第七章　雜則

第三十一條　青年學校ニハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　青年學校關係法令竝ニ例規綴
二　學則、教授及訓練細目竝ニ其ノ配當表
三　學籍簿竝ニ出席簿
四　修了證竝ニ卒業證授與臺帳
五　學校日誌、學校一覽表
六　職員ノ履歷書綴竝ニ出勤簿
七　公文書綴
八　其ノ他必要ナル書類

第三十二條　私立青年學校設置者ヨリ知事ニ提出スヘキ書類ハ當該學校所在ノ市（東京市ニ在リテハ區）町村長ヲ經由スヘシ

市（東京市ニ在リテハ區）町村長前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ精査ノ上遲滯ナク進達スヘシ

第三十三條　町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年六月東京府令第四十三號青年訓練所細則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

第　號

修了證

氏名
年月日生

校印

右者本校普通科ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス

年月日

何青年學校長位勳功爵　氏名㊞

第二號樣式

第　號

本業證

氏名
年月日生

校印

右者本校本科ノ課程ヲ卒業シタルコトヲ證ス

年月日

何青年學校長位勳功爵　氏名㊞

青年學校學則標準告示

東京府告示第三百三十七號（昭和十年六月一日）

青年學校學則標準左ノ通定ム

昭和十年六月一日

東京府知事　橫山助成

何青年學校學則

第一章　總則

第一條　本校ハ青年學校令ニ依リ(男女、男子、女子)青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛錬シ德性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二條　本校ハ何青年學校ト稱シ東京府何郡(市、町、村)何學校ニ併設ス

第二章　科竝ニ教授及訓練期間

第三條　本校ニ普通科、本科、研究科及專修科ヲ置ク

普通科(男子)

科目	課程	時數 第一年	第二年	計
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得	三〇	三〇	六〇
普通學科	國語、國史、地理、數學、理科、音樂等日常生活ニ須要ナル事項	一二〇	一二〇	二四〇
職業科	農業(工業、商業及水產等)ノ大要	八〇	八〇	一六〇
體操科	體操、教練、遊戲及競技	五〇	五〇	一〇〇
計		二八〇	二八〇	五六〇

普通科(女子)

科目	課程	時數 第一年	第二年	計
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得、作法	三〇	三〇	六〇
普通學科	國語、國史、地理、數學、理科、音樂等日常生活ニ須要ナル事項	一〇〇	一〇〇	二〇〇
職業科	農業(工業、商業及水產等)ノ大要	一一〇	一一〇	二二〇
家政及裁縫科	家事及裁縫ノ大要	四〇	四〇	八〇
體操科	體操、遊戲及競技	二八〇	二八〇	五六〇
計				

本科(男子)

科目	課程	時數 第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	計
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得	三〇	三〇	二五	二五	一三五	
普通學科	國語、國史、地理、數學、理科、音樂等日常生活ニ須要ナル事項	七〇	七〇	九五	九五	九五	六〇五
職業科	農業(工業、商業及水產等)ニ關スル須要ナル事項	九〇	九〇				
教練科	各個教練、部隊教練、陣中勤務、軍事講話、體操、競技及武道	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	四五〇
計		二八〇	二八〇	二一〇	二一〇	二一〇	一、一九〇

第四條　各科ノ教授及訓練期間左ノ如シ

普通科　男子及女子各二年
本科　男子五年、女子三年
研究科　男子及女子各二年
專修科　男子及女子各三月乃至一年

第三章　教授及訓練科目竝ニ時數

第五條　教授及訓練科目課程竝ニ時數左ノ如シ

本科（女子）

科目	課程	時數 第一年	時數 第二年	時數 第三年	時數 計
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得、作法	三〇	三〇	三〇	九〇
普通學科	國語、國史、地理、數學、理科、音樂等日常生活ニ須要ナル事項	六〇	六〇	六〇	一八〇
職業科	農業（工業、商業及水産等）ニ關スル須要ナル事項	一五〇	一五〇	一五〇	四五〇
家事及裁縫科	家事及裁縫上須要ナル事項	四〇	四〇	四〇	一二〇
體操科	體操、遊戲及競技	二八〇	二八〇	二八〇	八四〇
計					

研究科（男子）

科目	課程	時數 第一年	時數 第二年	時數 計
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得	二〇	二〇	四〇
職業科	地方農業（工業、商業及水産等）ニ適切ナル事項	九〇	九〇	一八〇
教練科	教練、體操、競技及武道	七〇	七〇	一四〇
計		一八〇	一八〇	三六〇

研究科（女子）

科目	課程	時數 第一年	時數 第二年	時數 計
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得、作法	二〇	二〇	四〇
職業科	地方農業（工業、商業及水産等）ニ適切ナル事項	一二〇	一二〇	二四〇
家事裁縫科	家事及裁縫上特ニ須要ナル事項	四〇	四〇	八〇
體操科	體操、遊戲及競技	一八〇	一八〇	三六〇
計				

專修科（男子）

科目	課程	時數
修身及公民科	國民德道ノ要旨、公民心得	二〇
專修科目	（珠算、簿記、速記、タイプライチング、英語、製圖、家具、塗工、圖畫、養蠶、農産加工等）	八〇
計		一〇〇

專修科（女子）

科目	課程	時數
修身及公民科	國民道德ノ要旨、公民心得、作法	二〇